# 宝蓮寺跡（No.374）

佐助二丁目 905 番 3

## 例　　言

1．本報は「宝蓮寺跡（鎌倉市No.374）」内の一部、佐助二丁目905番3地点（略称HRT0504）における個人専用住宅の建築にともなう埋蔵文化財発掘調査報告である。

2．調査期間：平成17年（2005）4月7日～同年7月8日　調査面積：72.99㎡
現地調査・整理作業の体制は以下の通りである。
調査担当者：原 廣志
調　査　員：須佐仁和・宇都洋平・田畑衣理・栂岡渓音・赤堀祐子
調査補助員：橋本和之・小野夏菜・銘苅春也・平山千絵
調査協力者：秋田公佑・大戸迫　猛・倉澤六郎・山崎一男(鎌倉市シルバー人材センター)
協力機関名：(社)鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉考古学研究所

4．本報執筆は、第1～3章を宇都があたり、第4章は調査員が協議して宇都・原が稿を草した。
本報の挿図・写真図版の作成には、小野・田畑・栂岡・平山が行った。
本報の掲載写真は、遺構の全景・個別を宇都・原があたり、出土遺物を須佐(仁)　が撮影した。
発掘調査における出土遺物、図面・写真などは鎌倉市教育委員会が保管している。

5．本報の凡例は、以下の通りである。
・挿図縮尺　　全側図：1/80　遺構図1/50　遺物図1/3
・遺物図　　ー・ー・ーは釉薬の釉際を示し、黒塗りは主にかわらけの墨書痕や灯明皿付着の油煤煙、漆器の朱描き文様を表現している。さらに遺物観察表において手づくねかわらけ 外底径の計測値は外底指頭痕と口縁部下位との稜部の数値を表わした。
・使用名称　　本文中の記述で「土丹」・「鎌倉石」と表記する石材は、丘陵基盤となる三浦・葉山岩層群の凝灰岩質泥岩及び砂岩のことである。

6．本遺跡の現地調査及び資料整理に際して多くの方々からご助言とご協力を戴いた。記して感謝の意を表したい（敬称略、五十音順）。
秋山哲夫・鍛冶屋勝二・池谷初恵・伊丹まどか・菊川　泉・菊川英政・古田戸俊一・五味文彦・汐見一夫・宗臺秀明・宗臺富貴子・鈴木絵美・鈴木弘太・玉林美男・中野晴久・松尾宣方・馬淵和雄

# 目　次

## 本　文　目　次

第一章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 93

1．遺跡の位置と地形
2．遺跡の歴史的環境

第二章　調査の概要 …… 98

1．調査の経過
2．測量軸の設定
3．層序と生活面

第三章　検出遺構と出土遺物 …… 103

1．第1面の遺構と遺物
2．第2面の遺構と遺物
3．第3面の遺構・遺物
4．第4面の遺構・遺物
5．第5面の遺構・遺物
6．第6面の遺構・遺物
7．第6面下トレンチ

第四章　まとめ …… 137

## 挿　図　目　次

図1　遺跡の位置と周辺旧跡 …… 93
図2　調査地点と周辺遺跡 …… 94
図3　国土座標とグリット設定図 …… 99
図4　調査区壁土層断面図 …… 100
図5　第1面遺構全図 …… 103
図6　第1面各遺構 …… 104
図7　第1面出土遺物 …… 105
図8　第2面遺構全図 …… 106
図9　第2面各遺構 …… 107
図10 第2面出土遺物 …… 108
図11 第3面遺構全測図 …… 109
図12 第3面土坑・ピット …… 110
図13 第3面土塁状遺構・溝1 …… 111
図14 第3面石列遺構 …… 112
図15 第3面出土遺物 …… 113
図16 第3面溝1出土遺物 …… 114
図17 第4面遺構全測図 …… 115
図18 第4面遺構（1） …… 116
図19 第4面遺構（2） …… 117
図20 第4面出土遺物（1） …… 118
図21 第4面遺構外出土遺物 …… 119
図22 第5面遺構全測図 …… 120
図23 第5面各遺構 …… 121
図24 第5面石列 …… 122
図25 第5面出土遺物 …… 123
図26 第6面遺構全測図 …… 124
図27 第6面礎石建物 …… 125
図28 第6面土坑1 …… 126
図29 第6面出土遺物 …… 127
図30 第6面下トレンチ …… 128
図31 調査地遺構変遷図 …… 137
図32 遺構変遷図 …… 138

# 表　目　次

表１　周辺の遺跡調査地点 …… 96
表２　遺物観察表（1）…… 129
表３　遺物観察表（2）…… 130
表４　遺物観察表（3）　…… 131
表５　遺物観察表（4）…… 132
表６　遺物観察表（5）　…… 133
表７　遺物観察表（6）…… 134
表８　遺物観察表（7）…… 135
表９　遺物観察表（8）…… 136
表10 遺物分類別出土数量・比率表 …… 139
表11 各面の遺物分類表 …… 140
表12 第３面　溝１遺物分類別 …… 140
表13 第３面　溝１かわらけ器種別分類 …… 140

# 図　版　目　次

図版１　１～８ 第１面全景・各遺構 …… 142
図版２　１～４ 第２面全景・各遺構 …… 143
図版３　１～３ 第３面全景 …… 144
図版４　１～７ 第３面土塁・溝 …… 145
図版５　１～３ 第４面全景・各遺構 …… 146
図版６　１～３ 第５面全景 …… 147
図版７　１～３ 第５面全景、第６面全景 … 148
図版８　１～６ 第６面各遺構、トレンチ … 149
図版９　１～５ 調査地内の遺構・地形 …… 150
図版10　第１・２面出土遺物 …… 151
図版11　第２・３面出土遺物 …… 152
図版12　第３面出土遺物 …… 153
図版13　第３面出土遺物 …… 154
図版14　第３・４面出土遺物 …… 155
図版15　第４面出土遺物 …… 156
図版16　第４・５面出土遺物 …… 157
図版17　第５面出土遺物 …… 158
図版18　第５・６面出土遺物 …… 159
図版19　第３・６面出土遺物 …… 160

# 第一章　遺跡の位置と歴史的環境

## 1．遺跡の位置と地形

図１　遺跡の位置と周辺旧跡

本遺跡は鎌倉市街地の北西部である佐助ヶ谷地区に位置し、JR鎌倉駅から直線でほぼ真西方へ約800mの距離、鎌倉市役所北側の鎌倉市佐助二丁目905番３に所在しており（図１）、神奈川県遺跡台帳の宝蓮寺跡（遺跡台帳No.374）地内に位置する。調査地点は佐助ヶ谷の開口部より北へ約750m奥に進んだ東側の小支谷、宝蓮寺ヶ谷の一角にある。葛原岡神社から源氏山方面に南へと延びる標高50 ～ 70m程の丘陵尾根を西に超えていくと、南北に長い佐助ヶ谷と呼ばれる谷戸が展開する。本調査地点のある宝蓮寺ヶ谷は大きく二つの平場によって構成されている。第一番目の平場は調査地の東側で谷の最奥部に形成されており、その地点より５mほど下がったところに山裾を造成した今回の調査地点がある広めの平場が形成されている。この平場の西端から通路を16mほど西方へ進むと、銭洗弁天へ向かう道路へとなだらかな傾斜を持ちながら下がっていく。本調査地点海抜高は36.5m前後を計り、佐助稲荷へ向かう前面の道路と

図２　調査地点と周辺遺跡

の比高差15m程である。

佐助ヶ谷は、鎌倉の中心市街地を形成する平野部のほぼ西よりを深く北上する大きな谷であり、開口部の幅約400m、奥行きは900mの主谷と多くの大小支谷で構成され、本調査地点の対西の小支谷には建久年間(1190 ～ 1199年)に畠山重忠により再建されたという佐助稲荷があり、北西支谷の山裾には宇賀福神社(通称銭洗弁天)が鎮座している。

## ２．遺跡の歴史的環境

本遺跡周辺は古代相模国鎌倉郡の中心域に属し、JR鎌倉駅西方で鎌倉市役所裏手に位置した市立御成小学校内(今小路西遺跡)の発掘調査では奈良~平安時代にかけての５時期にわたる古代遺構が発見されている。古代Ⅰ～Ⅲ期にかけては大型の掘立柱建物や柵列などが検出され、Ⅰ期の柵列柱穴からは天平五年(733)七月十四日の記年銘がある付札木簡が出土している。これら遺構はその配置から正殿や倉庫と思われる建物跡で古代鎌倉郡の郡家と推定されており、古代律令体制においてこの地域が鎌倉郡の中心地であったと考えられる。また調査地点裏山を挟んで南東に展開した無量寺ヶ谷から千葉ヶ谷にかけては７世紀後葉～８世紀代にかけての古瓦の出土が知られ、寺院跡などの存在が予想されている。

本遺跡が所在する「佐助ヶ谷」のについて触れる。地名の由来については佐助稲荷神社の社伝によれば「翁の姿にかえた神霊が佐殿源頼朝に平家討伐の旗揚げをすすめ頼朝を助けたので佐助になったという」という伝えがあり、もう一つは谷戸内に上総・千葉・常陸の三介の屋敷があって三介と呼ばれていたのが転訛したものという説もある。この地は中世に「佐介」と呼ばれたようで、『吾妻鏡』の北条時房(1175 ～ 1240)に関する記事を初見とする。時房は時政の子で六波羅探題や蓮著などを任じ、佐介氏を名乗って大仏殿とよばれていた。承久の乱(1221)には北条泰時とともに上洛、初代の六波羅探題となり、のちに蓮著として死没するまで任じた。その子の北条時盛(1197 ～ 1277)は寛元四年(1246)六月二十七日条に「入道大納言家渡御干入道越後守時盛佐介第…」(『吾妻鏡』)の記事がみられ、邸宅を構えていたことを窺い知ることができる。鎌倉幕府滅亡後には、山内上杉氏の上杉憲基の邸宅があったようである。しかし応永二十三年(1416)の上杉禅秀(氏憲)の乱では足利持氏が大倉御所からこの邸内に逃れてきたが、その際に焼き払われたようである(『鎌倉大草子』)。谷戸内の寺院をみると宝蓮寺をはじめ、大仏氏の祖にあたる北条朝直が創建した悟真寺、上杉憲顕創建の国清寺、鎌倉光明寺開山の然阿良忠が住侍していた蓮花寺の他、松谷寺・宝性寺・薬師堂・北斗堂・天狗堂などの諸寺院・堂の名前があげられる(『鎌倉廃寺事典』)。しかし現在では廃寺となり所在地の特定は難しく、わずかに支谷の字名にその名を留める小支谷から旧蹟を辿るたけであり、宝蓮寺もその中の廃寺の一つである。

本調査地点の遺跡名にもなっている宝蓮寺についてみると、開山・開基、存続年代、宗旨等は良くわかっていない。しかしながら『新編相模風土記稿』には佐介ヶ谷の内に「寶蓮寺谷」という支谷があるとし、また江戸時代中期の宝永年間に作成されたと考えられる『扇ヶ谷村絵図』には調査地点付近が「宝蓮寺跡畠」とある。また天保三年(1832)の作成という扇ヶ谷村の絵図にも同様の記載があるので、この支谷に宝蓮寺が所在しており、少なくとも江戸中期までには廃寺になっていたことが知られる。

なお、調査地点周辺の調査事例については表１「周辺の遺跡調査地点」を参照されたい。

表１　周辺の遺跡調査地点　　( )は県遺跡台帳番号

| No | 遺跡名 | 調査地点 | 遺跡の特徴・文献など |
|---|---|---|---|
| 1 | 宝蓮寺跡 (No.374) | 佐助二丁目897番11 | 遺構面３面の４時期、掘立柱建物・土坑・溝・溝状遺構・柵列・ピット多数など　13世紀後葉～14世紀前葉　宗臺・根本　1999 |
| 2 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目583番外 | 遺構面３面の約10時期に亘る平場造成、石垣状石列・基壇状遺構・土坑・溝など 13世紀後葉～14世紀中頃に営まれた寺地と推定　瀬田 2005 |
| 3 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目566番1 | 遺構面７面８時期、主に掘立柱建物（工房や倉）・基壇・井戸・門・池など寺院との大きな関わりを推定　13世紀後半～15世紀後半　斎木・瀬田・伊丹他　1993 |
| 4 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目496番4 | 中世に遡る３時期の河川流路跡など　佐助川の旧河道と推測　熊谷 2011 |
| 5 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目476番1 | 遺構面２面、礎石建物・石積遺構・土坑・据甕・ピット、旧佐助川の西岸など14世紀前半～15世紀前半　斎木・降矢　2002 |
| 6 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目476番1 | 遺構面４面の３時期、礎石建物・掘立柱建物・竪穴建物・土坑・溝・かわらけ溜りなど　13世紀後葉～14世紀中葉　原他　2004 |
| 7 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目450番５外 (Ａ区)・29外(Ｂ区) | 遺構面Ａ区４面・Ｂ区６面、柱穴列・土坑・ピット・岩盤削平面など 13世紀後葉～14世中葉　宮田・滝澤　2009 |
| 8 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目496番５ | 遺構面６面７時期、掘立柱建物・土坑・遺物溜り・ピット・岩盤削平面など 寺地の一画の可能性が高い　13世紀後半～14世紀代、斎木・降矢 2009 |
| 9 | 佐助ヶ谷遺跡 (No.203) | 佐助一丁目620番 | 比高差10m程の上下二段の平場、土坑(粘土採掘坑含む)・溝・ピット・礎石など　13世紀末葉～14世紀代　手塚・田畑　1989 |
| 10 | 佐助ヶ谷遺跡 (N0.203) | 佐助一丁目615番１外 | 遺構面３面 礎石建物・掘立柱建物・竪穴建物・据甕土坑群・粘土採掘土坑・井戸・溝・13世紀～15世紀代　斎木・降矢　2007 |

【引用・参考文献】


貫　達人　1971「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第８号

貫　達人・川副武胤　1980『鎌倉廃寺事典』

大三輪龍彦・手塚直樹・田畑佐和子　1989『佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目620番地点』　佐助ヶ谷遺跡発掘調査団

斎木秀雄・瀬田哲夫・伊丹まどか他　1993『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）　発掘調査報告書』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団

宗臺富貴子・根本志保　1999「宝蓮寺跡　佐助二丁目897番11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』15（第１分冊）鎌倉市教育委員会

斎木秀雄・降矢順子　2002「佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目476番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18（第１分冊）鎌倉市教育委員会

原　廣志・須佐直子　2004「佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目476番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20（第１分冊）鎌倉市教育委員会

瀬田哲夫　2005『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書　鎌倉市佐助一丁目583番外』（有）鎌倉遺跡調査会

宮田　眞・滝澤晶子　2009「佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目450番５外・29外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25（第１分冊）鎌倉市教育委員会

斎木秀雄・降矢順子　2009「佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目496番５」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

熊谷　満　2011「佐助ヶ谷遺跡　佐助一丁目469番４」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』27（第１分冊）鎌倉市教育委員会

河野眞知郎他　1990『今小路西遺跡（御成り小学校地内）発掘調査報告書』　今小路西遺跡発掘調査団

田代郁夫・原　廣志他　1991「1.佐助ヶ谷遺跡内やぐら」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』　佐助一丁目Ｂ地点　佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団

継　実　1994『平成４年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書　佐助ヶ谷遺跡内やぐら』　佐助二丁目801番１地点　佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団

田代郁夫・継　実他　1996「平成６年度鎌倉市内急傾斜崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書　佐助二丁目やぐら群」『中世石窟遺構の調査　―鎌倉所在の「やぐら」群―』佐助二丁目Ｂ地点

宮田　眞他　1997『佐助ヶ谷遺跡内やぐら　平成７年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』　佐助ヶ谷遺跡内やぐら発掘調査団

田代郁夫・宗臺秀明・宗臺富貴子他　1998「平成五年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書　松谷寺跡内やぐら」『中世石窟遺構の調査Ⅱ ― 鎌倉・六浦所在の「やぐら」群 ― 』 東国歴史考古学研究所調査研究報告第15集　東国歴史考古学研究所
宇都洋平・原　廣志　2006「宝蓮寺跡の調査」『第16回　鎌倉市遺跡調査・研究発表会』 鎌倉市教育委員会・鎌倉考古学研究所
菊川英政・宗臺富貴子　2006『鎌倉城(No.87)発掘調査報告書－御成町39番36地点－』（株）斎藤建設
宮田　眞・滝澤晶子・安藤龍馬　2011『松谷寺跡(No.205)発掘調査報告書（神奈川県鎌倉市佐助一丁目516－1外4筆）』(株)斎藤建設
宮田　眞・滝澤晶子　2008『無量寺跡（第4次）発掘調査報告書（鎌倉市扇ガ谷一丁目26番14地点）』（株）博通
※ 同遺跡内ではこの他に本地点北方の三か所で調査が実施されている。

# 第二章　調査の概要

## １．調査の経過

本調査地点は個人専用住宅の建設に先立つ発掘調査である。建設計画は鋼管杭の設置による基礎工事を内容とするものであったため、埋蔵文化財に影響を及ぼすと判断されたので鎌倉市教育委員会による遺構確認の試掘調査が行われた。その結果、現地下20～30cmまで現代表土が確認され、その直下は中世遺物包含層をほとんど含まずに四時期の遺構面（生活面）の存在が確認された。その遺構面伴い遺構・遺物が明らかになり、建築工事による埋蔵文化財への影響が避けられないと判断されたので発掘調査を実施する運びとなった。

現地調査は平成17年４月７日に機材搬入、重機により試掘データに基づいて遺構面を傷つけないように地表下20cm程までの表土層を除去した後、以下を人力により掘り下げて遺構検出をおこなった。調査面積は72.99㎡が対象ある。調査の結果、礎石建物、土坑、溝、築地塀、ピットなどにより構成された遺構群が検出され、それに伴い13世紀後葉～14世紀中葉にかけての遺物であるかわらけ・陶磁器類・金属製品などの六時期の生活面が検出された。同年７月８日までの間に必要な記録作業をおこない、同日に機材撤収して現地調査を終了した。調査の経過については、以下に主な作業内容を日誌抜粋で記しておく。

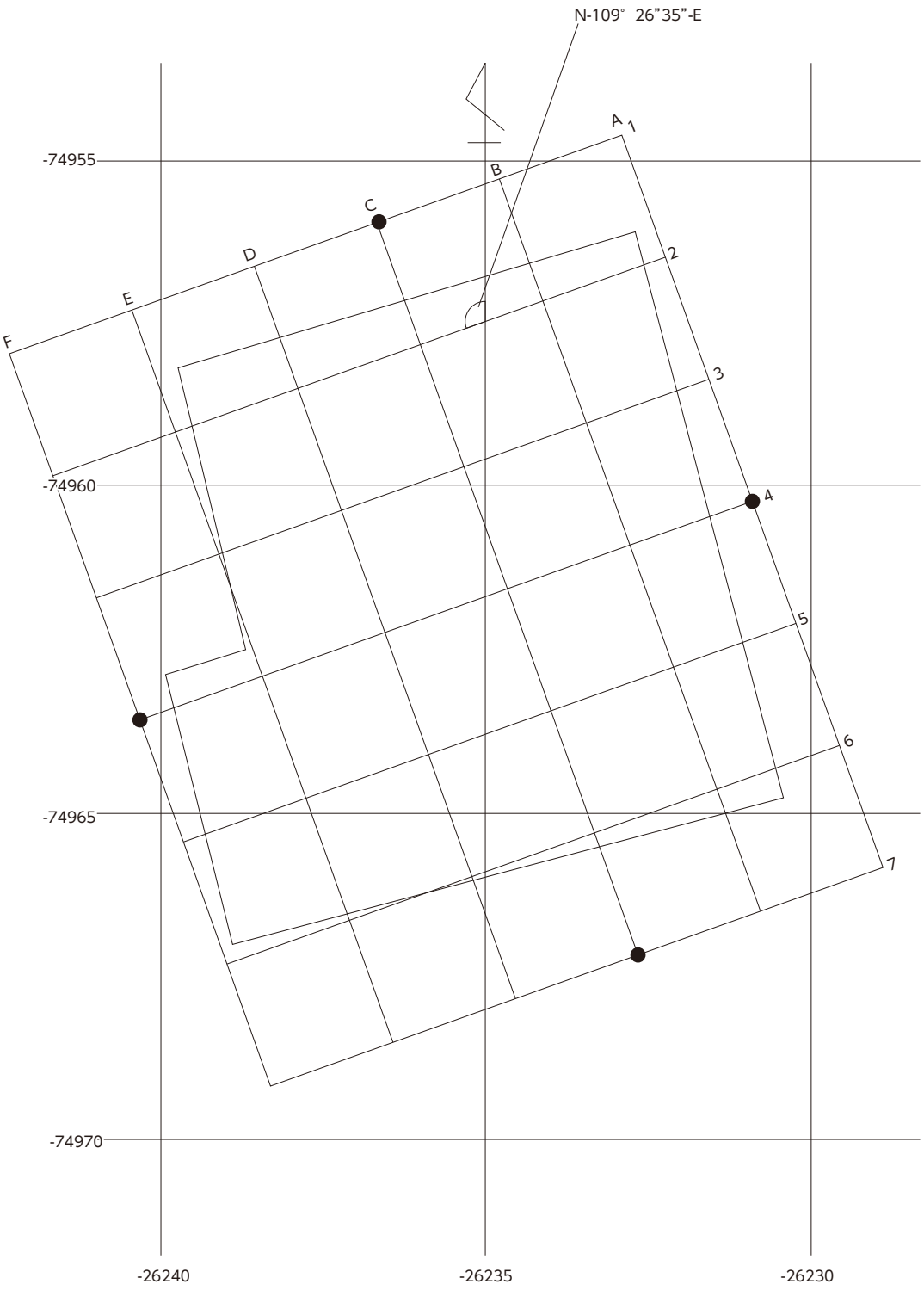
【日誌抄】

４月７日(木)　調査区を設定して重機により地表下20cmまで表土掘削。機材搬入とテント設営。
12日(火)　第１面の検出及び遺構確認作業。鎌倉市４級基準点を基として測量用方眼の設定。
測量用水準点の原点レベルを移動。
22日(金)　第１面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成。
５月17日(月)　第２面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成。
６月６日(水)　第３面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成を開始。
13日(月)　第４面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成。
21日(火)　第５面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成。
28日(火)　第６面の全景・個別遺構の写真撮影及び平面図作成。
７月１日(金)　第６面下のトレンチ調査を実施。調査地平場の地形図測量。
３日(金)　調査区西壁・南壁土層堆積の写真撮影及び土層断面図を作成。
７日(木)　現地調査終了。調査関係各方面に発掘調査終了の旨を連絡して機材撤収。

## ２．測量軸の設定

調査にあたって使用した測量軸の設定には、図２に示したように国土座標の数値を用いており、測量方眼軸は調査区の軸方向にほぼ平行して基準の南北軸を設けた。測量軸の設定には調査地西側を南北に走る道路面上に鎌倉市道路管理課が設定した市４級基準点（第Ⅳ座標系）の関係から開放トラバース測量により算出して測量基準点にあたるＡ－４杭とＦ－４杭をそれぞれ設置した。さらに測量軸は地形に合わせて東西軸と南北軸をそれぞれ２ｍ方眼による軸線を配し、南北軸にはＡ～Ｆのアルファベットの名称、東西軸に１～７の算用数字をそれぞれ付してグリット設定を行った。

現地調査で使用した国土座標は、日本測地系（座標AREA9）の国土座標数値であった。そこで整理作業の段階で国土地理院が公開する座標変換ソフト『web版TKY2JGD』によって世界測地系第Ⅸ系の座標数値に準じて算出し直した数値を図３に示した。なお、調査区は世界測地系でＸ－74．950～75. 970、Ｙ




A-4杭
X -74960.158
Y -26230.875

F-4杭
X -74963.483
Y -26240.303

C-1杭
X -74955.862
Y -26236.637

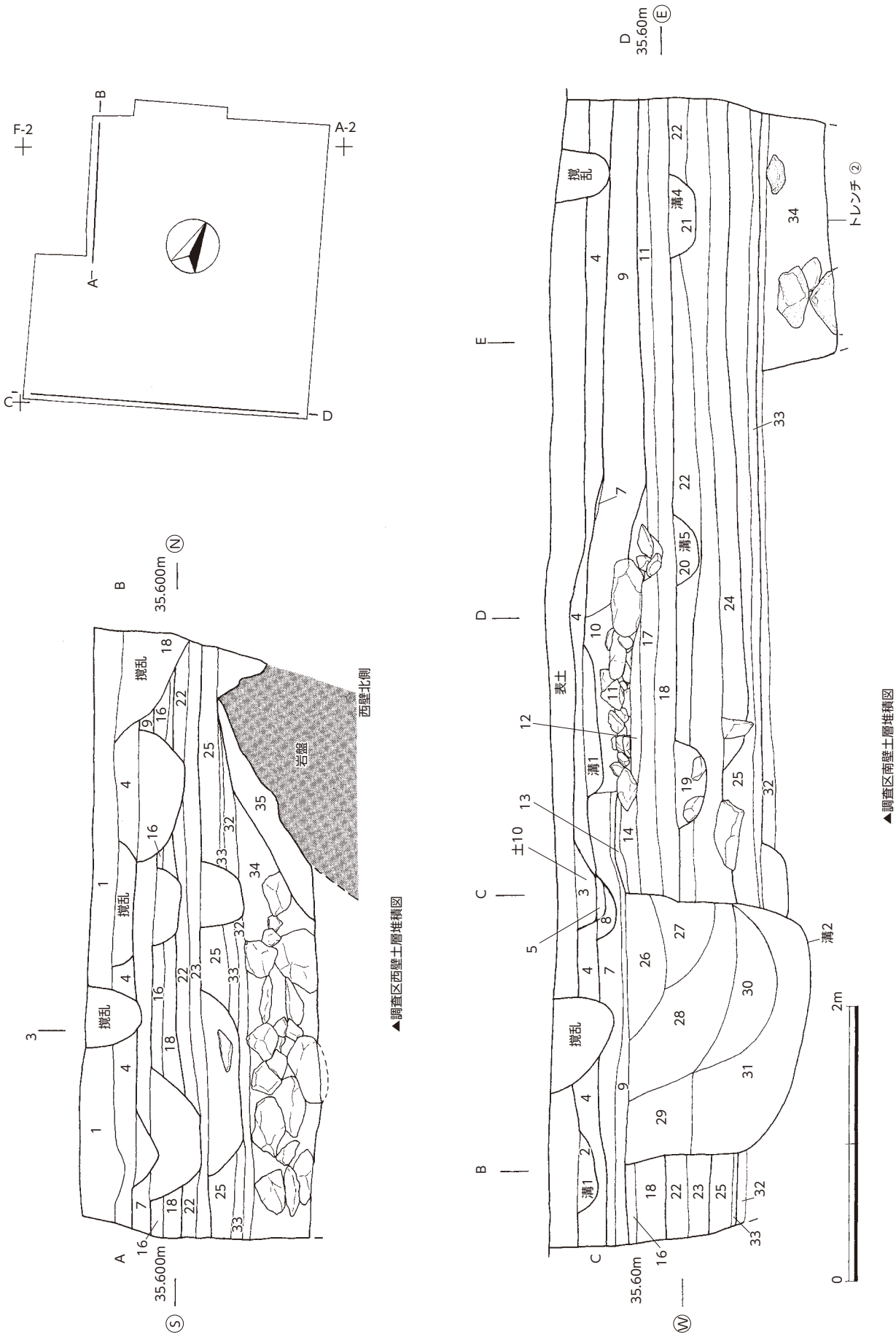
C-7杭
X -74967.219
Y -26232.662

P112
X -74995.5493
Y -26320.0768

P111
X -74995.7530
Y -26304.7562

世界測地系に交換したもの

図３　国土座標とグリット設定図




▲調査区西壁土層堆積図

▲調査区南壁土層堆積図

図４　調査区壁土層断面図

－26. 230 ～ 26. 240の区域内に位置している。海抜高の原点移動については、本調査地点南方の鎌倉税務所西側で、松谷寺ヶ谷開口部付近の地点に設置されている鎌倉市３級水準点(ＢＭ. 327＝海抜標高15. 589ｍ)から調査地点のグリットＡ－４杭とＦ－４杭上へ仮水準点を移設した。なおグリットの南北軸方位はＮ―19° 26′ 35″―Ｗである。

## ３．層序と生活面

調査地点における現地表の海抜標高は36. 40 ～ 60mと東から西へ向かって緩やかに傾斜しているがほぼ平坦な宅地となっている。調査区内の堆積土層は概ね10層に区分され、少なくとも６時期の遺構面が検出されている(図4)。調査で確認した土層は厚さ20 ～ 30cmほどの現代客土層の表土を除去すると、遺物包含層を挟まずにすぐ小土丹塊や鎌倉石の破砕粒を敷き詰めた生活面(第４層・地行層) と、それに伴う遺構が確認されたので第１面として調査を実施した。この面は海抜高約36. 20ｍを計る。

第２面は第７・９層の上面に相当し、第４層とは薄い帯状の炭化物層の間層を挟んで認められた地行層である。この生活面では土坑・溝・ピットなどが検出され、海抜高36. 10ｍ程である。第７・９層を除去して表出したのが第３面である。この面は小土丹塊や鎌倉石を破砕したような粗砂、さらにかわらけ小片を突き固めて版築した整地層で海抜高36. 00m付近である。検出した遺構はＬ字に曲がった溝と土塁状の盛土がセットをなす区画施設、土坑、ピットなどがある。

第４面は第22層の茶褐色砂質土で小土丹角と粗い山砂を混入した整地層で生活面は海抜高35. 60m付近で確認された。その下の第５面は面上に堆積した厚さ10 ～ 20cmの遺物包含層(第23層)を取り除いた海抜高35.40m前後で確認された。第６面は海抜高34. 90mで確認され、礎石建物、石切場跡、土坑、ピットなどを検出した。礎石建物跡は調査区南端で柱間東西二間分が検出されただけで、南側は調査区外へ伸びている。石切場跡は調査区北側で岩盤削平面から石を切り出す際の直線的な溝痕跡が確認されている。

なお、第６面の調査終了後に調査区西壁の岩盤落ち込み部(トレンチ１)と、調査区南西隅(トレンチ２)にそれぞれトレンチを設定し遺構確認を実施した。その結果、トレンチ１の岩盤は急な角度で南へ傾斜し、人為的な痕跡は見受けられず、またトレンチ２からは岩塊が発見さたが無遺物層で生活の痕跡は認められなかった。第６面以下は崩落による完全な自然堆積層の地形であることが判明した。

## ≪調査区南壁・西壁土層注記≫

第 1層　表土
第 2層　茶褐色砂質土:土丹粒少量、かわらけ片わずかに含む。粘性・締まりなし。1と似るが小指大ほどの土丹塊を少量含む。
第 3層　茶褐色砂質土：鎌石粒多量、土丹塊を少量含む。粘性なし。締まりやや有り。
第 4層　茶褐色砂質土：鎌石粒・土丹粒中量、小指大の土丹塊を少量含む。粘性なし。締まりやや有り。〈第１面〉
第 5層　茶褐色砂質土：土丹塊を少量含む。粘性なし。締まりやや有り。
第 6層　茶褐色砂質土：土丹粒、炭粒少量含む。粘性・締まりなし。
第 7層　砕いた鎌石による地業層：鎌石を砕いた地業層。粘性なし。締まり強い。〈第２面〉
第 8層　茶褐色砂質土：鎌石粒多量、土丹粒少量、かわらけ片僅かに含む。粘性なし。締まりやや有り。
第 9層　茶褐色砂質土：土丹塊・鎌石塊少量、かわらけ片・炭粒僅かに含む。粘性僅か。締まりやや有り。
第10層　茶褐色砂質土：土丹粒・炭粒少量含む。粘性・締まり共にやや有り。11・12・17同様土塁基礎部の土か。
第11層　鎌石塊の層：拳大～人頭大迄の大きさの鎌石塊を敷いた層。築地塀の基礎部。
第12層　暗茶褐色弱粘質土：鎌石粒を少量、炭粒僅かに含むのみの精良土。粘性やや有り。締まりあり。土塁の基礎部。
第13層　砕いた鎌石による層：第３面と築地塀を繋ぐ地業層。粘性なし。締まり強い。
第14層　暗茶褐色砂質土：土丹粒少量、小石を僅かに含むのみの精良土。粘性僅かに有り。締まり有り。
第15層　暗茶褐色砂質土：土丹粒少量、かわらけ片僅かに含む。粘性なし。締まりやや有り。
第16層　砕いた鎌石による地業層：鎌石粒を砕いた地業層。粘性なし。締まり強い。〈第３面〉

第17層　暗茶褐色弱粘質土：12に似るが鎌石塊やかわらけ片を少量含む。粘性やや有り。締まり有り。
築地塀の基礎部最下層。
第18層　暗茶灰色弱粘質土：鎌石粒多量、炭粒中量、かわらけ片を少量含む。粘性・締まりやや有り。
第19層　暗茶褐色弱粘質土：拳大の鎌石塊を中量、小石・かわらけ片少量含む。粘性・締まりやや有り。
第20層　暗茶灰色砂質土：鎌石粒・土丹粒多量、炭粒少量含む。粘性僅かに有り。締まりやや有り。
第21層　茶灰色砂質土：かわらけ片少量含む。粘性なし。締まりやや有り。
第22層　明茶褐色砂質土：鎌石粒多量、炭粒中量、鎌石塊少量含む。粘性なし。締まり有り。〈第４面〉
第23層　暗茶褐色弱粘質土：土丹粒・鎌石粒斑状に中量含む。粘性・締まりやや有り。
第24層　茶褐色弱粘質土：土丹粒中量、かわらけ片僅かに含む。粘性・締まりやや有り。溝の覆土。
第25層　暗茶灰色粘質土：土丹粒・鎌石粒中量、鎌石塊少量含む。粘性・締まり有り。〈第５面〉
第26層　人頭大の鎌石層：人頭大の鎌石で構成されている層。粘性・締まりなし。
第27層　拳大の鎌石層：拳大の鎌石多く含む。粘性・締まりなし。
第28層　拳大の鎌石層：拳大の鎌石多量に含む。粘性・締まりなし。
第29層　大型鎌石層：20 ～ 30㎝位の鎌石で構成されている層。粘性・締まりなし。
第30層　拳大の鎌石層：拳大の鎌石で構成されている層。粘性・締まりなし。
第31層　人頭大の鎌石層：人頭大の鎌石で構成されている層。粘性・締まりなし。
第32層　暗茶褐色砂質土：当層の礎石建物内には玉砂利が敷き詰められている。その他の場所においては、土丹粒・鎌石粒多量かわらけ片僅かに含む。〈第６面〉
第33層　暗茶褐色砂質土：32に似るも、締まりなし。
第34層　黄橙色砂質土：大型土丹が多く含まれる層。人為的ではなく自然地層。
第35層　黒色粘質土：一般的に中世地山と呼ばれる土。当遺跡ではこの層の上に34の土が覆い被さり、その上から生活面として利用されている事がわかる。

# 第三章　検出遺構と出土遺物

## 1．第１面の遺構と遺物

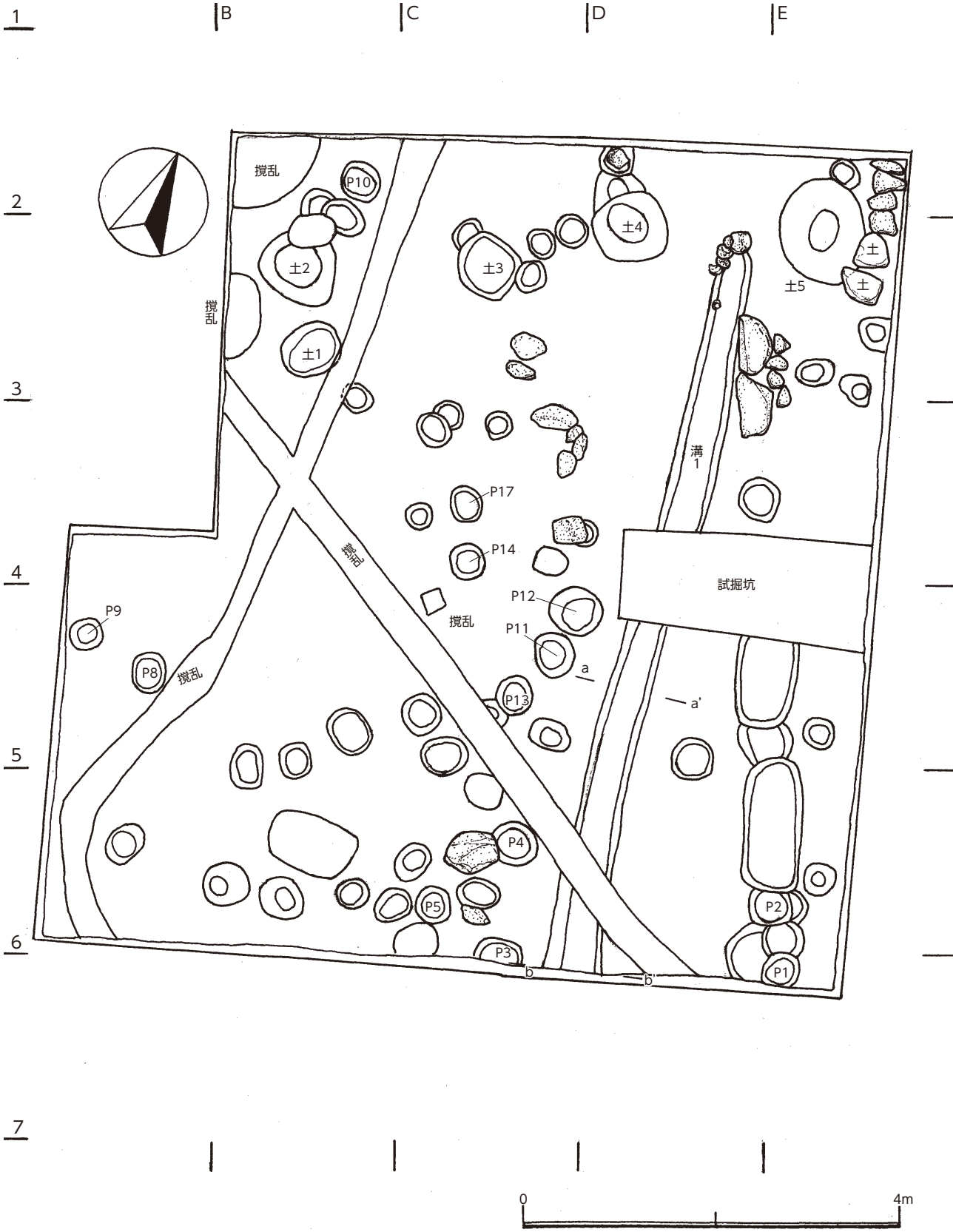



図５　第１面遺構全図

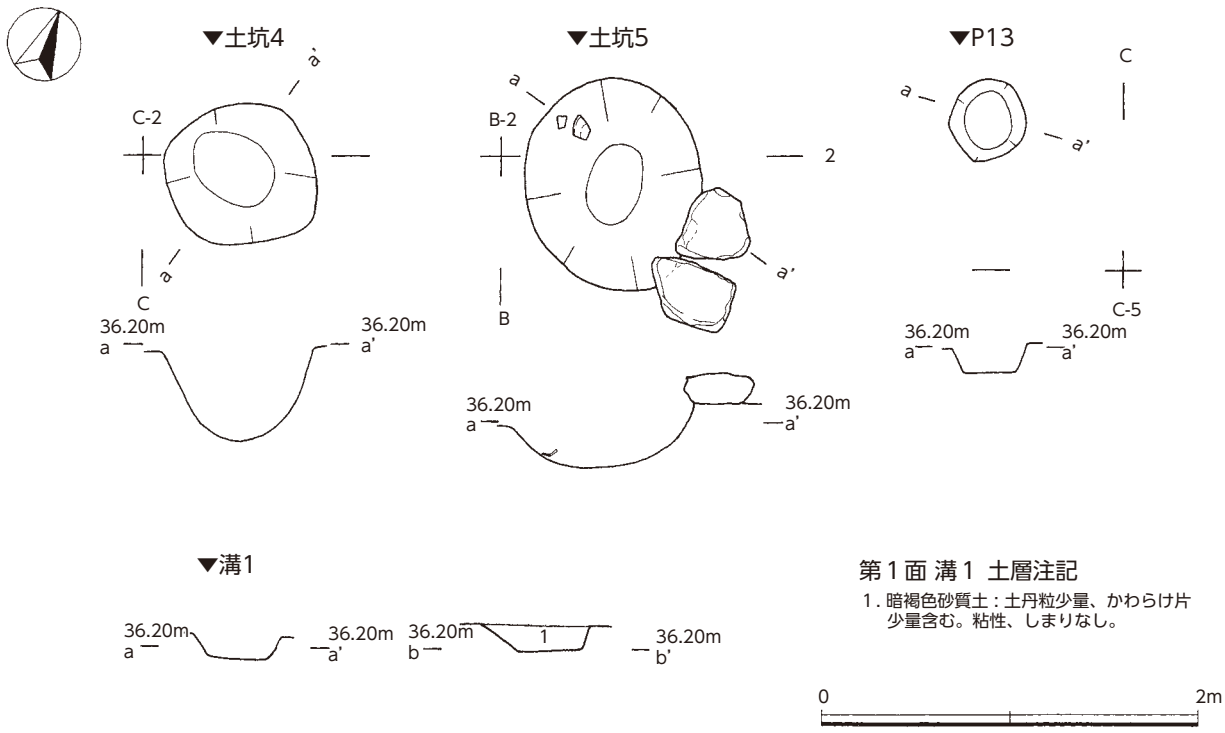



図6　第1面各遺構

第1面は表土の下、調査区北端で海抜高約36. 05m、南端で海抜高36. 35mほどで南から北へ向かって緩やかな傾斜をもつが、確認した遺構はすべて掘り込みが浅く、後世の削平による結果と推測される。検出した遺構には土坑、溝、ピットなどが認められた。出土遺物はかわらけをはじめ、少量の青磁・白磁の貿易陶磁器、瀬戸・常滑窯の国産陶器などである。

**土坑1**(図5)：調査区の北西、C－3グリット付近で検出。短辺55cm×長辺65cm×深さ15cm、楕円形の浅い窪みである。覆土は鎌倉石を破砕した粗砂を多く含む茶褐色砂質土、遺物は図示できない小片だけである。

**土坑2**(図5)：土坑1の北側、E－2グリット付近で検出。短辺57cm×長辺90cm×深さ24cmの不整円形を呈する。覆土は土丹粒・炭化物を含む茶褐色砂質土、出土遺物はかわらけの細片だけである。

**土坑3**(図5)：調査区の北東隅、D－2グリット付近で検出。短辺66cm×長辺75cm×深さ23cm、不成形　円形を呈する。覆土は小型土丹塊を含んだ茶灰褐色土で、かわらけの細片だけが出土。

**土坑4**(図5・6)：調査区の北側中央、D－2グリット付近で検出。短辺72cm×長辺74cm×深さ50cm、円形を呈し断面擂鉢形の土坑である。覆土は茶褐色砂質土で炭化物やかわらけ細片を多く含むもの。

**土坑5**(図5～7)：調査区の北東隅、E－2グリット付近で検出。短辺94cm×長辺116cm×深さ33cm、楕円形を呈する。覆土は土丹粒、小土丹、かわらけ粒を含む黄茶褐色砂質土の単層で、かわらけを中心に遺物が多めに出土した。なお土坑5の東側に南北方向に人頭大の泥岩と砂岩が並べられているが、後述する溝1と同軸であり、また第2面検出の溝や、第3面検出の築地ともほぼ同軸であることから、区画に関わる石列の可能性も考えられる。出土遺物は図7－1・2は糸切り底で薄手器壁をもつかわらけ大皿、3が瀬戸窯の折縁皿で内底面に櫛掻の回転施文、4が常滑窯の片口鉢Ⅱ類である。

**溝1**(図5～7)：調査区の東側、Eライン上で検出。主軸方位はN－4°20”－Wを測る。溝の南側は調査区外へ展開するが、確認された長さは796cm×幅50～57cm×深さ約16㎝である。覆土は土丹粒・かわらけ片を少量含むしまりの弱い暗茶褐色砂質土が堆積する。前述した土坑5の東側で検出された石列

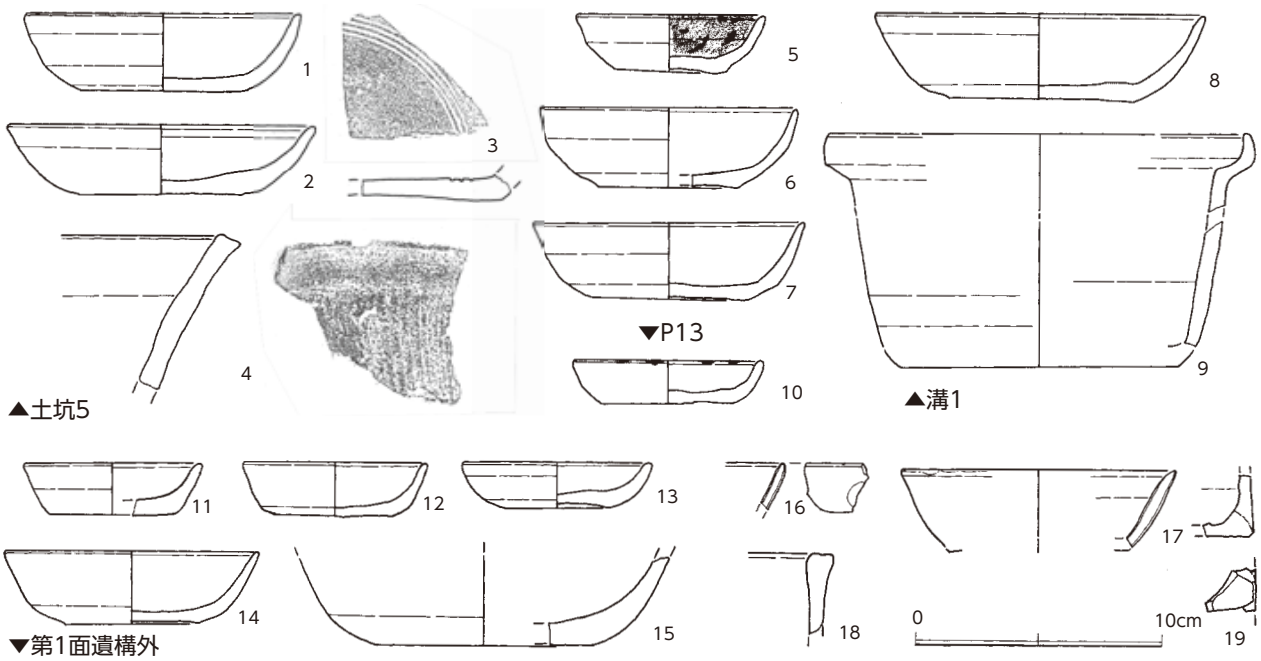



図７　第１面出土遺物

と同一の軸線を持っており、区画に関わる遺構と考えられる。出土遺物は５～８が糸切底のかわらけ小・中・大皿ですべて薄手器壁による丸深器形の資料、９は瀬戸窯行平鍋である。

**ピット**(図５・7)：この面からはピットが多数確認されたが、いずれも浅い掘り方で異なる時期が混在しており、柱並びの確かなものはなく建物を復元するには至っていない。各ピットの覆土は茶褐色や茶灰褐色砂質土が多く、上部を後世に削平されているために単一層である。P13から10のかわらけ小皿が出土した。

**第１面遺構外出土遺物**(図7)：遺構外とした出土遺物は、ほとんどが遺構確認に伴い出土した資料である。11 ～ 15糸切底のかわらけ大小皿で、15は碗に近い特大資料であろう。16が竜泉窯青磁碗、17が白磁口兀皿、18・19はかわらけ質土製品で前者が丸いコップ型、後者は板作りで方形状のもの。

## ２．第２面の遺構と遺物

第２面は調査区北側で海抜高35. 90m前後、南端で海抜高約36. 10mで確認できた。第２面の遺構も第１面の遺構と同様、掘り込みが浅いものが多い。検出した遺構は土坑７基・溝２条・ピット９穴などである。遺物はかわらけ皿の他に青磁・青白磁の貿易陶磁器、国産陶器の瀬戸・常滑窯製品、石製品などが出土している。

**土坑１**(図8)：調査区中央、D－４グリット付近で検出。短辺67cm×長辺80cm×深さ15cm、円形で浅い皿状断面を呈する。覆土は土丹粒・かわらけ粒を少量含む茶褐色土、遺物はかわらけ細片だけである。

**土坑２**(図8・9・10)：調査区ほぼ中央、C－３グリット付近で検出した土坑で、溝1を壊して掘り込んでいる。規模は短辺111cm×長辺142cm×深さ21cm、楕円形を呈する。覆土は小土丹、炭化物を多く含む暗茶褐色砂質土と底面付近の薄い粗砂粒層の２層に分かれる。遺物は図10－１～3が糸切底のかわらけ大小皿、4が青白磁小壺、5が常滑窯甕の肩部片などが出土した。

**土坑３**(図8)：調査区北側、B－２グリット付近で溝１を壊して掘り込んだ土坑を検出した。大きさは短辺85cm×長辺103cm×深さ25cm、楕円形を呈した断面皿状の掘り方をもつ。覆土は土丹粒、炭化物を含む茶褐色土、実測可能な遺物は出土していない。

**土坑４**(図８・9)：調査区北東隅、B－２グリット付近で調査区外に拡がった大型の土坑を検出した。調

査区内の規模は長辺190cm以上、短辺131cm×深さ20cmの浅い皿状断面で楕円形を呈すると思われる。覆土は締まりのない茶褐色土で埋め戻されており、良好な出土遺物はない。

**土坑6**(図8)：調査区東側、B－3グリット付近で検出。遺構の南側は試掘孔により壊されているが、平面形状は楕円形を呈すると思われる。確認規模は長辺120cm以上、短辺は104cmである。確認面からの深さ30cm、覆土は概ね2層に分かれ上層は土丹粒、炭化物を含む茶褐色土、下層が粗砂粒を多めに含む茶褐色の締まりのない砂質土である。

**土坑7**(図8・9・10)：調査区北西隅、E－2グリット付近で検出。遺構は調査区外に拡がっているため全体の様相は不明である。確認できた規模は一辺1mほどであり、短辺になるものと思われる。断面が擂

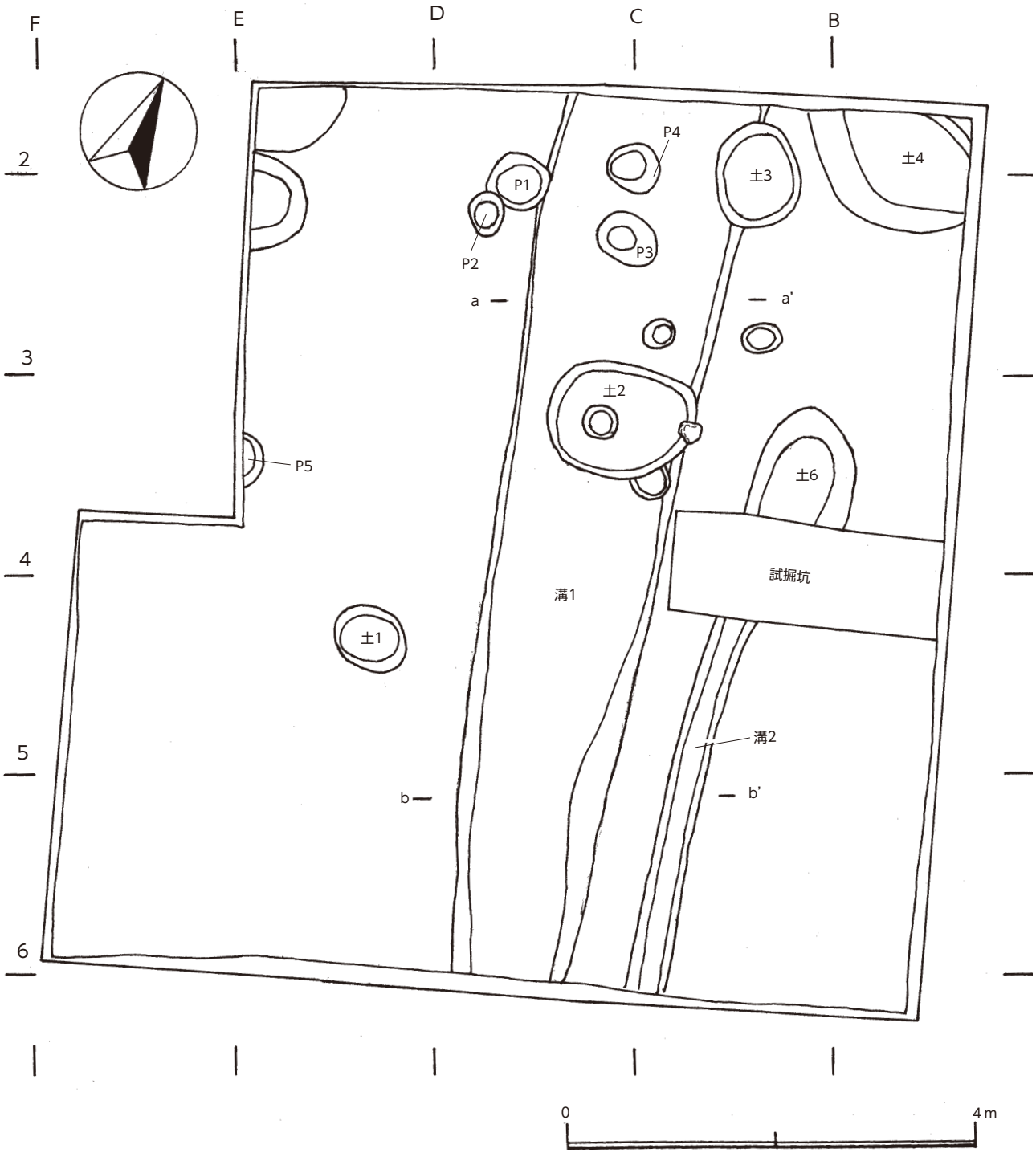



図8　第2面遺構全図

鉢状を呈し深さ35cmで、覆土は小土丹、炭化物、かわらけ粒を含む締まりのない茶灰褐色土である。遺物は6～9の糸切底のかわらけ小中皿が出土した。

**溝1**(図8・9・10)：調査区の中央、Cライン上で検出。主軸方位はN－8°30”－Wを測る。確認された長さは約880cm×幅203～115cmで南側の溝幅が狭くなっている。深さ15～25㎝で北から南へ緩やかに下る。覆土は単層で、炭化物や泥岩粒を少量含むしまりの弱い茶褐色砂質土。出土遺物には10がロクロ整形のかわらけ小皿、11が瀬戸窯折縁皿、12が銅の鉱滓、13が仕上げ砥石である。

**溝2**(図8・9)：溝1の東側、Bライン上で検出。主軸方位はN－8°－Wを測る。遺構の北端は試掘坑もしくは土坑6により壊され、南側は調査区外へ拡がっている。確認された長さは約390cm×幅35～45cm×深さ18cmである。覆土は単層で、砂岩粒を多量に含むしまりのある茶褐色砂質土であるが、良好な出土遺物はない。

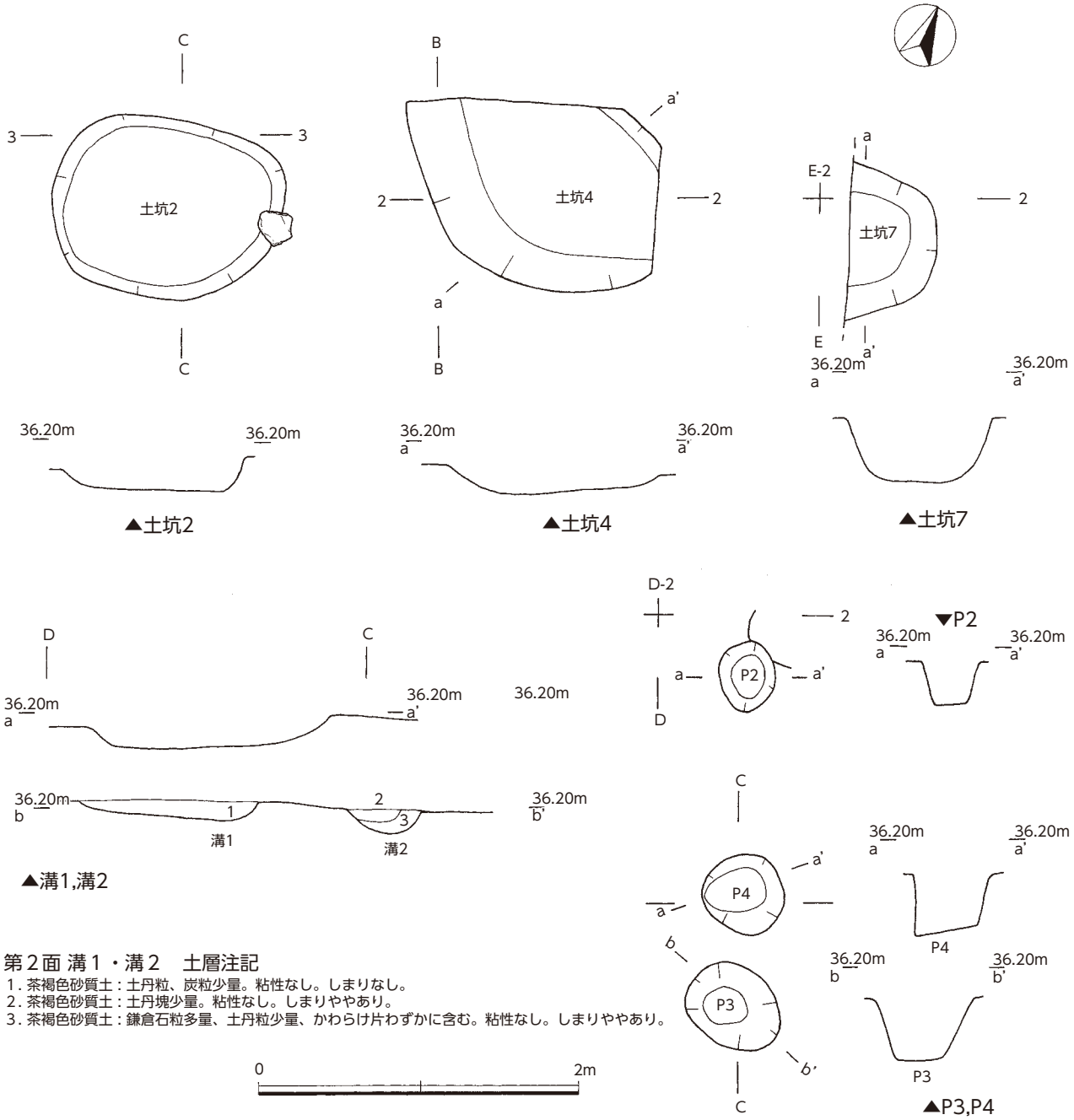



図9 第2面各遺構

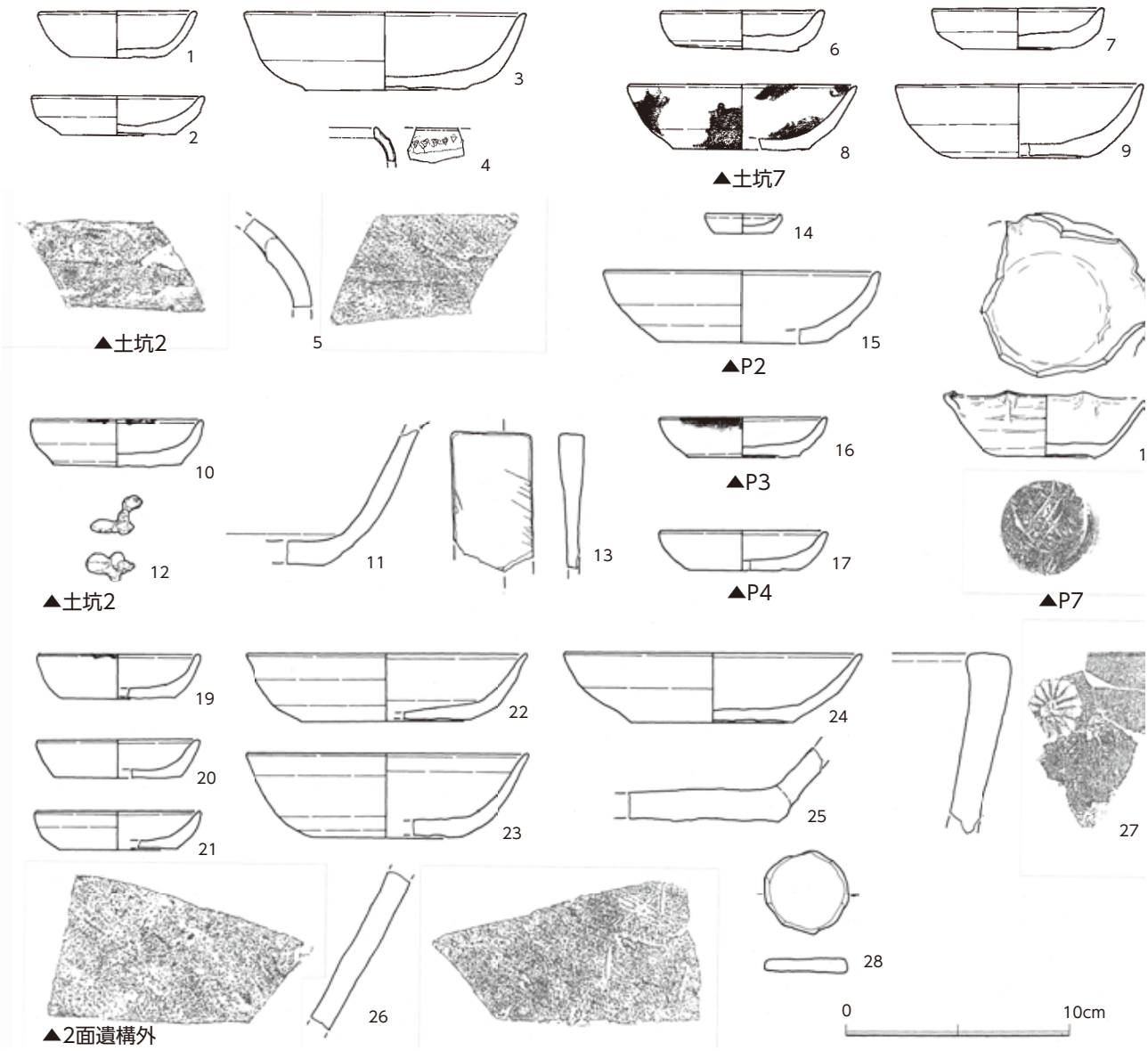



図１０　第２面出土遺物

**ピット**(図８・9)：検出したピットのうち、ここでは実測可能な遺物が出土した4穴について簡単に触れる。ピット２はD－２付近でピット１を壊して検出。短辺34cm×長辺45cm×深さ32cm、平面形状は楕円形を呈する。覆土は炭化物、かわらけ粒を含む茶褐色土の単層で、遺物は14が内折れ糸切底かわらけ小皿と15のかわらけ大皿が出土。ピット３・ピット４は溝１を壊し掘り込む。ピット３は短辺48cm×長辺62cm×深さ40cm、楕円形を呈する。覆土は暗茶褐色土の単層で、遺物は16の糸切底かわらけ大皿である。ピット４はピット３の北側で検出。短辺49cm×長辺52cm×深さ38cmで不整円形を呈し、覆土は茶灰褐色土の単層で、17のかわらけ小皿が出土した。ピット７からは18の瀬戸窯入子が出土した。

**第２面遺構外出土遺物**(図10):遺構外とした遺物は第１面整地層や第２面の遺構確認に伴う資料も含まれている。19～24は糸切底のかわらけ大小皿、25・26は常滑窯甕、27が瓦質火鉢、28がロクロ成形かわらけ皿の底部を打ち欠いて円盤としたもの。

## ３．第３面の遺構・遺物

第３面は調査区北端で海抜高35. 75m、南端で海抜高35. 95m前後を確認することができた。検出した遺構は土塁状遺構１基・石列遺構１基、土坑６基・溝２条・ピット７穴である。

**土塁状遺構**(図11・13)：調査区中央で南北方向に検出。主軸方位はN－6° 30′－Wを測る。調査区南側では基礎部がしっかりと残存しているものの、北半部は削平され非常に残存状況が悪い。土塁状遺構は幅約130cmであり、長さ約30 ～ 50cm、幅約20 ～ 30cmの泥岩塊を遺構両端に並べている。泥岩塊は

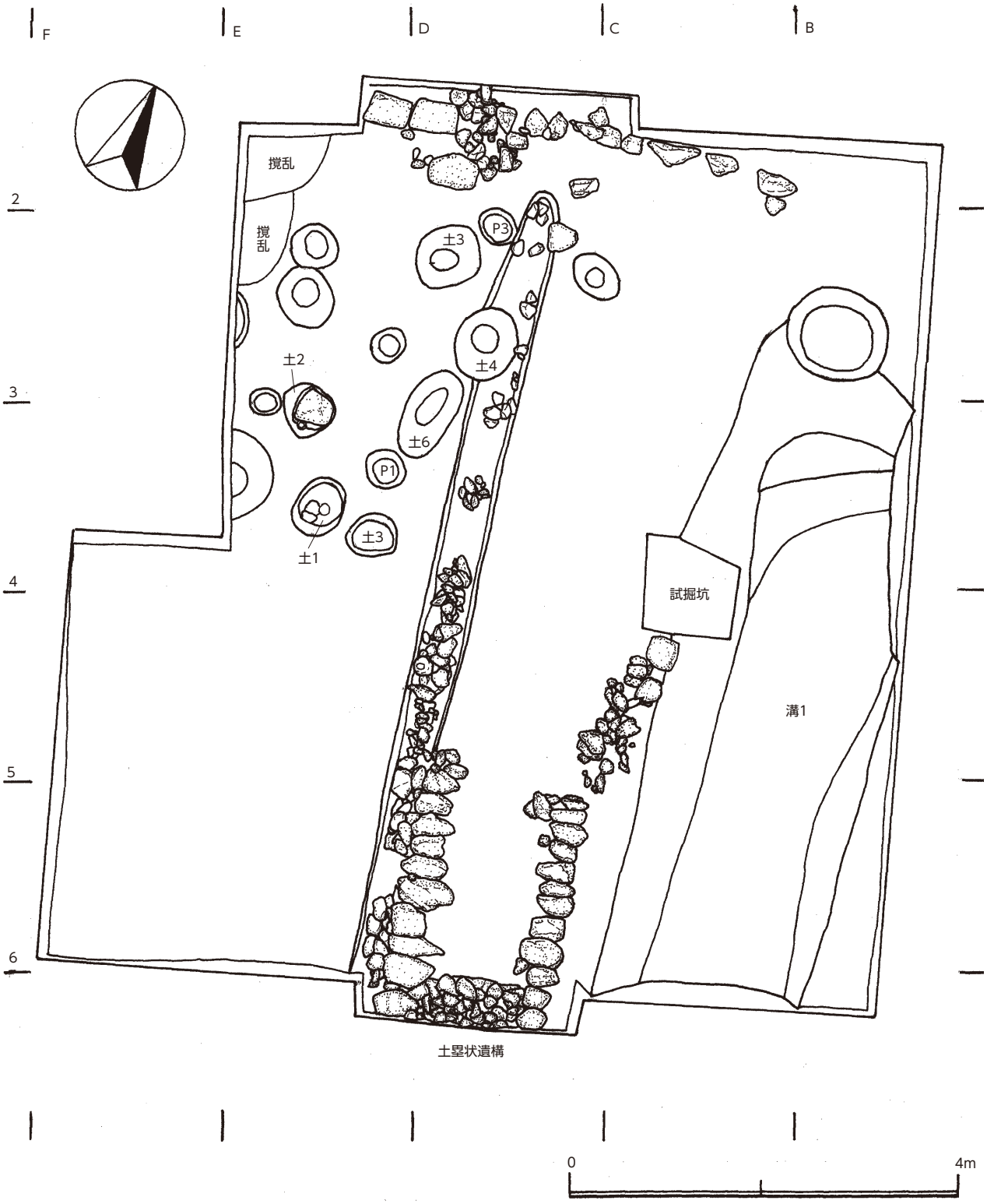



図11　第３面遺構全測図

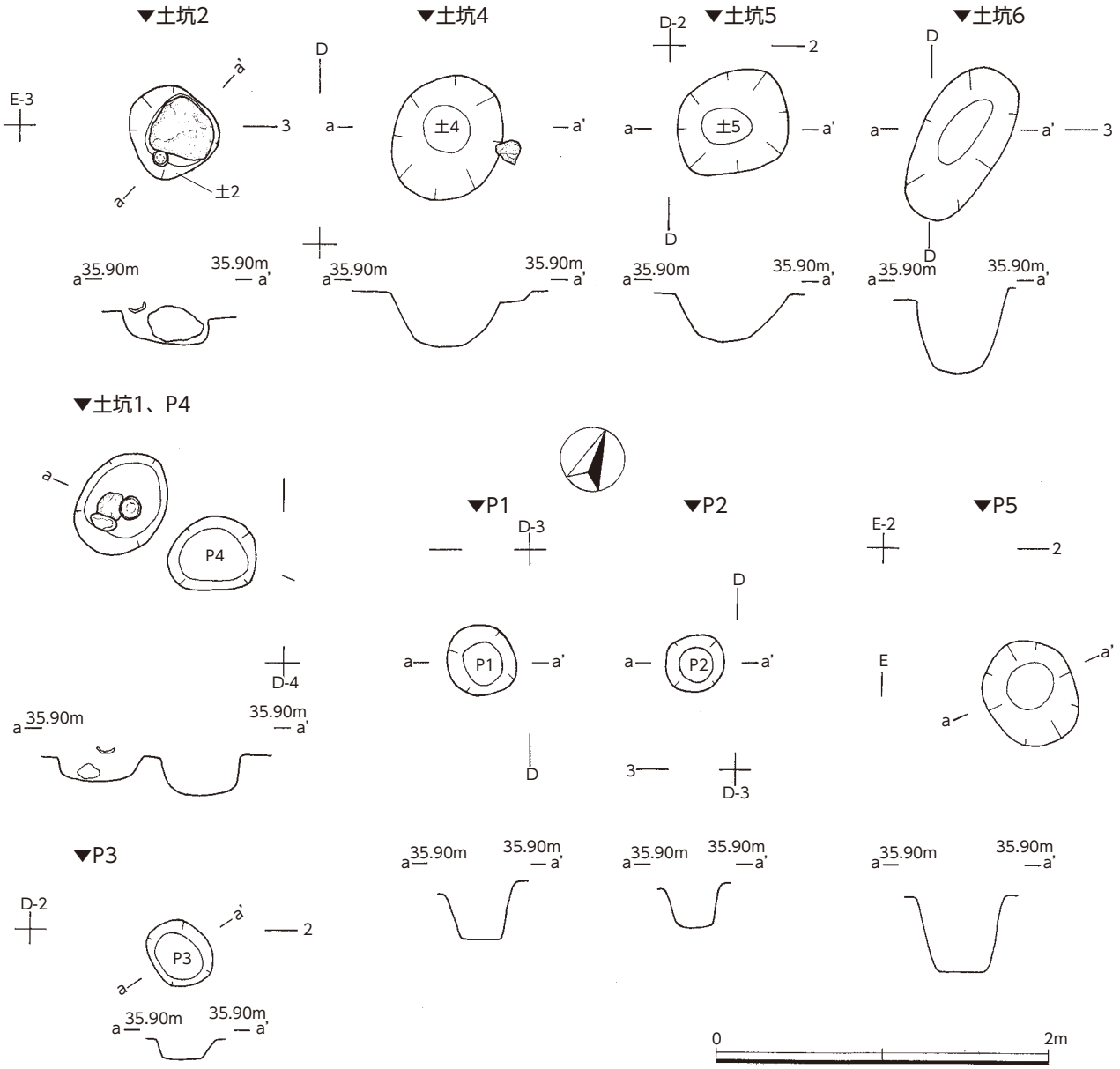



図12　第３面土坑・ピット

外側に面する箇所が整えられている。調査では５・６ラインでこの泥岩列が確認されたが、これより北側では泥岩列は確認できなかった。また泥岩列の内部には泥岩を２段積んだ高さで一度破砕した泥岩塊が充填されているのが確認できた。図11・13では６ライン上で内部の充填状況を表現しているが、調査段階では５ライン上までこのような状況であったことが確認できた。また基礎部の外側には小型の泥岩塊で補強されている痕跡があり、最低一度は修繕されたことが確認できた。なおこの遺構の西側には同じ主軸方位をもつ溝１が検出されているが、この溝の東肩に土塁状遺構の基礎の外面を合わせている状況から推測すると、この遺構に伴う堀のような機能を有する溝ではないかと考えられる。また溝１内には補強に使われた泥岩塊が混入しており、溝１は一度目の修繕の際に埋められたと考えられる。次に本遺構の長さについてであるが、西肩に位置した溝１が本遺構に伴うものであれば、本遺構は２ライン上から南へ延びることになり、調査区内で確認された長さは約8.7ｍになる。２ラインより北側では溝１と直行する石列遺構１が検出されおり、これより北側までは当遺構は拡がらないものと思われる。

本遺構に伴う遺物は図15－13～15である。13・14は糸切底でロクロ成形のかわらけ大小皿、15は常滑窯甕の底部片である。

**石列遺構１**(図11・14) 調査区の北側、２ライン付近で南北方向に検出。遺構の大半が調査区外であり、具体的な性格は掴みきれなかった。石列を構成する石は砂岩が主体であり、中には整形した砂岩も含まれていた。土塁状遺構とはほぼ直行するかたちになっており、その関連から、同じく土塁のような基礎か、もしくは土塁の内外をつなぐ通路であった可能性も考えられる。

**土坑１**(図11・12)：調査区の中央より西側、Ｄ－４グリット付近で検出。短辺51cm×長辺67cm×深

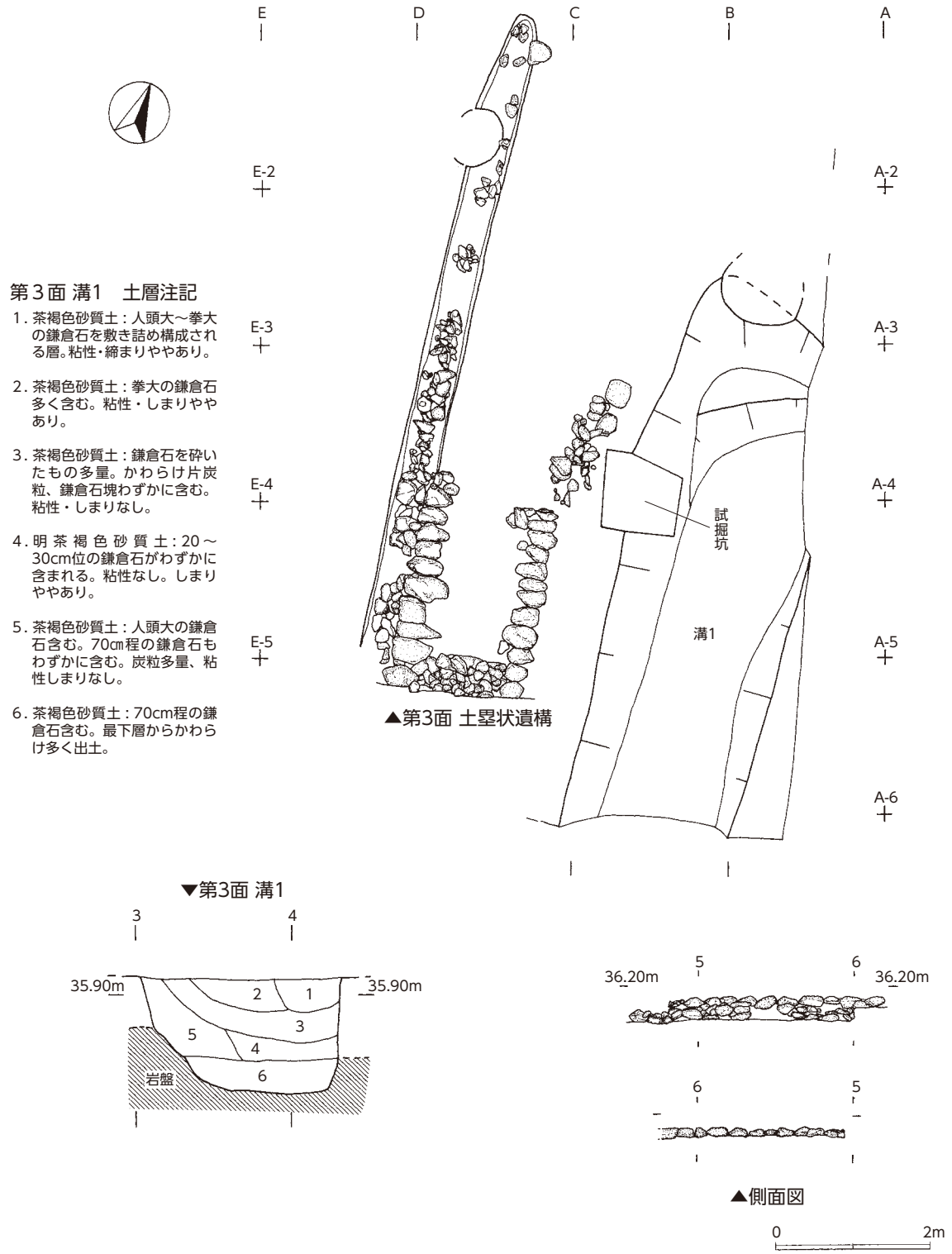



図１３　第３面土塁状遺構・溝１

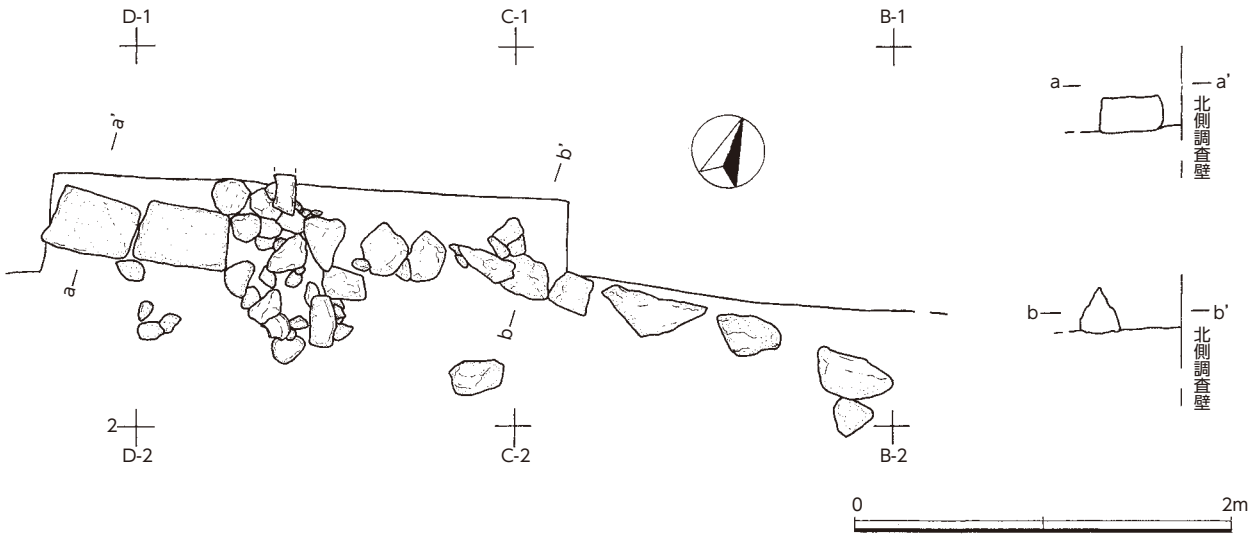



図14 第3面石列遺構

さ17cm、楕円形を呈する。覆土は茶褐色土であり、遺物は図15－1のかわらけ大皿が出土した。

**土坑2**(図11・12)：土坑1の北側、D－3グリット付近で検出。短辺51cm×長辺54cm×深さ18cm、不成形な円形を呈する。遺構内に人頭大の泥岩塊が確認できたが、人為的な整形はされておらず、投げ込まれたものと考えられる。覆土は茶灰褐色砂質土で、2・3のロクロ成形かわらけ中小皿が出土した。

**土坑3**(図11)：土坑1の東側、D-4グリット付近で検出。短辺45cm×長辺53cm×深さ22cm、楕円形を呈する。覆土は暗茶灰色砂質土であり、出土遺物は4の糸切底のかわらけ小皿だけである。

**土坑4**(図11・12)：調査区中央北側、C－3グリット付近で土塁状遺構に伴う溝を壊すかたちで検出。短辺65cm×長辺76cm×深さ35cm、長楕円形を呈する。覆土は炭化物、かわらけ粒を多く含む茶褐色砂質土で、出土遺物は5～8のロクロ成形による糸切底のかわらけ大中皿である。

**土坑6**(図11・12)：土坑2の東側、D－3グリット付近で検出。短辺52cm×長辺103cm×深さ51cm、長楕円形を呈する。覆土は土丹粒、粗砂を多めに含む砂質土で、遺物は9・10のロクロ成形かわらけ小皿が出土した。

**溝1**(図11・13)調査区東側、Bライン上で検出。調査区南端から3ライン上までは直線的に延びるが、そこから東側にほぼ直角に曲がり、東側の調査区外へと延びていく。溝幅は東西方向で約220～230cm、深さは132～144cmでわずかであるが、北側へむけ下がっている。また3ラインより北側では岩盤を掘り込み溝が掘削されている状況が確認できた。南北方向の主軸方位はN－6°30′－Wを測る。覆土は拳大～人胴大の泥岩塊が投げ込まれたようなかたちで多量に含まれており、一度に埋め戻されたものと考えられる。また土層観察から浚渫されたような痕跡は確認できなかった。

出土遺物をみると、図16－1～53でロクロ成形かわらけ皿を主体に出土している。1～15のかわらけ小皿は口径7.3～8.0cm、器高2.0～2.6cmと高めの器形で薄い器壁の資料が主体を占めている。16～36のかわらけ中皿の多くは薄手器壁で口径10.3～11.3cm、器高3cm以上と高めものである。37～46はかわらけ大皿で薄手器壁に丸深器形が主体を占めている。かわらけは特に遺構覆土の最下層からまとまって出土している。47は青磁鎬蓮弁文碗、48は瀬戸窯卸皿、49・50は甕・片口鉢Ⅱ類、51は瓦質黒縁皿、52は磨石で両面に磨滅した痕跡がある。53は銅銭の「元豊通宝」である。

**ピット**(図11・12)：検出したピットのうち、実測可能な遺物が出土した2穴を含めた4穴についてここで説明をおこなう。ピット1はD－3付近で検出。径は約40cmの円形を呈し、深さは36cmを測る。覆土は茶褐色砂質土の単層である。ピット2はピット1の北側、同じくD－3付近で検出。径は約34cmの円形を呈し、深さは27cmを測る。覆土は炭化物を含む単層、11のロクロ成形かわらけ小皿が出土。

ピット３は調査区北西で検出。ピット２は短辺35cm×長辺42cm×深さ14cm、楕円形を呈する。覆土は茶褐色土の単層である。ピット５はピット３の南側で検出。短辺54cm×長辺66cm×深さ46cm、楕円形を呈し覆土は土丹粒を含む土、遺物は12のかわらけ転用の円盤が出土している。

**第３面遺構外出土遺物**(図15) :16 ～ 24・34のかわらけ小皿は口径6.6 ～ 7.8cm、器高1.5 ～ 2.3cmと一定しておらず、25 ～ 27の中皿は薄手丸深であり、28 ～ 33は口径13cm以下の大皿である。34は体部を打ち欠き加工を施すもの。35はロクロ成形の白かわらけ皿、36 ～ 38は常滑窯甕、39は瓦質火鉢、40はかわらけ質土製品、41は鞴羽口片、42は京都鳴滝産の砥石、43が鉄釘である。

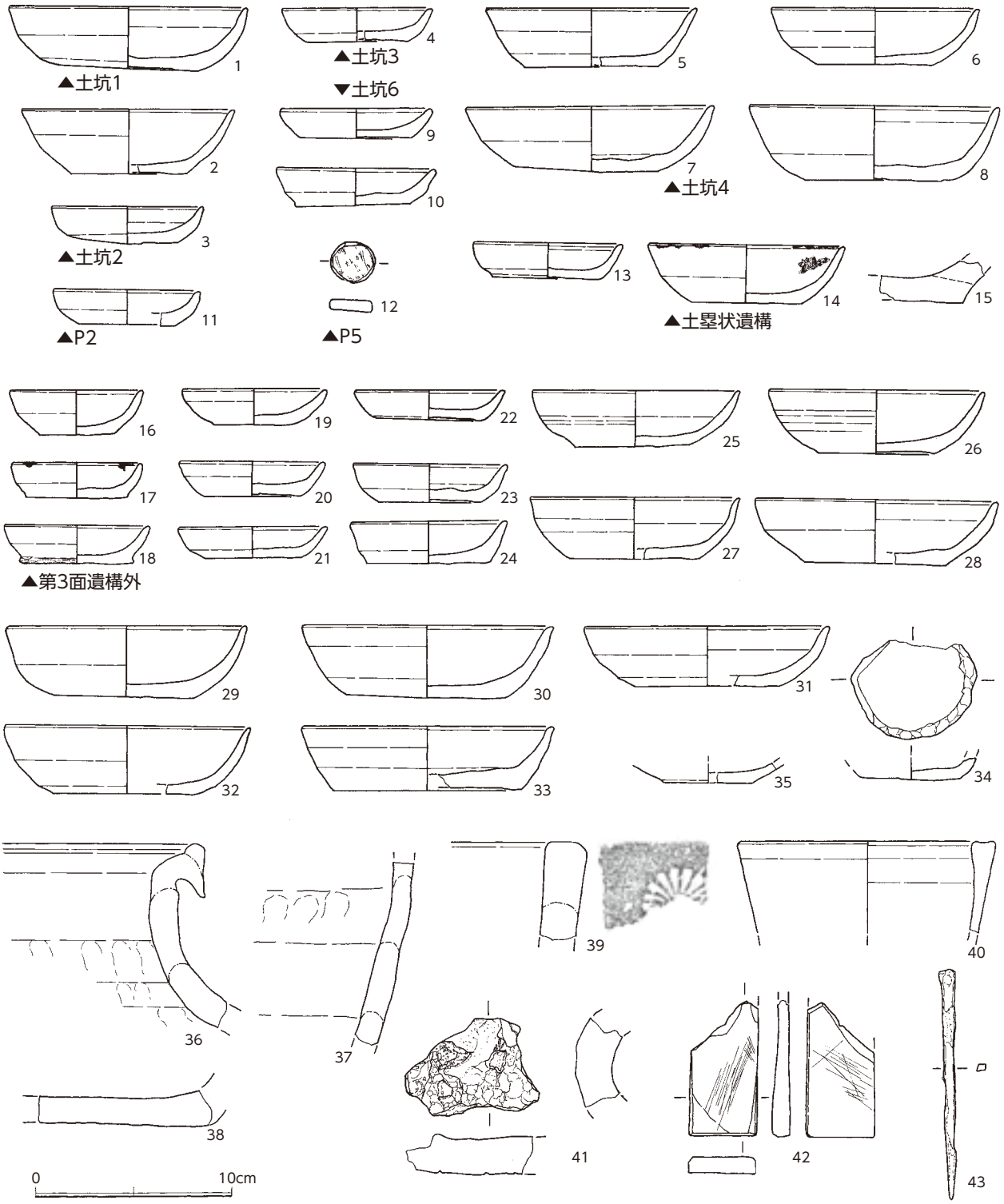



図15　第３面出土遺物

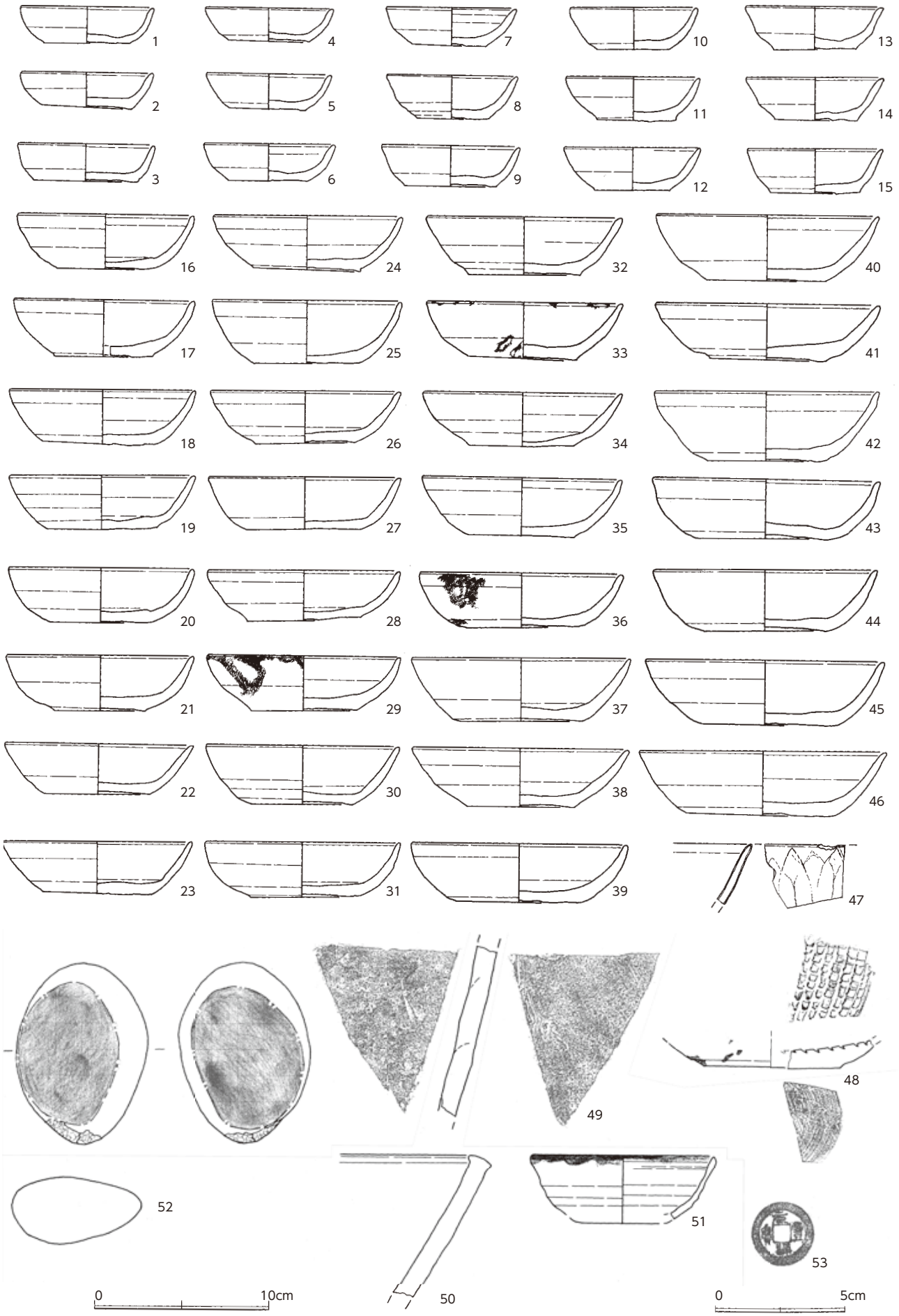



図16　第３面溝１出土遺物

## ４．第４面の遺構・遺物

第４面は調査区北側で海抜高35. 65m前後、南端で海抜高約35. 70mで確認できた。検出した遺構は土坑11基・溝１条・ピット22穴である。遺物にはかわらけ皿の他にほ貿易陶磁器、国産陶器、瓦質製品、石製品、金属製品、ガラス片などがあげられる。

**土坑１**(図17・18)：調査区の中央北側、C-2グリット付近で検出。短辺67cm×長辺152cm×深さ25cm、長楕円形を呈する。遺構からは面取りして調整した砂岩が出土したが、これが遺構に伴い据えられたものか廃棄されたものかは不明である。覆土は茶灰色砂質土であり、良好な出土遺物はない。

**土坑２**(図17・18)：土坑１の北東側、Ｃ－２グリット付近で検出。短辺65cm×長辺69cm×深さ

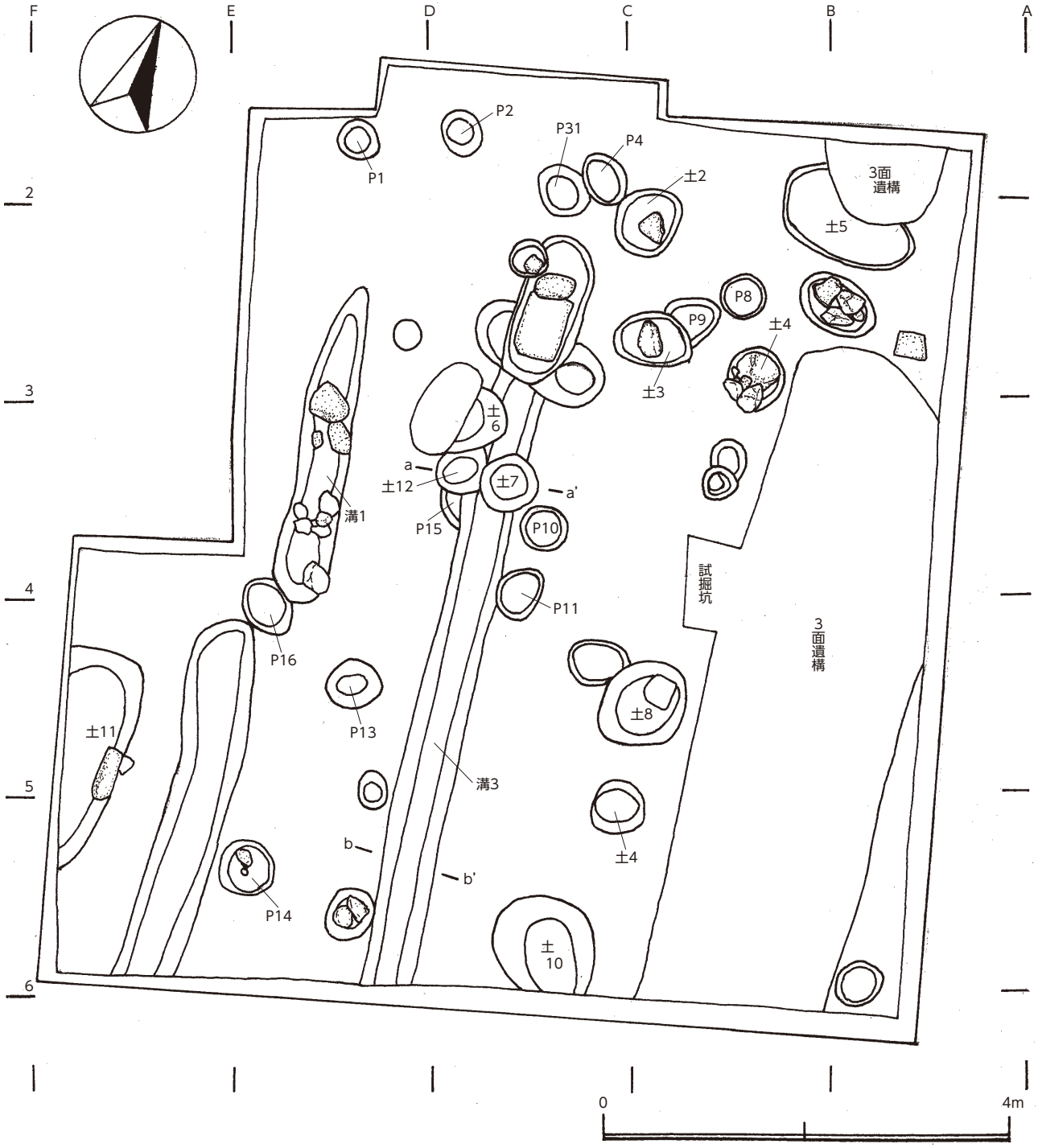



図１７　第４面遺構全測図

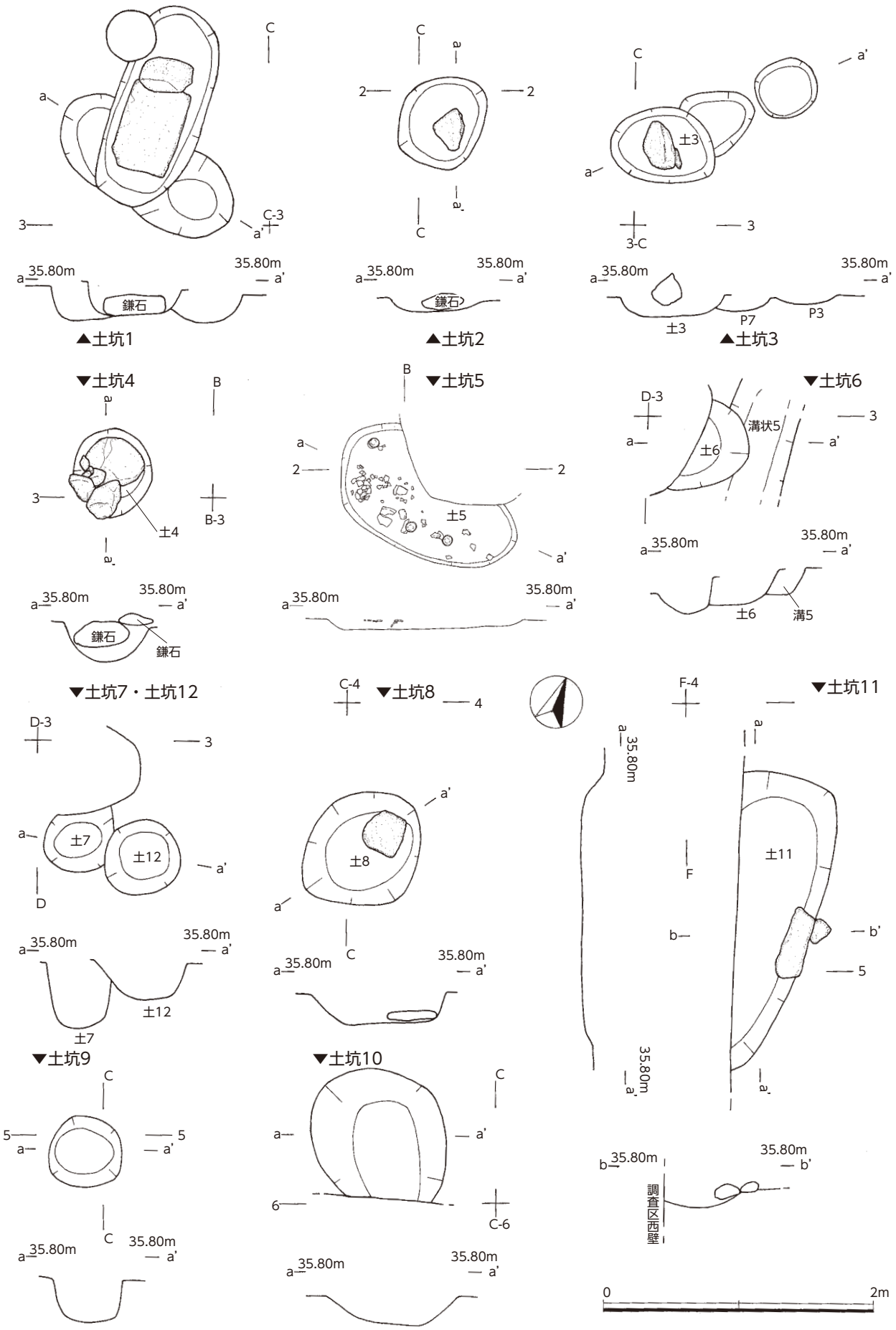

▲土坑1
▲土坑2
▲土坑3
▼土坑4
▼土坑5
▼土坑6
▼土坑7・土坑12
▼土坑8
▼土坑9
▼土坑10
▼土坑11
鎌石
溝状5
溝5
調査区西壁
35.80m
0
2m

図１８　第４面遺構（1）

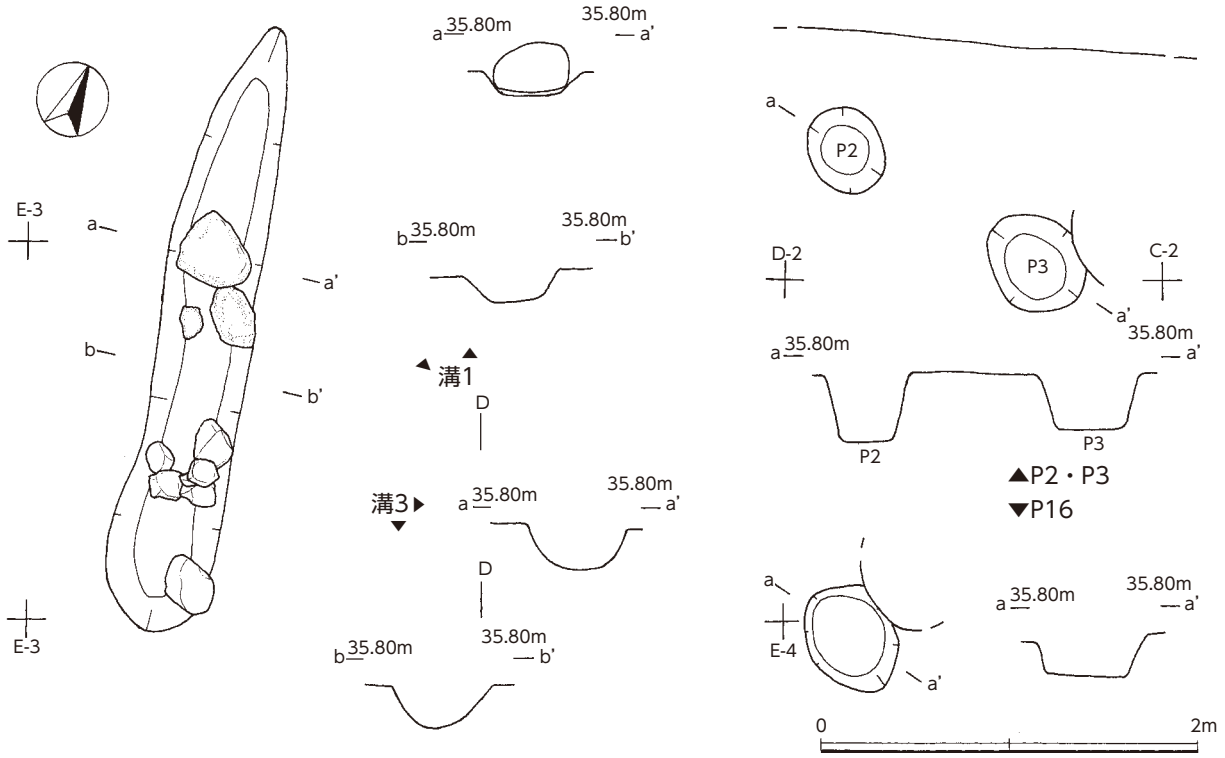



図１９　第４面遺構（２）

10cm、不成形な円形を呈する。覆土は土丹粒、粗砂を多く含む単層の土、良好な遺物は出土してない。

**土坑３**(図17・18)：土坑１の東側、Ｃ－３グリット付近で検出。短辺54cm×長辺75cm×深さ16cm、円形を呈する。覆土は炭化物を含んだ茶褐色土、図20－１の平瓦が出土している。

**土坑４**(図17・18)：土坑３東側、Ｂ－３グリット付近で検出。短辺58cm×長辺65cm×深さ29cm、円形を呈する。覆土は炭化物が多い締まりのない砂質土で、覆土の上部は砂岩が充填されて礎石なる可能性のある扁平な砂岩塊もあるが、対になる遺構は検出されていない。出土遺物はかわらけ細片だけである。

**土坑５**(図17・18)：調査区の北東隅、Ｂ－２グリット付近で検出。一部を第2面の土坑4により壊されている。短辺78cm×長辺146cm、深さは8cmと非常に浅く、落ち込み状の遺構である。覆土は茶褐色砂質土で、遺物は2～12はロクロ成形のかわらけ大・中・小皿である。かわらけの多くは覆土の上層から出土している。

**土坑６**(図17・18)：調査区の中央北側、Ｄ－３グリット付近で検出。土坑12・溝3をきる。第3面土坑6に遺構の西側を破壊されているため遺構の規模は不明である。深さは21㎝を測る。覆土は砂質土である。

**土坑７**(図17・18)：調査区のほぼ中央、Ｃ－３グリット付近で検出。土坑12・溝3をきる。径約60cm、深さ29cm、円形を呈する。覆土は締まりのない茶褐色砂質土あり、出土遺物は伴っていない。

**土坑８**(図17・18)：Ｃ－４グリット付近で検出。短辺85cm×長辺99cm×深さ24cm、楕円形を呈する。覆土は小土丹、かわらけ粒を含む砂質土であり、良好遺物は出土していない。

**土坑９**(図17・18)：土坑８の南側、Ｃ－５グリット付近で検出。径約50cm、深さ29cm、円形を呈する。覆土は茶灰褐色土で、出土遺物はない。

**土坑10**(図17・18)：土坑９の南側、Ｃ－３グリット付近で検出。遺構の南側は調査区外へ延びる。確認規模は短辺98cm×確認された長辺115cm×深さ21cm、楕円形を呈すると思われる。覆土は炭化物、かわらけ粒を多く含む締まりのない茶褐色砂質土であり、遺物は13が糸切底のかわらけ小皿、14は北部系山茶碗が出土している。

**土坑11**(図17・18)：調査区西側Ｆ－５グリット付近で検出。遺構の西側は調査区外へ延びる。深さ

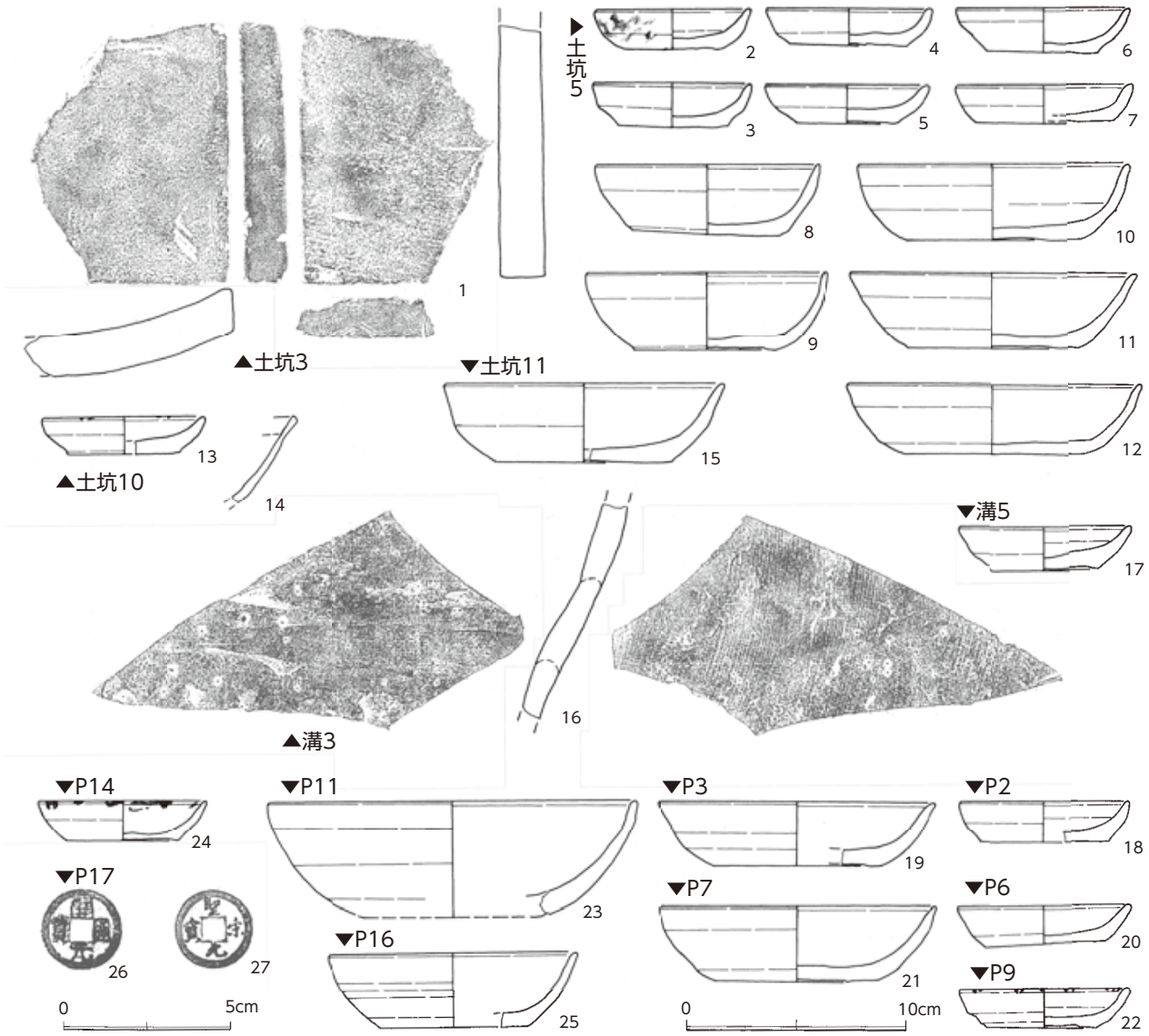



図２０　第４面出土遺物（１）

24cmで楕円形を呈すると思われる。覆土は炭化物を含む砂質土であり、15のかわらけ大皿が1点出土した。

**土坑12**(図17・18)：調査区のほぼ中央、C－3グリット付近で検出。土坑6・土坑7にきられ、溝3・ピット15をきる。深さ48cm、楕円形を呈すると思われる。覆土は茶褐色砂質土であり、良好な遺物は出土していない。

**溝1**(図17～20)：調査区の中央西側、Dライン上で検出され、ピット16をきる。主軸方位はN－3°30′－Wを測る。長さは約319cm×幅57～35cm×深さ16～12㎝で北から南へ下っている。底面から覆土上部に砂岩塊と土丹塊がみられた。覆土は茶褐色砂質土であり、出土遺物は16の常滑甕だけである。

**溝2**(図17)：溝1の南側、Eライン上で検出。主軸方位は溝1とほぼ同じ軸方位である。遺構の南側は調査区外へ拡がっている。確認された長さは366cm×幅67～59cm×深さ15cmほどで浅く、底面は北から南へ向かって緩やかに傾斜する。出土遺物はない。

**溝3**(図17・19)：溝1・溝2の東側、C～Dライン上で検出。土坑1・土坑6・土坑7・土坑12・ピット11にきられ、ピット15をきる。主軸方位は溝1・2とほぼ同一方向を示している。遺構の南側は調査区外へ拡がっている。確認された規模は長さ620cm以上×幅67～59cm×深さ21～24㎝で傾斜はほとんどない。覆土は締まりのない茶褐色砂質土であり、出土遺物には17のかわらけ小皿だけである。

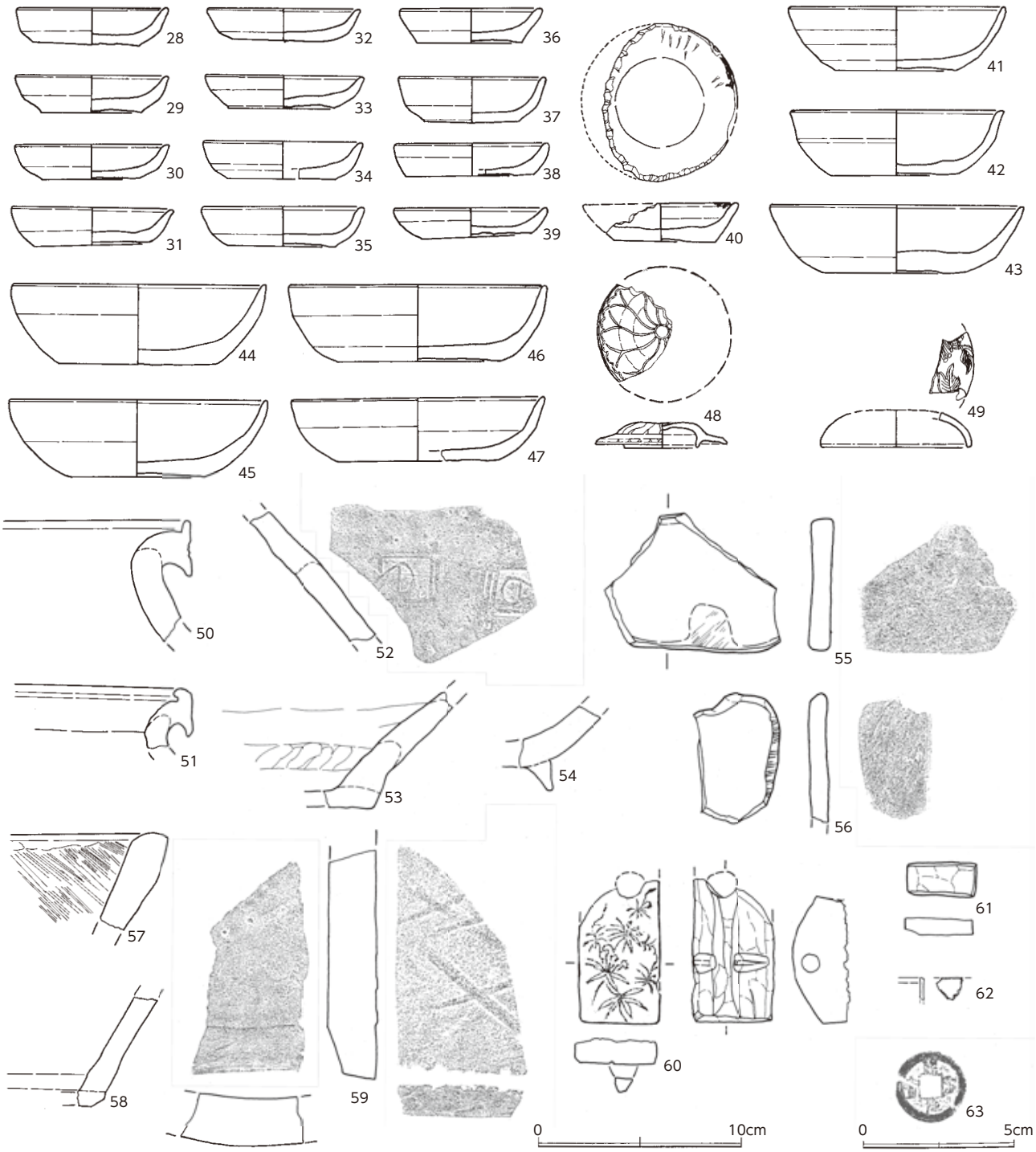



図２１　第４面遺構外出土遺物

**ピット**(図17・19)：検出したピットのうち、実測可能な遺物が出土したのは□穴であり、そのうち5穴についてここで説明をおこなう。ピット２・ピット３は調査区北側で検出。ピット２は短辺38cm×長辺47cm×深さ37cm、楕円形を呈する。覆土は炭化物を多く含む砂質土の単層であり、18のかわらけ小皿が出土。ピット３は短辺48cm×長辺55cm×深さ30cm、楕円形を呈する。覆土は土丹粒、粗砂を多く含み締まりなく、かわらけ大皿が１点出土している。ピット７・ピット８は土坑３の東側で検出。ピット７は土坑３にきられ全体の形は不明であるが、楕円形を呈していたと思われる。深さは12cmで、覆土は茶褐色砂質土、21のかわらけ大皿が出土。ピット８は短辺42cm×長辺45cm×深さ11cm、ほぼ円形

を呈する。覆土は土丹粒を含む土で、出土遺物はない。

ピット16は調査区の中央西側、溝1にきられるかたちで検出した。短辺43cm×長辺61cm×深さ24cm、楕円形を呈する。覆土は炭化物の多い茶褐色土、25のかわらけ中皿が出土した。

**第４面遺構外出土遺物**(図21)：かわらけはすべてロクロ成形である。28～40は小皿で口径8cm以下、器高2cm以下の資料が主体で、41・42は薄手器壁のもの、43～47の大皿は口径12.7cm前後である。48・49は白磁の小壺・合子、50～53は常滑窯甕、54が片口鉢Ⅰ類、55・56は常滑甕片の加工品、

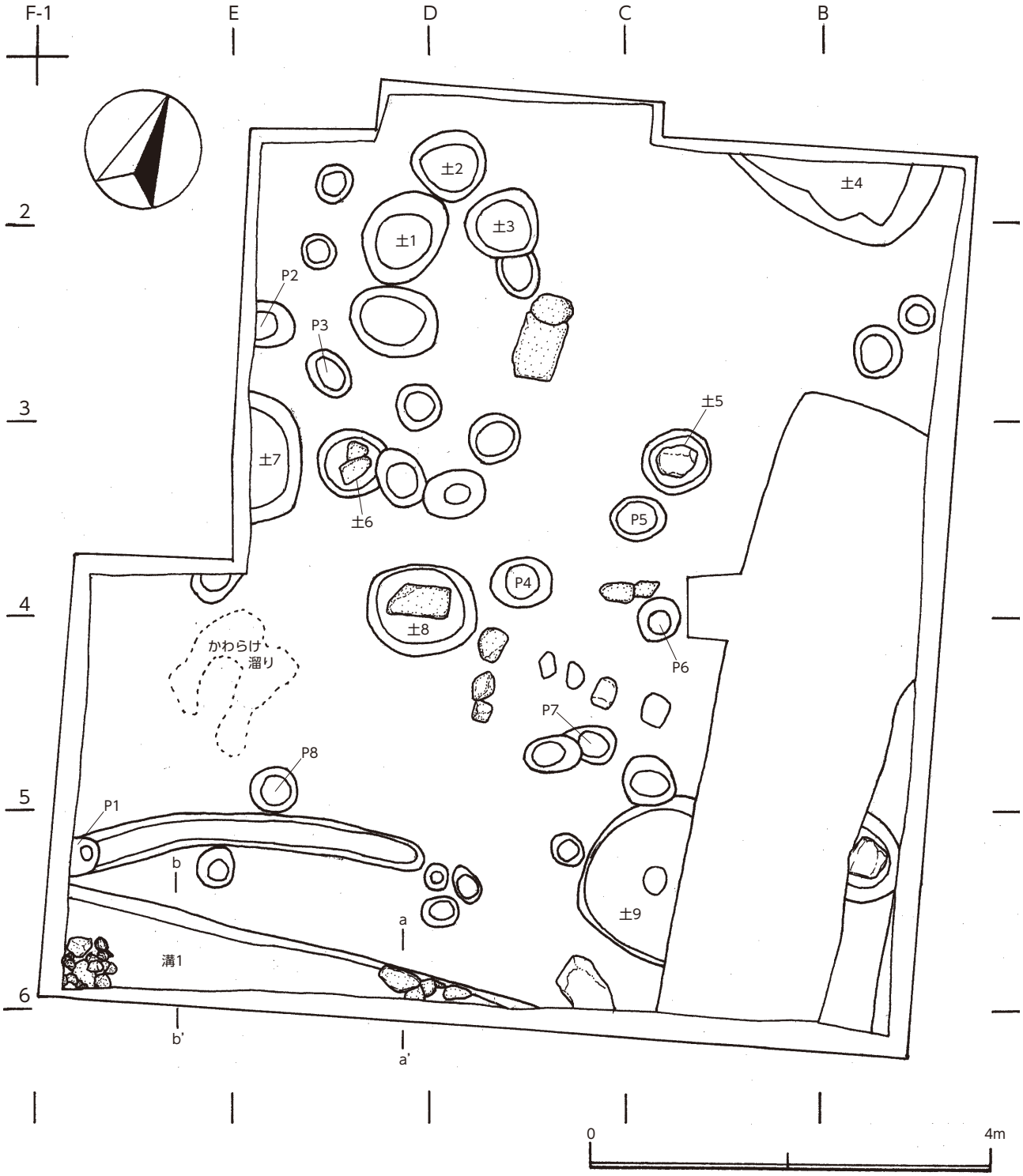



図２２　第５面遺構全測図

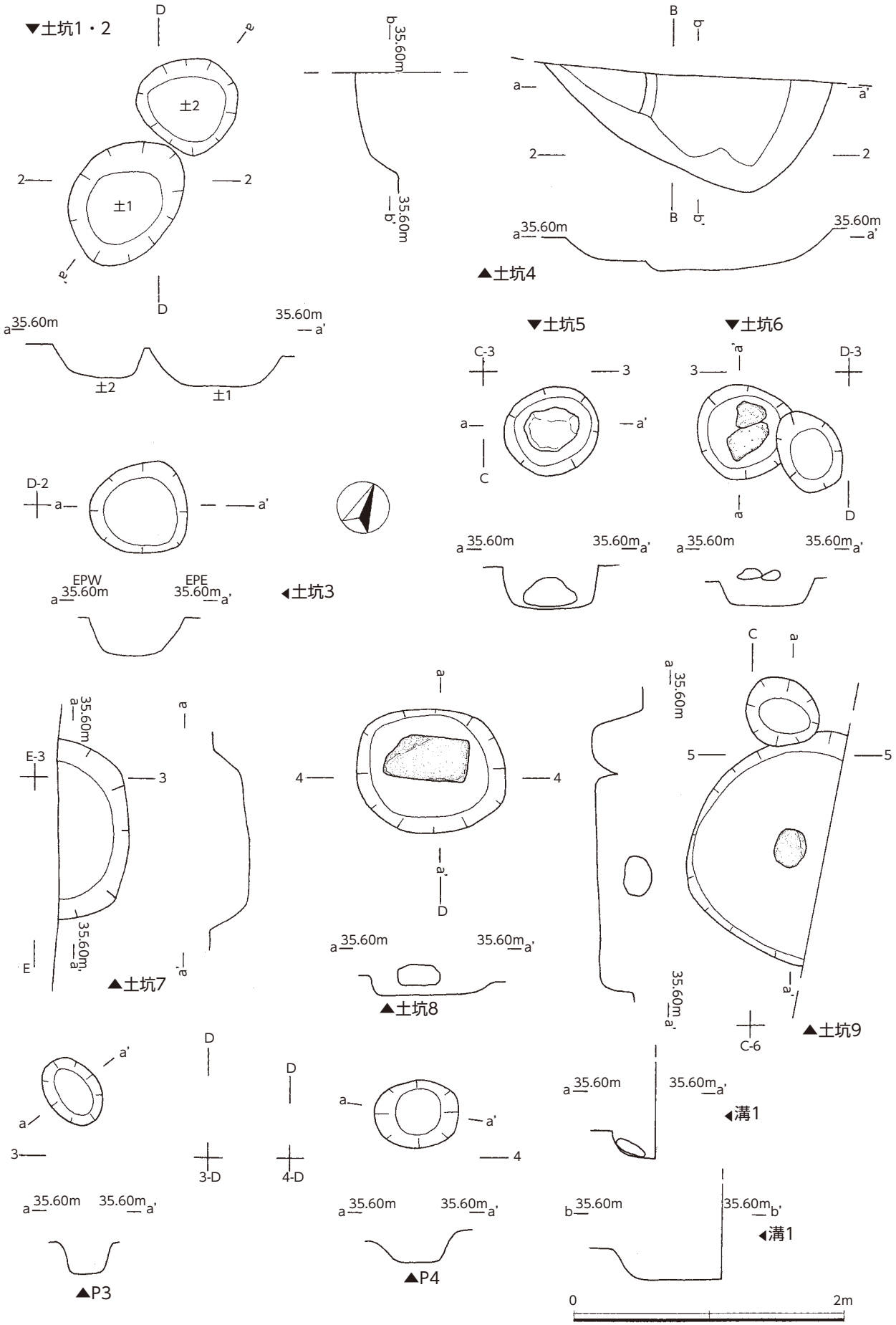

▼土坑1・2
土2
土1
35.60m
▲土坑4
▼土坑5
▼土坑6
C-3
D-3
D-2
EPW
EPE
◀土坑3
E-3
▲土坑7
▲土坑8
▲土坑9
C-6
◀溝1
3-D
4-D
▲P3
▲P4
0
2m

図２３　第５面各遺構

57・58は鉢形火鉢、59は平瓦、60・61は滑石製品、62はガラス製品、63は銅銭で「紹聖元宝」の北宋銭である。

## 5．第５面の遺構・遺物

第５面は調査区北端から南端はほぼ平坦で生活面で海抜高約35. 40mを測る。検出した遺構は土坑９基、溝２条、石列・かわらけ溜りが１箇所・ピット30穴ほどである。

**土坑１**(図22・23)：調査区の北側、D－２グリット付近で検出。短辺76cm×長辺99cm×深さ28cm、楕円形を呈する。覆土は炭化物、粗砂を含む砂質土で、遺物は図25－１の糸切底のかわらけ大皿が出土。

**土坑２**(図22・23)：土坑１の北側、D－２グリット付近で検出。短辺67cm×長辺72cm×深さ23cm、不成形な円形を呈する。覆土は締まりのない砂質土、２の平瓦１点が出土した。

**土坑３**(図22・23)：土坑１・土坑２の東側にてピットを壊すかたちで検出。短辺66cm×長辺74cm×深さ28cm、不成形な円形を呈する。覆土は茶灰褐色土であり、３のかわらけ小皿が出土。

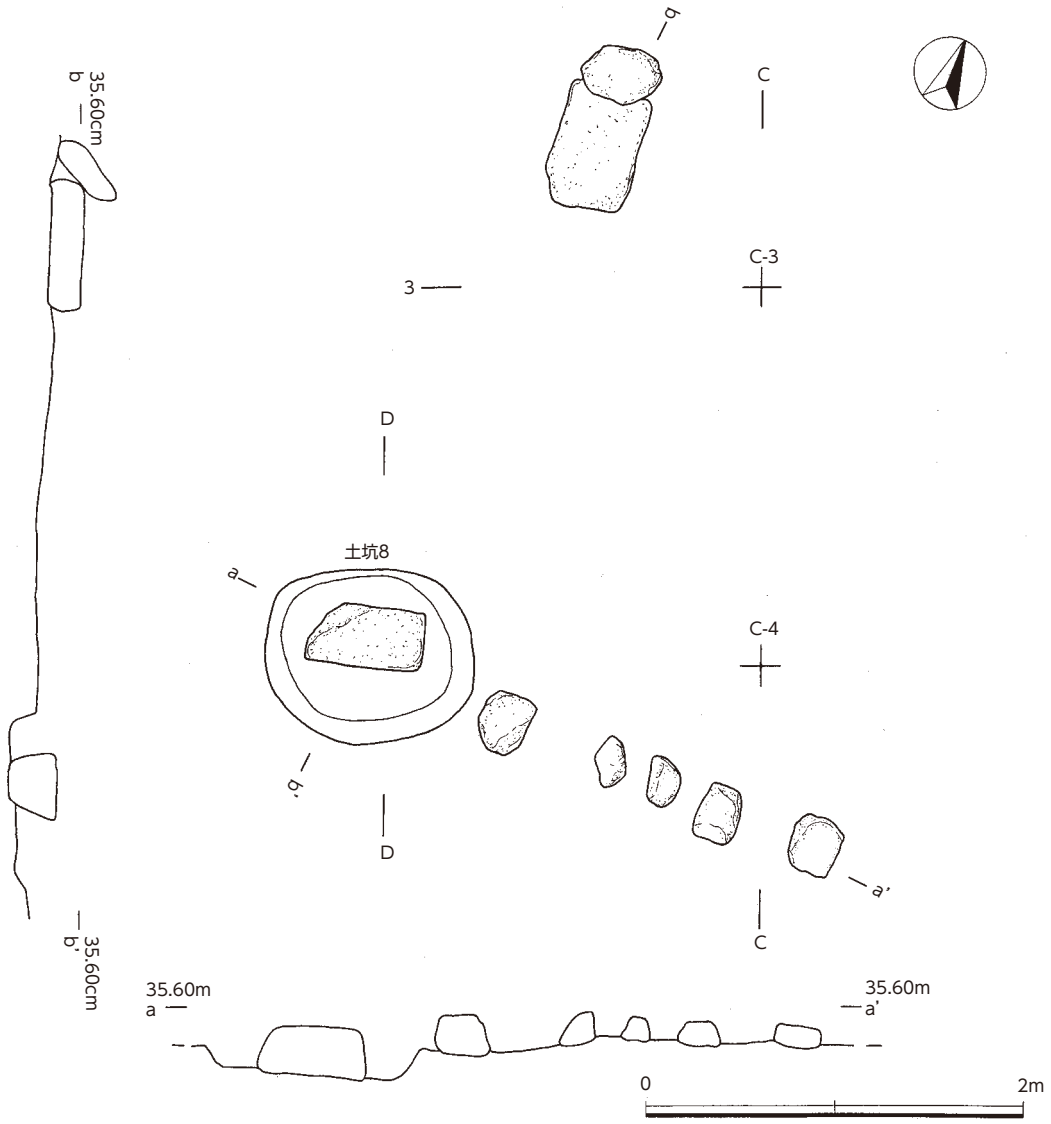



図２４　第５面石列

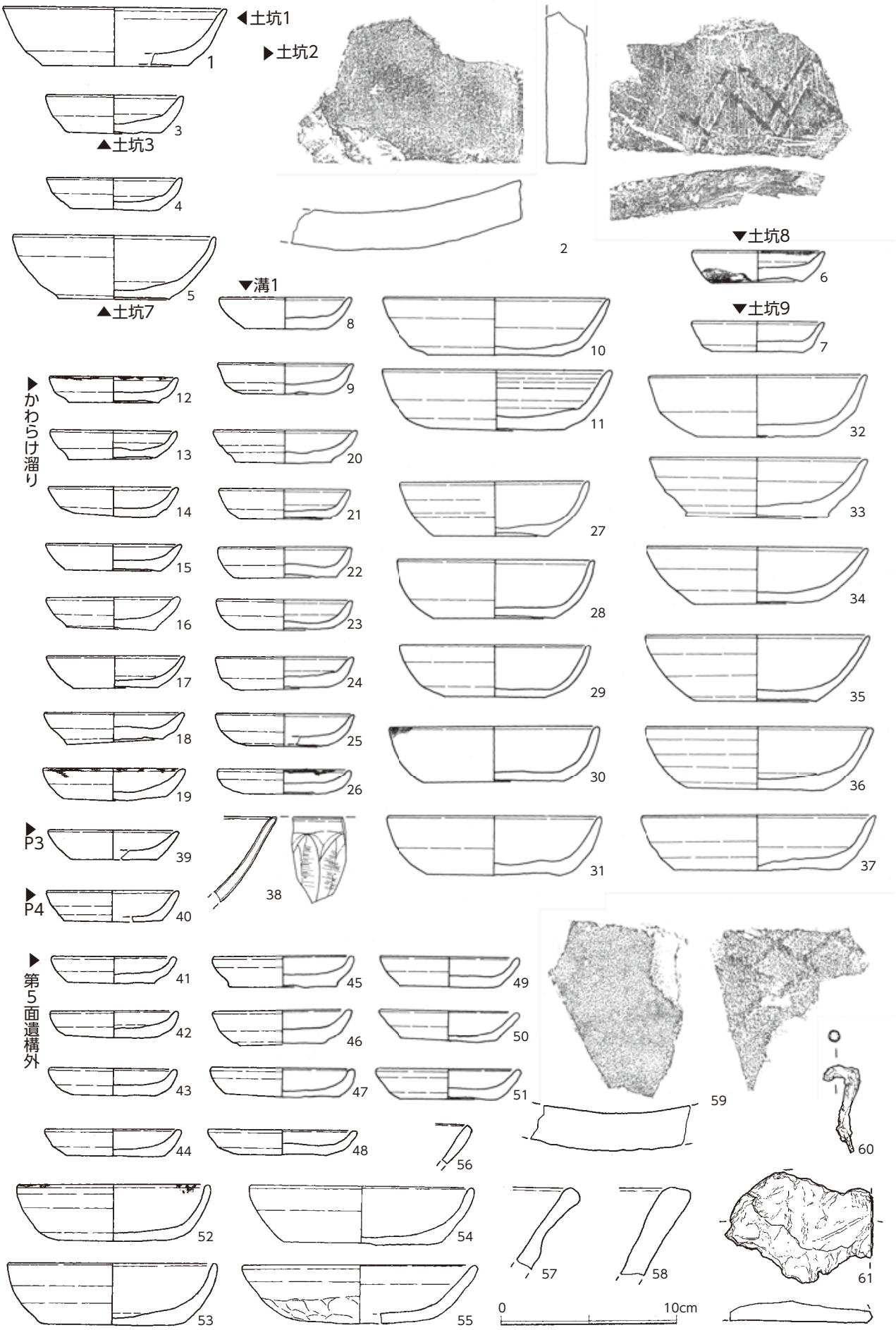



図２５　第５面出土遺物

**土坑４**(図22・23)：調査区の北東隅、Ｂ－２グリット付近で検出。遺構のほとんどが調査区外に拡がっているため規模は不明である。深さは28cmで覆土は砂質土。出土遺物はない。

**土坑５**(図22・23)：調査区の中央東側、Ｃ－３グリット付近で検出。短辺62cm×長辺70cm、深さは30cmで楕円形を呈する。覆土は締まりのある茶褐色弱粘質土で、遺構からは人頭大の泥岩塊が検出されているが、対になる遺構は検出されず、意図的に据えられたものではないと思われる。出土遺物はない。

**土坑６**(図22・23)：調査区の中央西側、Ｄ－３グリット付近にてピット□にきられるかたちで検出。径

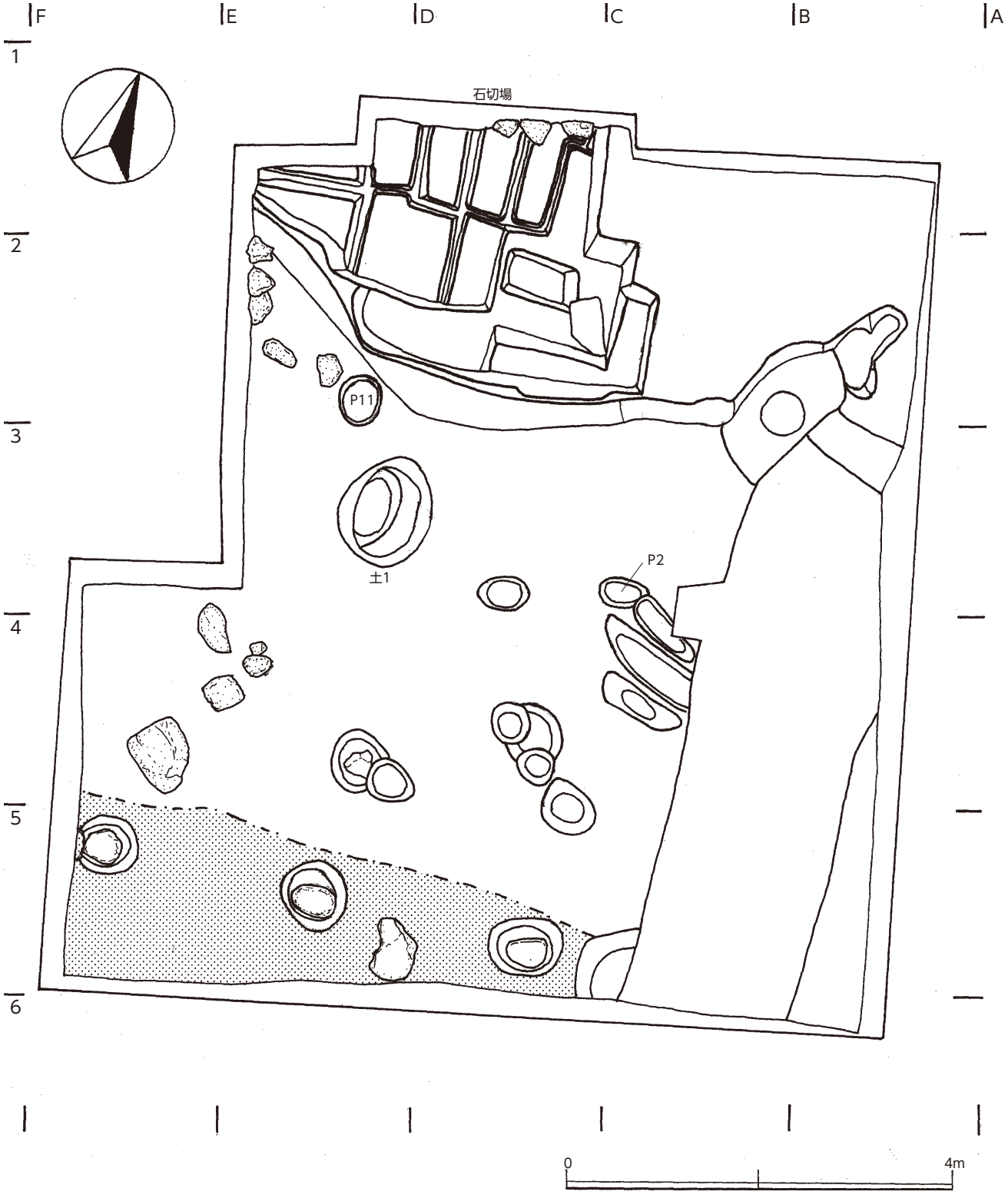



図２６　第６面遺構全測図

約70cmの円形を呈し、深さは17cmを測る。覆土は土丹粒、炭化物を多めに含む土で、遺物出土はない。

**土坑7**(図22・23)：土坑6の西側、E－3グリット付近で検出。遺構の半分は調査区外に拡がっているが、おそらく楕円形を呈すると思われる。深さは28cmで、覆土は炭化物の多い砂質土、出土遺物には4・5のロクロ成形のかわらけ小皿が出土した。

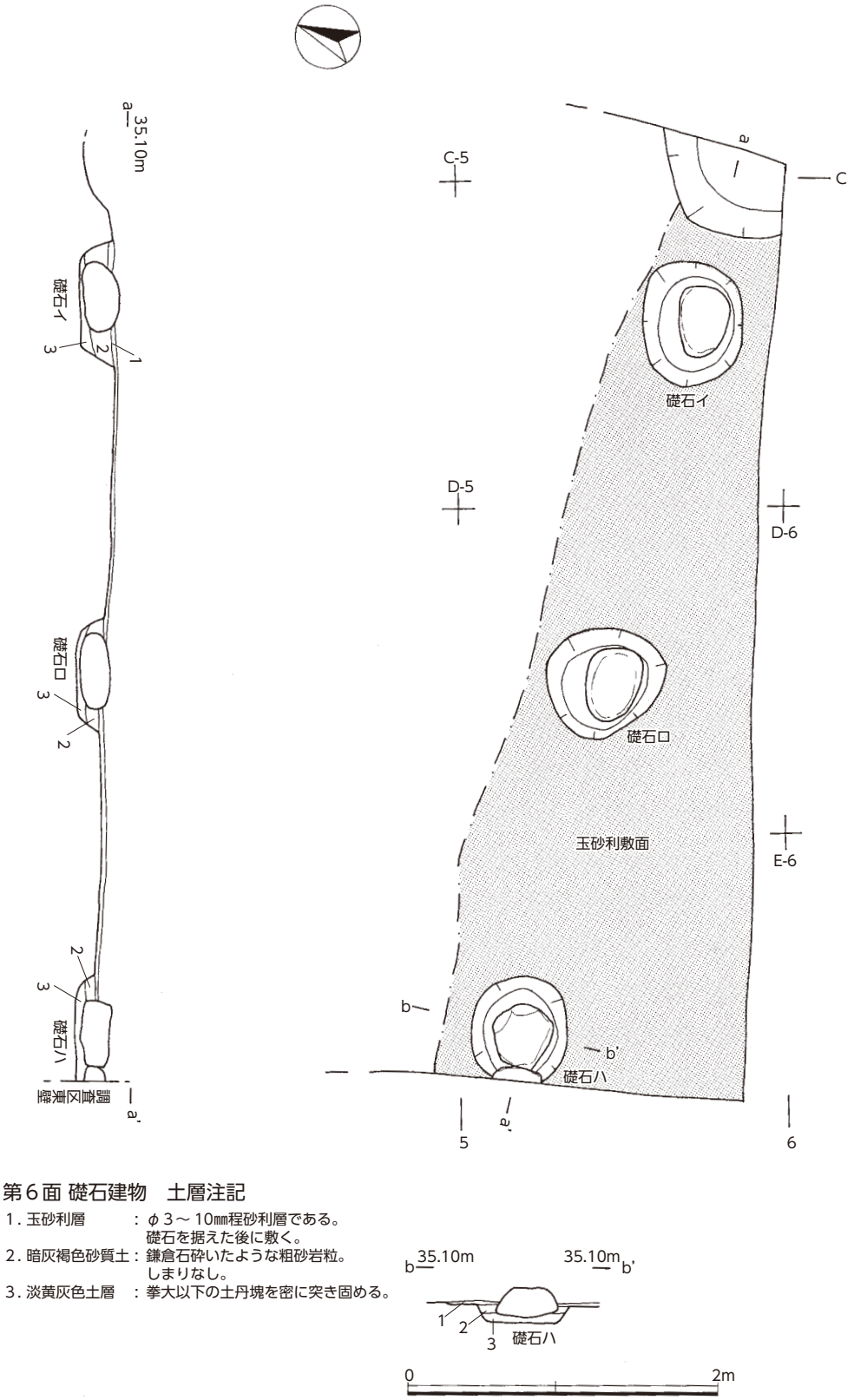



図２７　第６面礎石建物

**土坑8**(図22・23)：調査区のほぼ中央、D－4グリット付近で検出。短辺98cm×長辺107cm×深さ15cm、楕円形を呈する。覆土は鎌倉石の破砕粒を多く含み、覆土上層からは一部欠損しているが長さ61cm×幅33cm×厚さ18cmの整形された砂岩塊が検出された。出土遺物はかわらけ小皿がある。

**土坑9**(図22・23)：C－5グリット付近にてピットに切られる状態で検出。遺構の東側は3面溝1に壊されているため規模は不明である。深さは25cmを測る。覆土から7のかわらけ小皿の遺物が出土した。

**溝1**(図22)：調査区の南側、6ライン上で東西方向の主軸方位で検出された。遺構は調査区外に拡がっているため全体は不明であるが、確認された長さは東西方向で約490cm、深さ20㎝前後で底面の海抜は東から西へ向かって緩やかに下っている。覆土は茶褐色土で締まりなく、出土遺物には8～11のかわらけ大小皿がみられた。

**溝2**(図17)：溝1の北側、5ライン上にてピット1にきられるかたちで検出。遺構の西側は調査区外へ拡がっているが、確認された長さは355cm×幅40～37cm×深さ18㎝ほどで底面標高は東から西へ緩やかに下る。覆土は茶灰褐色砂質土で、良好な遺物の出土はない。

**石列1**(図22・24)調査区のほぼ中央で検出した。遺構は「L」字状を呈しており、溝1とほぼ並行・直行した主軸方位の関係である。石列を構成する石材は砂岩であり、石列に使用されている石の多くは不整形のものだが、南北方向の北側の砂岩塊は長さ64cm×44cm×厚さ16～20cmに整形されたものが使用されている。南北軸と東西軸の交わる石は土坑8から検出されており、この石を設置するにあたり、表面の高さを調整する目的で土坑8が掘られた可能性も考えられる。遺構の性格は不明だが、溝1と主軸が似ている点に留意しておいきたい。

**かわらけ溜り1**(図22)E－4ライン付近で検出。確認されたかわらけ溜りの範囲は東西約1.3m、南北約1.5mで、かわらけ溜りの周辺は周りに比べ15cmほど低くなり、窪地状の場所にかわらけを廃棄したものと思われる。出土遺物には12～37のロクロ成形かわらけ皿のほかに38の青磁鎬蓮弁文碗がある。

**ピット**(図22・23)：検出したピットのうち、実測可能な遺物が出土したのは2穴についてここで説明をおこなう。ピット3はD－3付近で検出。短辺38cm×長辺54cm×深さ25cm、楕円形を呈する。覆土は茶灰褐色土の単層である。ピット4は調査区中央、D－4付近で検出。短辺50cm×長辺61cm×深さ22cm、楕円形を呈する。覆土は炭化物、粗砂を多く含む土である。遺物は両ピットからかわらけ小皿が出土。

**第5面遺構外出土遺物**(図25)：41～55はロクロ成形のかわらけ皿である。41～51は口径7.0～8.2cm、器高1.6cmの低い器高の小皿であり、52～54は口径と底径の比率がやや小さめの大皿である。55は外底に指頭圧痕を残す手づくねかわらけの大皿である。

56は瀬戸窯卸皿、57は常滑窯片口鉢Ⅰ類、58は瓦質火鉢の鉢形のもの、96は鎌倉時代前期の平瓦である。60は鉄釘、61は石硯である。

## 6．第6面の遺構・遺物

第6面は調査区北側で海抜高約35. 30m、南側で海抜高約35. 20mが確認できほぼ平坦な地形を呈している。検出した遺構は礎石建物1軒、石切場、土坑4基・ピット9穴である。

**石切場**(図26)：調査区の北側、C～E-1～3グリット付で検出。調査区の北側、3グリット以北は岩盤面が露出しているが、この岩盤面から長さ約80㎝×幅約40cmの石を切り出した痕跡が発見されたた。調査区内からは少なくとも7点の石を切り出したものと思われる。

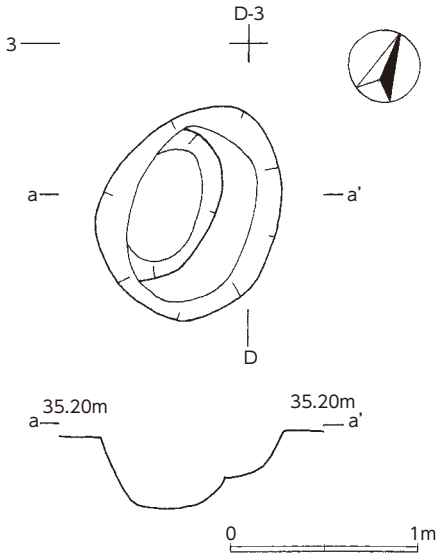


図28　第6面土坑1

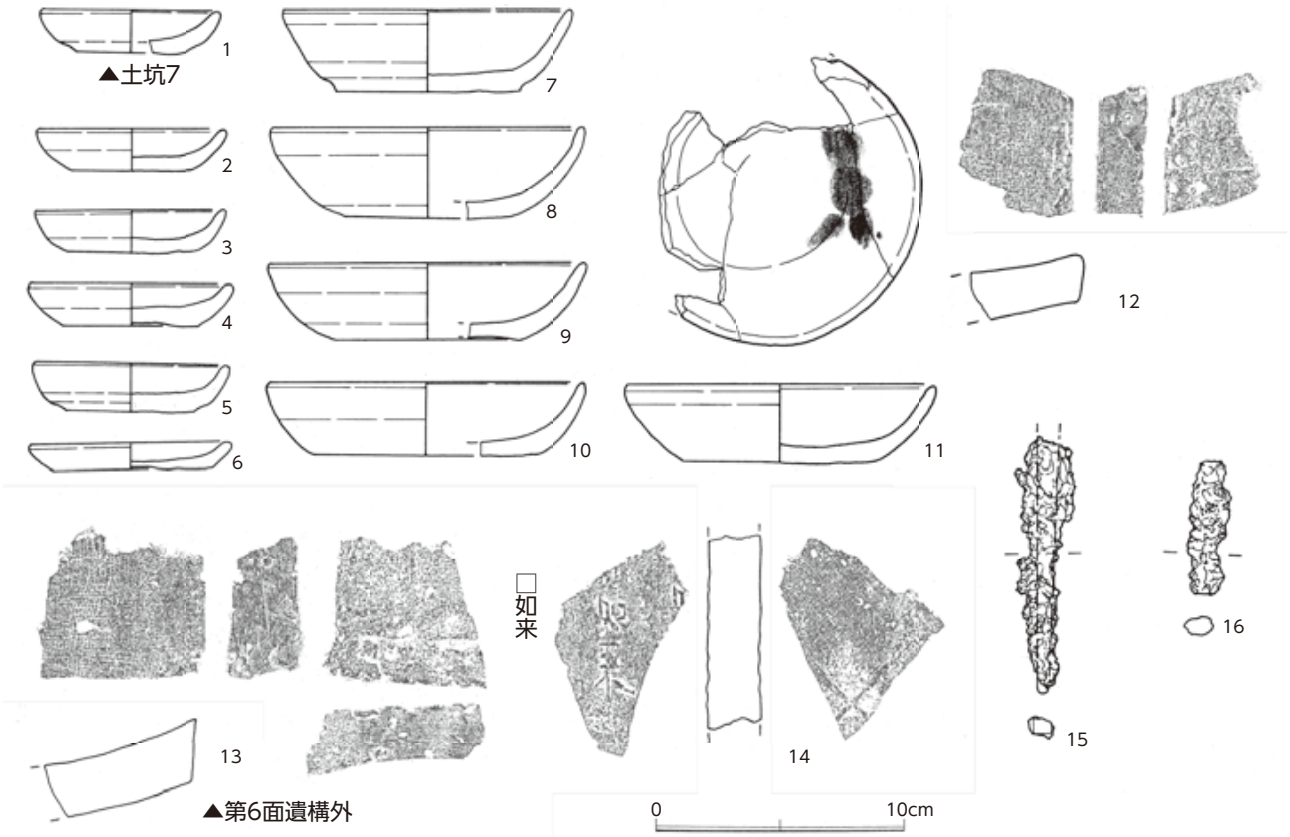



図２９　第６面出土遺物

**礎石建物**(図26・27)：調査区の南側、５～６ライン付近で図２８　第６面土坑検出。主軸方向は東西軸方位を示している。調査区内から礎石は３個で径は30～46cm、厚さ18～22cmの安山岩。礎石間隔は約230cmである。５ライン以北からは礎石及び、礎石を抜き取った痕跡が確認されなかったことから建物は調査区の南側に拡がっていると思われる。なお図26にトーンで表現した箇所は３～10mmほどの小石が引き詰められていた部分である。

**土坑１**(図26・28)：調査区の中央、D－３グリット付近で検出。短辺93cm×長辺114cm×深さ46cm、楕円形を呈する。覆土は暗茶褐色弱粘質土で炭化物の多く含む、図29－１のロクロ成形のかわらけ小皿が出土している。

**第６面遺構外出土遺物**(図29)：かわらけ皿はロクロ成形である。２～６の小皿は口径7.5～8.1cm、底径5.2～6.5cm、器高は６以外が1.7cm前後である。７～11の大皿は口径13cm以下、器高3cmを超す資料である。12・13は平瓦で鎌倉前半期所産、14も平瓦で凹面に「□如来」押印。15・16は鉄釘である。

## 7. 第６面下トレンチ

本調査前の試掘調査の結果では第６面下からの生活面は確認されなかった。しかし、本遺跡が位置する小谷戸が最終面である第６面以前に人々が生活するために人為的に開発されたのか確認する必要があったため、調査区内に二箇所トレンチを設定した。

トレンチは調査区西壁沿い石切場からの岩盤落ち込み部を確認する目的のトレンチ１と、調査区南西隅にあたる壁直下にトレンチ２をそれぞれ設定して遺構・遺物の有無を確認を実施した。その結果、トレンチ１では岩盤は急な角度で南下へ傾斜しており、人為的な痕跡は見受けられなかった。また、トレンチ２では岩塊が発見されているが、土層観察から無遺物層で生活の痕跡は認められなかった。従って、第６面以下は自然崩落による完全な自然堆積層の地形であることが判明した。

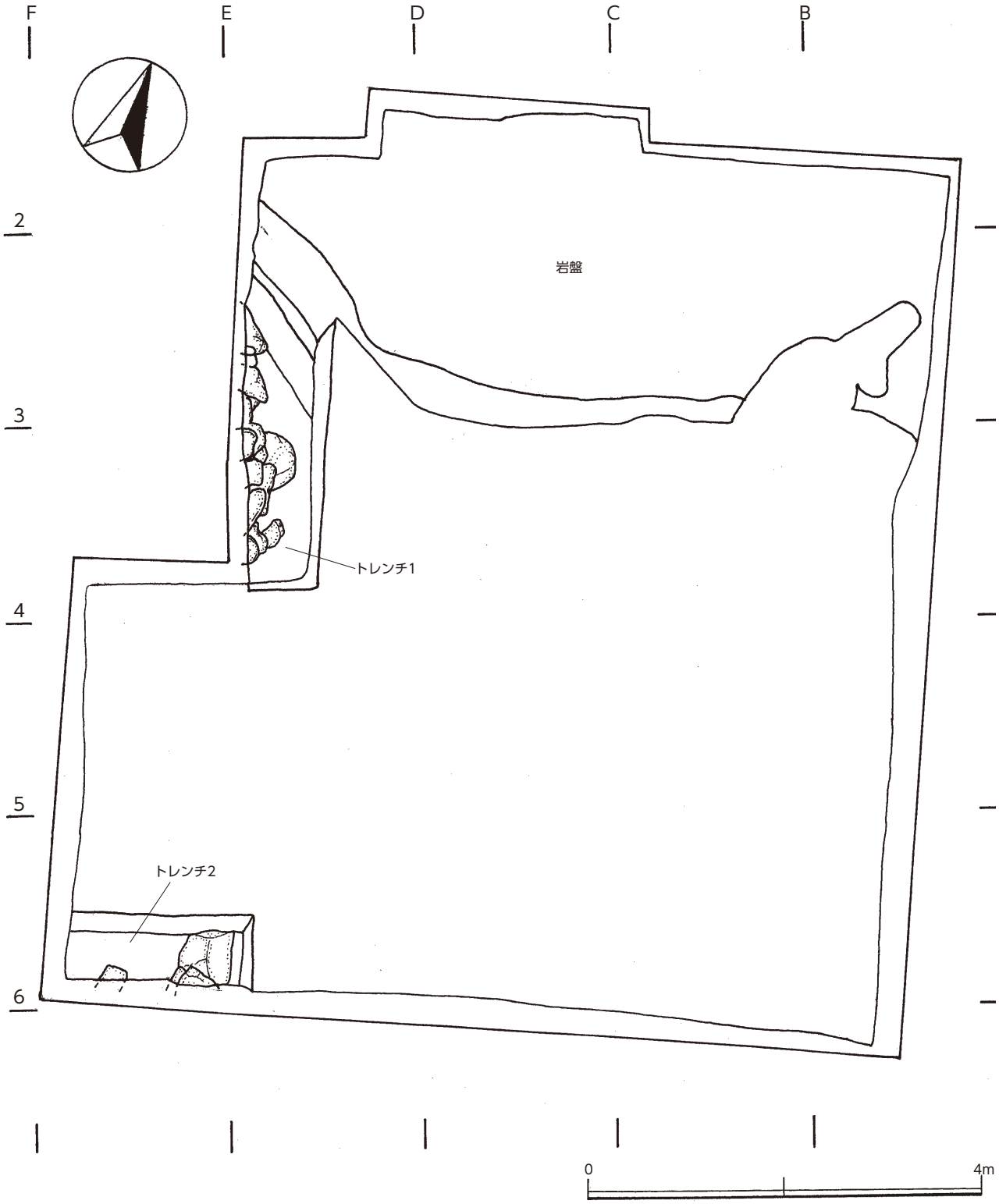



図３０　第６面下トレンチ

## 表２　遺物観察表（1）

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7- 1 | 第1面 土坑5 | かわらけ | (11.2) | (6.7) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 7- 2 | 〃 | かわらけ | (12.5) | (6.6) | 2.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 7- 3 | 〃 | 瀬戸 折縁深皿 | 底部片 | | | a.ロクロ 内底に櫛掻文を回転施文 b.良土 c.黄白色 d.刷毛塗り 白濁した灰釉 薄く施釉 e.良好 |
| 7- 4 | 〃 | 常滑 片口鉢 | 口縁部片 | | | a.輪積技法 口唇部やや角張る b.灰黒色 長石粒 石英粒多く含む c.器表茶灰色 e.良好 |
| 7- 5 | 溝1 | かわらけ | (7.6) | (4.6) | 2.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内面全体に黒色物質付着 |
| 7- 6 | 〃 | かわらけ | (10.4) | (5.7) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 7- 7 | 〃 | かわらけ | (10.9) | (6.4) | 3.2 | a.ロクロ 外底糸回転切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 7- 8 | 〃 | かわらけ | 13.4 | 7.5 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土気味 c.橙色 e.良好 |
| 7- 9 | 〃 | 瀬戸 柄付片口(行平鍋) | (17.0) | — | — | a.ロクロ 口縁部を折縁状に成形 b.灰色 黒色微砂 d.灰緑色の灰釉を内外面に刷毛塗り e.堅緻 f.古瀬戸中Ⅱ期様式 |
| 7-10 | P13 | かわらけ | (7.6) | (5.5) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部に煤付着 灯明皿 |
| 7-11 | 第1面 遺構外 | かわらけ | (7.2) | (5.2) | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 7-12 | 〃 | かわらけ | (7.4) | (4.8) | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 7-13 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (4.3) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 7-14 | 〃 | かわらけ | (10.3) | (5.5) | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 7-15 | 〃 | かわらけ | — | (8.8) | — | a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁 特大皿 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 7-16 | 〃 | 龍泉窯系 青磁碗 | 口縁部片 | | | a.ロクロ b.灰色 d.灰緑色不透明 厚手施釉 小気泡多い e.堅緻 f.外面無文 |
| 7-17 | 〃 | 白磁 口兀皿 | (11.1) | — | — | a.ロクロ b.灰白色 緻密 d.灰白色不透明 口唇部露胎 e.堅緻 |
| 7-18 | 〃 | かわらけ質土製品 | 口縁部片 | | | a.ロクロ 口縁部肥厚 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 7-19 | 〃 | かわらけ質土製品 | 底部片 | | | a.板作りを継ぎ合せた製作法で方形状を呈すもの b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 10- 1 | 第2面 土坑2 | かわらけ | (7.0) | (4.4) | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 10- 2 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.3) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.不良 |
| 10- 3 | 〃 | かわらけ | (12.6) | (7.3) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海面骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.黄灰色 e.不良 |
| 10- 4 | 〃 | 青白磁 無頸小壺 | 口縁部片 | | | a.外型作りで外面に花形文型捺し b.白色緻密 d.水青色半透明 口唇部内外が露胎 |
| 10- 5 | 〃 | 常滑 甕 | 肩部片 | | | a.輪積技法 b.灰黒色 長石 石英粒 黒色粒 粗土 c.外面:明灰色 内面:茶褐色 e.堅緻 f.自然降灰がごま降り状 |
| 10- 6 | 第2面 土坑7 | かわらけ | 7.3 | 5.4 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 10- 7 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.2) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.不良 |
| 10- 8 | 〃 | かわらけ | (10.3) | (6.2) | 2.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 10- 9 | 〃 | かわらけ | (11.1) | (6.2) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 10-10 | 第2面 溝1 | かわらけ | (7.6) | (5.8) | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや不良 f.口唇部に煤付着 灯明皿 |
| 10-11 | 〃 | 瀬戸 折縁深皿 | 底部～体部片 | | | a.ロクロ b.黄灰色 白色粒 d.灰緑色白濁気味の灰釉を粗く刷毛塗り 外底露胎 e.堅緻 |
| 10-12 | 〃 | 鉱滓 | 1.8×2.2 | | | f.緑青がふいて銅滓の可能性が高い |
| 10-13 | 〃 | 砥石 | 残存長6.2×幅3.6×厚さ1.1～0.5 | | | a.砥面:表裏2面 上端面は切出痕 c.黄味肌色 f.京都鳴滝産仕上砥 |
| 10-14 | 第2面 P-2 | かわらけ 内折れ | (3.3) | (2.6) | 0.9 | a.ロクロ 口唇部がやや内側へ折れる b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 10-15 | 〃 | かわらけ | (12.4) | (7.6) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 10-16 | 第2面 P-3 | かわらけ | 7.5 | 5.1 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部煤付着 灯明皿 |
| 10-17 | 第2面 P-4 | かわらけ | (7.5) | (5.0) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.不良 |
| 10-18 | 第2面 P-7 | 瀬戸 入子 | (9.4) | (4.5) | 2.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 輪花型ヘラで押し込む b.灰白色 砂粒 少量の長石粒 良土 d.内側のみ灰白色の自然釉 e.良好 硬質 |
| 10-19 | 第2面 遺構外 | かわらけ | (7.2) | (5.1) | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや不良 f.口唇部に煤付着 灯明皿 |

## 表３　遺物観察表（2）

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径（ｃｍ） | 底径（ｃｍ） | 器高（ｃｍ） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10-20 | 第２面 遺構外 | かわらけ | (7.3) | (5.7) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質の良土 c.橙色 e.良好 |
| 10-21 | 〃 | かわらけ | (7.5) | (5.3) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 10-22 | 〃 | かわらけ | (12.6) | (7.6) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 10-23 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (6.7) | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 10-24 | 〃 | かわらけ | (13.3) | (7.3) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 口径が大きめの薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 10-25 | 〃 | 常滑 甕 | 底部片 | | | a.輪積技法 外底粗砂目底 b.灰黒色 長石粒 黒色粒 砂粒 c .器表:茶褐色 d.自然降灰 |
| 10-26 | 〃 | 常滑 甕 | 胴部片　厚さ1.1 | | | a.輪積技法 b.灰黒色 砂粒 長石粒 c .器表:茶褐色 |
| 10-27 | 〃 | 瓦質火鉢 | 口縁部片 | | | a.輪積技法　b.灰白色 黒色微砂 小石粒 砂質粗土　c .外面:灰黒色 内面:灰白色 e.良好 |
| 10-28 | 〃 | かわらけ円盤 | 径3.8×厚さ0.6 | | | a.ロクロ成形のかわらけ底部を転用して円形に打ち欠いたのち磨り加工を施したもの f.外底面・側面磨り加工 |
| 15-　1 | 第３面 土坑１ | かわらけ | (12.3) | (7.2) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.淡橙色 e.良好 |
| 15-　2 | 第３面 土坑２ | かわらけ | (10.9) | (5.9) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な内湾した器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 15-　3 | 〃 | かわらけ | (7.9) | (5.0) | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質土 c.黄橙色 e.不良 |
| 15-　4 | 第３面 土坑３ | かわらけ | (7.8) | (5.2) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁で背低い器形 b.微砂やや多め 海綿骨芯赤色粒 砂質気味やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 15-　5 | 第３面 土坑４ | かわらけ | (10.8) | (6.7) | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味粗土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 15-　6 | 〃 | かわらけ | (10.6) | (5.8) | 3.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な内湾した器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 15-　7 | 〃 | かわらけ | 12.8 | 7.4 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.淡橙色 e.良好 |
| 15-　8 | 〃 | かわらけ | (12.8) | (7.1) | 3.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁背高気味の器形 b.微砂やや多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味粗土 c.黄橙色 e.不良 |
| 15-　9 | 第３面 土坑６ | かわらけ | (7.8) | (5.8) | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好 |
| 15-10 | 〃 | かわらけ | 8.1 | 5.9 | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 やや厚手器壁で背低気味の器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好 |
| 15-11 | 第３面 P-2 | かわらけ | (7.6) | (5.0) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 15-12 | 第３面 P-5 | かわらけ片円盤 | 径2.2×厚さ0.6 | | | a.ロクロ成形のかわらけ底部片を転用して円盤状に磨り加工を施したもの b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 15-13 | 第３面 土塁状遺構 | かわらけ | 7.7 | 5.6 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手気味器壁で背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.不良 |
| 15-14 | 〃 | かわらけ | (10.2) | 5.7 | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質良土 c.黄橙色 e.不良 f.口縁部煤付着 灯明皿 |
| 15-15 | 〃 | 常滑 甕 | 底部片 | | | a.輪積技法 外底砂目底 b.黒灰色 石英粒・白色粒多め 砂質 c.器表:茶褐～黒灰色 e.堅緻 |
| 15-16 | 第３面遺構外 | かわらけ | (6.8) | (3.8) | 2.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手気味器壁で背高器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒　やや砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 15-17 | 〃 | かわらけ | (6.6) | (5.2) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背低い内湾した器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.黄褐色 e.やや不良 |
| 15-18 | 〃 | かわらけ | (7.4) | (5.9) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁 b. 微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 15-19 | 〃 | かわらけ | (7.3) | (4.2) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背低い器形 b.微砂やや多め 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質土 c.黄橙色　e.やや不良 |
| 15-20 | 〃 | かわらけ | (7.4) | (4.9) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質土 c.灰色 e.良好 再火で内面に気泡の抜けた小穴 f.内面強い被熱で発泡 かわらけ転用の坩堝 |
| 15-21 | 〃 | かわらけ | (7.4) | (5.9) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁 b. 微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 15-22 | 〃 | かわらけ | 7.7 | 5.5 | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.不良 |
| 15-23 | 〃 | かわらけ | (7.8) | (5.3) | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背低気味 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.不良 |
| 15-24 | 〃 | かわらけ | (7.9) | (6.4) | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 口径と底径比が小さな背低い器形 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 15-25 | 〃 | かわらけ | 10.5 | 5.9 | 2.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 15-26 | 〃 | かわらけ | (11.0) | (6.0) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な内湾した器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.橙色 e.良好 |
| 15-27 | 〃 | かわらけ | (10.8) | (6.5) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高い内湾した器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 15-28 | 〃 | かわらけ | (12.4) | (7.3) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背低い器形 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味やや粗土 c.橙色 e.良好 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 15-29 | 〃 | かわらけ | 12.3 | 7.2 | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂・赤色粒多め 海綿骨芯 土丹粒 砂質粗土 c.内面:灰褐色 外面:橙色 e.良好 |
| 15-30 | 〃 | かわらけ | 12.8 | 8.3 | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 底部やや厚手器壁で背高気味の器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味やや良土 c.黄橙色 e.良好 |

## 表４　遺物観察表（3）

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 15-31 | 第3面 遺構外 | かわらけ | (12.5) | (7.5) | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背低く内湾した器形 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 15-32 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (7.6) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な内湾した器形(薄手丸深) b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味やや良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 15-33 | 〃 | かわらけ | (12.9) | (9.7) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁で口径と底径比が少ない器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.不良 |
| 15-34 | 〃 | かわらけ加工品 | 底径 4.8 | | | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 破片であるが体部中位まで打ち欠いて粗く磨った成形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄褐色 e.不良 |
| 15-35 | 〃 | 白かわらけ | 底径 4.5 | | | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂質の良土 c.白色 e.良好 |
| 15-36 | 〃 | 常滑 甕 | 口縁部片 | | | a.輪積技法 b.灰黒色 長石粒 黒色粒 流文状の粘性 c.器表:茶褐色 e.硬質 f.常滑中野編年６ａ型式(13Ｃ後半か) |
| 15-37 | 〃 | 常滑 甕 | 胴部片 | | | a.輪積技法 b.灰色 長石粒 砂粒 黒色粒 流文状の粘性 c.器表:茶褐色 e.硬質 f.内面自然降灰 |
| 15-38 | 〃 | 常滑 甕 | 底部片 | | | a.輪積技法 外底砂目底 石粒の多い粗砂粒付着 b.灰黒色 長石粒 黒色粒 c.内底:暗茶褐色 外底:灰橙色 e.硬質 |
| 15-39 | 〃 | 瓦質火鉢 | 口縁部片 | | | c.内面:灰色 外面:灰黒色 |
| 15-40 | 〃 | かわらけ質土製品 | 口径 13.2 | | | a.ロクロ 口縁部が肥厚した形態で鉢形を呈す b.かわらけと同質 微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質土c.淡橙色 e.良好 f.香炉のような器系か |
| 15-41 | 〃 | 鞴 | 羽口片　残長7.0×外径(7.1)×内径(2.9) | | | a.円筒状で炉へ接続する片側がすぼまる 外面に暗灰褐色の溶融物付着 b.砂粒 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 ｃ.橙褐色 |
| 15-42 | 〃 | 砥石 | 残長6.9×幅3.5×厚さ0.5～0.9 | | | a.砥面:表裏２面 側面・端面はノコ状の切り離し痕 b.粘板岩質 f.京都鳴滝産 仕上砥 |
| 15-43 | 〃 | 鉄製品 釘 | 長さ11.8×幅0.45×厚さ0.3 | | | a.鉄製で鋳造の断面四角形 角釘あり |
| 16-1 | 第3面 溝1 | かわらけ | (7.6) | 5.0 | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 16-2 | 〃 | かわらけ | 7.7 | 5.2 | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好 |
| 16-3 | 〃 | かわらけ | (7.9) | 6.0 | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背低気味器形 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-4 | 〃 | かわらけ | 7.5 | 4.7 | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好 f.口縁部内外に煤付着 灯明皿 |
| 16-5 | 〃 | かわらけ | 7.3 | 4.5 | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや良土 c.黄橙色 e.良好　f.口縁部に煤付着 灯明皿 |
| 16-6 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 4.6 | 2.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.やや不良 |
| 16-7 | 〃 | かわらけ | 7.5 | 4.3 | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 16-8 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 4.2 | 2.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 16-9 | 〃 | かわらけ | (8.0) | 5.3 | 2.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-10 | 〃 | かわらけ | (7.4) | (4.2) | 2.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-11 | 〃 | かわらけ | 7.7 | 4.6 | 2.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 f.口縁部１ヶ所に煤付着 灯明皿 |
| 16-12 | 〃 | かわらけ | (7.8) | 4.4 | 2.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや砂質土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 16-13 | 〃 | かわらけ | 7.9 | 4.8 | 2.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部内外に煤付着 灯明皿 |
| 16-14 | 〃 | かわらけ | 7.9 | 4.7 | 2.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 やや良土 c.黄橙色 e.良好 f.口縁部に煤付着 灯明皿 |
| 16-15 | 〃 | かわらけ | (7.8) | (5.2) | 2.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 粉質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-16 | 〃 | かわらけ | (10.3) | 5.6 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂多い 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 c.橙色 e.良好 |
| 16-17 | 〃 | かわらけ | (10.5) | (5.7) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 体部薄手器壁 b.微砂多い 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.淡橙色 e.良好 |
| 16-18 | 〃 | かわらけ | 10.8 | 6.5 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-19 | 〃 | かわらけ | 10.7 | 6.4 | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味やや良土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 16-20 | 〃 | かわらけ | (10.7) | (5.7) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-21 | 〃 | かわらけ | (10.8) | 5.3 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-22 | 〃 | かわらけ | (10.9) | 6.0 | 2.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粉質土 c.橙色 e.良好 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 16-23 | 〃 | かわらけ | (11.0) | 6.3 | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 底部に比べ体部薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 f.体部外面と底部一部に煤状黒色物質付着 |
| 16-24 | 〃 | かわらけ | 10.8 | 6.2 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-25 | 〃 | かわらけ | (11.0) | (6.0) | 2.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粉質土 c.橙色 e.良好 |

## 表5　遺物観察表（4）

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 16-26 | 第3面 溝1 | かわらけ | 11.0 | 5.8 | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 16-27 | 〃 | かわらけ | (11.1) | 6.5 | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量 粉質気味良土 c.淡橙色 e.良好 |
| 16-28 | 〃 | かわらけ | (11.1) | 6.7 | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯多め 砂質土 c.淡橙色 e.良好 |
| 16-29 | 〃 | かわらけ | 11.3 | 6.1 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-30 | 〃 | かわらけ | (11.2) | 5.9 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-31 | 〃 | かわらけ | 11.3 | 6.0 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-32 | 〃 | かわらけ | (11.3) | (6.5) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 16-33 | 〃 | かわらけ | (11.3) | 6.4 | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 粉質の良土 c.黄橙色 e.やや不良 f.口縁部内外と外面体部下位～外底に煤状の黒質物質が付着 |
| 16-34 | 〃 | かわらけ | 11.4 | 6.1 | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-35 | 〃 | かわらけ | 11.5 | 6.3 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 16-36 | 〃 | かわらけ | 11.7 | 6.6 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量 やや良土 c.淡橙色 e.良好 f .外面の体部・底部で部分的に煤状の黒色物質が付着 |
| 16-37 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (7.0) | 3.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 やや薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 16-38 | 〃 | かわらけ | 12.5 | 6.3 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質の良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 16-39 | 〃 | かわらけ | 12.5 | 7.3 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕　厚手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-40 | 〃 | かわらけ | (12.9) | (7.0) | 3.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-41 | 〃 | かわらけ | (13.0) | 6.8 | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-42 | 〃 | かわらけ | (13.0) | 7.0 | 4.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-43 | 〃 | かわらけ | (13.0) | 7.0 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒少量含む やや良土 c.黄橙色 e.不良 |
| 16-44 | 〃 | かわらけ | (8.6) | (6.0) | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 雲母 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い |
| 16-45 | 〃 | かわらけ | 13.9 | 8.0 | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 14㎝近い大型口径で背高な器形 b.微砂・赤色粒やや多め海綿骨芯 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 16-46 | 〃 | かわらけ | 14.2 | 8.9 | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒　砂質気味やや粗土 c.淡橙色 e.良好 |
| 16-47 | 〃 | 龍泉窯系 青磁鎬蓮弁文碗 | 口縁部片 | | | b.灰色 黒色微砂含むが精良 d.薄灰緑色不透明 二次焼成で内外釉薬は白濁気味 e.堅緻 f.外面:鎬蓮弁文を片切彫 釉薬が白濁不透明で文様不鮮明 |
| 16-48 | 〃 | 瀬戸 卸皿 | — | (8.0) | — | a.ロクロ 外底回転糸切痕 内底へら状工具による卸目 b.黄色味の白灰色 精良土　d.内外面灰白色灰釉が斑にある e.堅緻 |
| 16-49 | 〃 | 常滑 甕 | 胴部片 | | | a.輪積技法 外面:ナデ成形痕 内面:指頭圧痕 ナデ成形痕 b.黒灰色 白色石粒多く含む 岩石質 c.茶灰色(器表) e.堅緻 |
| 16-50 | 〃 | 常滑 片口鉢 | 口縁～胴部片 | | | a.輪積技法 b.橙色 長石粒 砂粒 黒色粒多め c.茶褐色(器表) e.良好 f.内外面に斑の降灰 |
| 16-51 | 〃 | 黒縁皿 | (10.7) | — | — | a.ロクロ 薄手器壁 口唇部肥厚 b.灰白色 微砂多めで微細質土 c.口縁部内外面黒灰色 e.良好 |
| 16-52 | 〃 | 摩石 | 長径10.5×短径7.6×厚さ3.9 | | | 素材:水摩したような扁平な楕円礫 使用:両面に磨滅した磨面が認められ、下端周縁には痘痕状の敲打痕が残る |
| 16-53 | 〃 | 銅銭 | 外径2.5　内径1.8 | | | 元豊通宝 初鋳年 1078年 北宋 |
| 20- 1 | 第4面 土坑3 | 平瓦(女瓦) | 厚さ 2.0 | | | a.凹面:粗砂の離れ砂付着 凸面:横位 糸切痕 粗砂の離れ砂 b.砂粒 石粒 良土 c.灰色 e.良好 |
| 20- 2 | 第4面 土坑5 | かわらけ | 7.2 | 4.4 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好 f.外面体部に黒色物質付着 |
| 20- 3 | 〃 | かわらけ | 7.3 | 5.1 | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.黄橙色 e.不良 |
| 20- 4 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 5.5 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 20- 5 | 〃 | かわらけ | (7.5) | (4.6) | 1.75 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.不良 |
| 20- 6 | 〃 | かわらけ | 8.0 | 5.2 | 2.01 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 20- 7 | 〃 | かわらけ | (8.0) | (6.3) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背高な器形 口径と底径の比が小さい b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質土 c.橙色 e.良好 |
| 20- 8 | 〃 | かわらけ | 11.2 | 6.7 | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 20- 9 | 〃 | かわらけ | 11.0 | 6.5 | 3.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 20-10 | 〃 | かわらけ | 12.4 | 8.0 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |

## 表6　遺物観察表 (5)

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径 | 底径 | 器高 | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | (cm) | (cm) | (cm) | |
| 20-11 | 第4面 土坑5 | かわらけ | (12.5) | 8.0 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 c.橙色 e.良好 |
| 20-12 | 〃 | かわらけ | 13.2 | 7.8 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.不良 |
| 20-13 | 第4面 土坑10 | かわらけ | (7.5) | (5.3) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや不良 f.口唇部の一ヶ所に煤付着 灯明皿 |
| 20-14 | 〃 | 北部系 山茶碗 | 口縁部～体部片 | | | a.ロクロ 口縁部がわずかに外反し端部が少し肥厚気味 b.灰白色 精良土 e.良好 硬質 f.内面斑に降灰 北部系東美濃型 |
| 20-15 | 第4面 土坑11 | かわらけ | (12.8) | (8.2) | 3.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 やや背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.不良 |
| 20-16 | 第4面 溝1 | 常滑 甕 | 胴部片 厚さ1.0～1.2 | | | a.輪積技法 b.黒灰色 長石粒 砂粒 c.明茶色(器表) e.堅緻 |
| 20-17 | 第4面 溝3 | かわらけ | (7.8) | (4.9) | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 体部中位で強く屈曲する器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 20-18 | 第4面 P-2 | かわらけ | (7.7) | (6.0) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 20-19 | 第4面 P-3 | かわらけ | (12.7) | (7.7) | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 やや厚手器壁で背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 20-20 | 第4面 P-6 | かわらけ | 7.9 | 5.5 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 20-21 | 第4面 P-7 | かわらけ | (12.6) | (7.6) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 やや薄手器壁で背高気味 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 20-22 | 第4面 P-9 | かわらけ | 7.8 | 5.1 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.口唇部煤付着 灯明皿 |
| 20-23 | 第4面 P-11 | かわらけ | (16.8) | — | — | a.ロクロ 口径が18㎝近い大口径で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 20-24 | 第4面 P-14 | かわらけ | (7.7) | (5.2) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好 f.口縁部煤付着 灯明皿 |
| 20-25 | 第4面 P-16 | かわらけ | (11.4) | (6.8) | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 20-26 | 第4面 P-17 | 銅銭 | 外径2.5 内径2.0 | | | 開元通宝 初鋳年 621年 唐 |
| 20-27 | 〃 | 銅銭 | 外径2.4 内径1.9 | | | 聖宋通宝 初鋳年 1101年 北宋 |
| 21-28 | 第4面 遺構外 | かわらけ | 7.5 | 5.3 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 f.口唇部煤付着 灯明皿 |
| 21-29 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.1) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-30 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.1) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 21-31 | 〃 | かわらけ | 8.0 | 5.9 | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.不良 f.口唇部煤付着 灯明皿 |
| 21-32 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.2) | (1.6) | a.ロクロ 外底回転糸切痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質やや良土 c.黄灰色 e.不良 |
| 21-33 | 〃 | かわらけ | 7.9 | 5.4 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味良土 c.黄灰色 e.やや不良 |
| 21-34 | 〃 | かわらけ | (7.8) | (5.4) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 21-35 | 〃 | かわらけ | 8.0 | 5.5 | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好 f.口縁部煤付着 灯明皿 |
| 21-36 | 〃 | かわらけ | (7.1) | 5.0 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 小口径で背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質良土 c.黄灰色 e.やや不良 |
| 21-37 | 〃 | かわらけ | (7.3) | (4.7) | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕が細かい 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好 |
| 21-38 | 〃 | かわらけ | 7.7 | 6.4 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 口径と底径の比が少ない背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.やや不良 |
| 21-39 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 5.5 | 1.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背低い器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-40 | 〃 | かわらけ | (7.7) | 5.0 | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好 f.ノミ状の工具で削りや打欠きを口縁～体部に施す 一部煤付着灯明皿 |
| 21-41 | 〃 | かわらけ | 10.8 | 6.0 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-42 | 〃 | かわらけ | (10.6) | 6.4 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.淡橙色 e.良好 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21-43 | 〃 | かわらけ | 12.6 | 7.1 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-44 | 〃 | かわらけ | (12.6) | (7.9) | 4.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁で背高気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-45 | 〃 | かわらけ | (12.8) | (6.7) | 3.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 21-46 | 〃 | かわらけ | 12.8 | 8.1 | 3.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 やや厚手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 21-47 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (8.0) | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.口唇部煤付着 灯明皿 |
| 21-48 | 〃 | 白磁 小壺蓋 | 最大径 (6.5)<br>口径 (3.6) | | 1.25 | a.短頸小壺の蓋で型捺し作り b.灰味白色で精良緻密 e.堅緻 d.周縁～上面は青味灰白色不透明釉が薄く施釉,内面は露胎で赤みを帯びた鉄発色が薄く斑にみられる f.上面に輪花文と凸線の蓮華文を組合せた文様が型捺しで表されている |

## 表7　遺物観察表 (6)

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径<br>（cm） | 底径<br>（cm） | 器高<br>（cm） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21-49 | 第4面 遺構外 | 白磁 合子蓋 | (7.6) | — | (1.8) | a.外型捺作り b.白色 精良堅緻で結晶質なもの d.外面に灰味白色で半透明の釉を施す f.型捺しで外面に枝葉文を施文 |
| 21-50 | 〃 | 常滑 甕 | 口縁部片 | | | a.輪積み技法 b.灰黒色 長石粒 砂粒多め c.赤茶～灰黒色(器表) e.硬質 f.口縁部付近の内外に自然降灰 常滑中野編年6型式 |
| 21-51 | 〃 | 常滑 甕 | 口縁部片 | | | a.輪積み技法 b.灰色 長石粒 砂粒少量 粘質良胎 c.明茶色(器表) e.硬質 f.口縁部付近の内面に自然降灰 常滑中野編年6型式 |
| 21-52 | 〃 | 常滑 甕 | 肩部片 厚さ1.0～1.4 | | | a.輪積み技法 b.灰色 長石粒 砂粒 c.器表外面:明茶色 内面:灰黒色 e.硬質 f.外面に叩き目あり |
| 21-53 | 〃 | 常滑 甕 | 底部片 厚さ0.8～1.4 | | | a.輪積み技法 b.灰橙色 長石粒 砂粒 粘質気味 c.明茶～灰茶色(器表) e.良好 f.外底砂目底 |
| 21-54 | 〃 | 常滑 片口鉢 | 底部片 厚さ0.8～1.4 | | | a.輪積み技法 貼付高台で断面三角形 b.灰色 長石粒多め c.明茶色(器表) e.硬質 f.内面が使用により摩耗し滑らか |
| 21-55 | 〃 | 常滑 転用品 | 長さ9.2 幅6.7 | | | 常滑胴部片を転用したもの 破断面の下端を上端の一部に磨った痕跡を残すまた下端の内面器表に丸く研磨されている |
| 21-56 | 〃 | 常滑 転用品 | 長さ6.5 幅4.2 | | | 常滑甕胴部片を転用 下半の破断面部分に磨った痕跡がある |
| 21-57 | 〃 | 鉢形火鉢 | 口縁部片 | | | a.輪積み技法 口縁部が肥厚する鉢形の器形 内面ヘラ状のナデ調整 外面指頭圧痕と横位ナデ b.灰色 長石粒 砂粒 c.灰黒色(器表) e.良好だが、砂質分が多く焼き締りが甘い |
| 21-58 | 〃 | 鉢形火鉢 | 底部片 | | | a.輪積み技法 底部薄手で外面が砂目底を呈す b.橙色 微砂多め 赤色粒 白色粒 砂質粗土 c.明茶色(器表) e.不良 |
| 21-59 | 〃 | 平瓦(女瓦) | 厚さ 2.4 | | | a.端縁を幅広のヘラ削り施す 凹面:ナデ調整施す 凸面:X状の針格子叩き目やや粗い離れ砂が叩き締めで打ち込まれている b.砂粒 良土 c.灰色 |
| 21-60 | 〃 | 滑石加工品<br>スタンプ | 残存長7.2×幅4.1×高2.7<br>穿孔径0.9 | | | a.滑石鍋の鍔部分を転用した長方形状を呈す 背面の取手(鍔部)に径9㎜程の穿孔あり f.文様:笹竜胆風の植物文を陽刻で表現 |
| 21-61 | 〃 | 滑石加工品 | 残存長3.5×幅1.7<br>×厚(0.8) | | | f.石鍋の再加工品 鍔部片の一部を切断して削り加工を施したもの |
| 21-62 | 〃 | ガラス製品 | 口縁部小片 厚0.17 | | | c.濃青色 f.外面は銀化して黒ずんでいる 破断面は部分的に白色 |
| 21-63 | 〃 | 銅銭 | 外径2.4　内径1.8 | | | 紹聖元宝 初鋳年 1094年 北宋 |
| 25- 1 | 第5面 土坑1 | かわらけ | 12.9 | 8.4 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好 |
| 25- 2 | 第5面 土坑2 | 平瓦(女瓦) | 厚さ 2.3 | | | a.端縁を幅広のヘラ削り施す 凹面:ナデ調整施す 凸面:X状の針格子目叩き部分的に縦位ナデと布目痕がみられる 薄く離れ砂付着 側面・端面ともに1回のヘラ削り成形 b.微砂 黒色粒 白色流文状をみせる やや粉質良土 c.器表が灰黒色でくすべ状 f.端面に砂粒付着 乾燥時立てかけて付着したものとみられる |
| 25- 3 | 第5面 土坑3 | かわらけ | (7.8) | (5.4) | 2.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25- 4 | 第5面 土坑7 | かわらけ | 7.7 | 5.1 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25- 5 | 第5面 土坑7 | かわらけ | (11.6) | (6.4) | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質 良土気味 c.橙色 e.良好 |
| 25- 6 | 第5面 土坑8 | かわらけ | 7.5 | 5.2 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.やや不良 f.口縁部と体部下半に煤付着 灯明皿 |
| 25- 7 | 第5面 土坑9 | かわらけ | (7.5) | (5.3) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25- 8 | 第5面 溝1 | かわらけ | (7.5) | (4.8) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 25- 9 | 〃 | かわらけ | (7.8) | (4.9) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-10 | 〃 | かわらけ | (12.9) | 7.8 | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味(薄手丸深) b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 25-11 | 〃 | かわらけ | 13.2 | 7.8 | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 内壁面に強いロクロ目痕 厚手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-12 | 第5面<br>かわらけ溜り | かわらけ | (7.5) | (5.3) | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部内外面に煤付着 灯明皿 |
| 25-13 | 〃 | かわらけ | 7.3 | 5.0 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-14 | 〃 | かわらけ | 7.5 | 4.8 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 25-15 | 〃 | かわらけ | (7.7) | (5.5) | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25-16 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 5.2 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 25-17 | 〃 | かわらけ | (7.9) | (4.9) | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高気味 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 |
| 25-18 | 〃 | かわらけ | 8.0 | 5.5 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-19 | 〃 | かわらけ | 8.1 | 5.9 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.不良 f.口縁部に煤付着 灯明皿 |
| 25-20 | 〃 | かわらけ | 8.2 | 5.5 | 1.9 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-21 | 〃 | かわらけ | (7.5) | 5.4 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.橙色 e.良好 |

## 表８　遺物観察表（７）

（　）は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25-22 | 第５面 かわらけ溜り | かわらけ | 7.6 | 5.6 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-23 | 〃 | かわらけ | 7.7 | 5.4 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背低気味 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質粗土気味 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-24 | 〃 | かわらけ | 7.9 | 5.5 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁で背低気味 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質良土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-25 | 〃 | かわらけ | (7.8) | 4.3 | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 25-26 | 〃 | かわらけ | (7.6) | 4.9 | 1.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや良土 c.黄橙色 e.やや良好 f.口縁部内外に煤付着 灯明皿 |
| 25-27 | 〃 | かわらけ | 10.7 | 6.6 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好 |
| 25-28 | 〃 | かわらけ | (11.2) | 7.0 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-29 | 〃 | かわらけ | 10.9 | 5.7 | 3.0 | a.ロクロ 外底細かな糸切痕 薄手器壁で背高気味 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質良土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-30 | 〃 | かわらけ | 12.0 | 8.1 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部に薄く煤付着 灯明皿 |
| 25-31 | 〃 | かわらけ | 12.3 | 7.6 | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-32 | 〃 | かわらけ | (12.4) | 7.0 | 3.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-33 | 〃 | かわらけ | (12.5) | (8.2) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 ロクロ目痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-34 | 〃 | かわらけ | 12.7 | 7.0 | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-35 | 〃 | かわらけ | 12.8 | 6.8 | 3.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 薄手器壁で背高な器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質土 c.橙色 e.良好 |
| 25-36 | 〃 | かわらけ | 12.9 | 7.8 | 3.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質土 c.黄灰色 e.不良 |
| 25-37 | 〃 | かわらけ | 13.4 | 9.5 | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや不良 |
| 25-38 | 〃 | 龍泉窯系 青磁蓮弁文碗 | 口縁部片 | | | b.灰色 黒色微砂含むが緻密 d.灰緑色半透明 f.ロクロ 外面複蓮弁文片切彫 |
| 25-39 | 第５面 P-3 | かわらけ | (7.4) | (5.0) | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄灰色 e.やや不良 |
| 25-40 | 第５面 P-4 | かわらけ | (7.7) | (5.7) | 1.8 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-41 | 第５面遺構外 | かわらけ | 6.9 | 4.9 | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-42 | 〃 | かわらけ | 7.4 | 5.1 | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-43 | 〃 | かわらけ | 7.1 | 4.7 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-44 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 5.6 | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-45 | 〃 | かわらけ | (7.9) | (6.1) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-46 | 〃 | かわらけ | (7.6) | (4.9) | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好 |
| 25-47 | 〃 | かわらけ | 8.0 | 6.4 | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質良土 c.橙色 e.良好 |
| 25-48 | 〃 | かわらけ | (8.3) | (5.1) | 1.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好 |
| 25-49 | 〃 | かわらけ | (8.0) | (5.3) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-50 | 〃 | かわらけ | 8.2 | 5.3 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕　b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土　c.橙色　e.良好 |
| 25-51 | 〃 | かわらけ | (8.1) | (5.5) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-52 | 〃 | かわらけ | (10.9) | (6.1) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質良土 c.橙色 e.良好 f.口縁部にタール状の煤付着 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25-53 | 〃 | かわらけ | (11.7) | (7.6) | 3.5 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-54 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (8.8) | 3.3 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好 |
| 25-55 | 〃 | かわらけ | (13.3) | (11.4) | 3.3 | a.手づくね 外底指頭圧痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 25-56 | 〃 | 瀬戸 卸皿 | 口縁部 残存量2.6×3 | | | b.灰白色 砂粒 良土 d.灰白色 やや薄く施釉 e.良好 軟質 |
| 25-57 | 〃 | 常滑 片口鉢 | 口縁部 残存量5.4×8.4 | | | b.灰色 砂粒 白色粒多め c.灰色 |
| 25-58 | 〃 | 瓦質火鉢 | 口縁部片 残存量6.5×7 | | | b.灰色 砂粒 黒色微砂 雲母 c.灰色 |
| 25-59 | 〃 | 平瓦(女瓦)<br>八幡宮Ⅰ期 | 残存量9.4×8.3 厚さ2.1 | | | a.端面を一回のヘラ削り施す 凹面:布目痕無く前面に荒れ砂 凸面:X状の針格子叩き目 離れ砂が叩き締めで打ち込まれている b.良土 混入物無し c.灰白色 e.軟質気味 f.鶴岡八幡宮中世最下層共半瓦と同類(女瓦ⅡB類) |

## 表9　遺物観察表 (8)　　(　)は復元値

| 図番号 | 出土面・遺構 | 種別 | 口径 | 底径 | 器高 | a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | (cm) | (cm) | (cm) | |
| 25-60 | 第5面遺構外 | 鉄製品 釘 | 残存長 4.9 | | | |
| 25-61 | 〃 | 硯 | 残存量8.5×6.3 中央左側部片 | | | a.台形 b.頁岩 c.黒色 f.上面剥離が著しい 京都鞍馬 |
| 29- 1 | 第6面土坑7 | かわらけ | (7.1) | (4.4) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 29- 2 | 第6面遺構外 | かわらけ | (7.4) | (4.7) | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 29- 3 | 〃 | かわらけ | 7.6 | 5.1 | 1.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 良土 c.橙色 e.良好 |
| 29- 4 | 〃 | かわらけ | (8.0) | (5.5) | 1.6 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 29- 5 | 〃 | かわらけ | 7.8 | 5.2 | 2.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 |
| 29- 6 | 〃 | かわらけ | 8.1 | 6.5 | 1.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 29- 7 | 〃 | かわらけ | (11.6) | (7.6) | 3.4 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 29- 8 | 〃 | かわらけ | (12.5) | (6.6) | 3.7 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 29- 9 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (7.5) | 3.1 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 |
| 29-10 | 〃 | かわらけ | (12.7) | (9.0) | 3.0 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 |
| 29-11 | 〃 | かわらけ | (12.4) | (7.8) | 3.2 | a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内側底部辺りに墨痕のようなシミあり |
| 29-12 | 〃 | 平瓦(女瓦)<br>八幡宮Ⅰ期 | 残存量5.1×5.1<br>厚さ1.8～1.9 | | | a.凹面:布目痕 縦位ナデ 凸面:叩き目不明瞭 縦位ナデ b.灰白色 砂粒 黒色粒 小石粒 良土 c.灰白色 e.良好 |
| 29-13 | 〃 | 平瓦(女瓦)<br>永福寺Ⅱ期<br>D類 | 残存量6×7.3 厚さ2.1 | | | a.凹面:布目痕 丁寧に縦位ナデ 凸面:叩き目不明瞭 横位ナデ 離れ砂付着 b.灰白色 砂粒 黒色粒 良土 c.灰色 e.良好 |
| 29-14 | 〃 | 平瓦(女瓦) | 残存量9×6 厚さ2.1～2.2 | | | a.凹面:縦位ナデ 凸面:斜格子叩き目 ナデよりも摩耗してツルツルする b.灰白色 砂粒 小石粒 良土 c.灰色 e.良好 f.凹面に○如来○と文字が飛び出て印字 |
| 29-15 | 〃 | 鉄製品 釘 | 残存長10 厚さ0.7 | | | 全体が鉄分で凝固した汚れに覆われている |
| 29-16 | 〃 | 鉄製品 釘 | 長さ5.4 厚さ0.7 | | | 全体が鉄分で凝固した汚れに覆われている |

# 第四章　まとめ

発掘調査では概ね６時期の生活面に伴う遺構と遺物を確認しており、前章までにその調査概要を述べてきた。ここでは各面の遺構の変遷からⅠ～Ⅳ期の遺構群として大別区分して各期の概略を記してまとめにかえたい。

Ⅰ期遺構群 : 第６面　Ⅱ期遺構群 : 第５・４面　Ⅲ期遺構群 : 第３面　Ⅳ期遺構群 : 第２・１面

Ⅰ期遺構群は13世紀後半と考えられ、礎石建物や石切場が検出されているが、当該期における礎石建物の性格として寺院の可能性が推測される。この礎石建物が宝蓮寺伽藍の一部であったかは言及できないが、この地の谷戸開発の初期段階に寺院が展開することは、鎌倉市内の谷戸利用の様相を示す調査事例に共通するところであろう。また調査区北側で検出された石切場跡であるが、この石切場で採掘されたであ

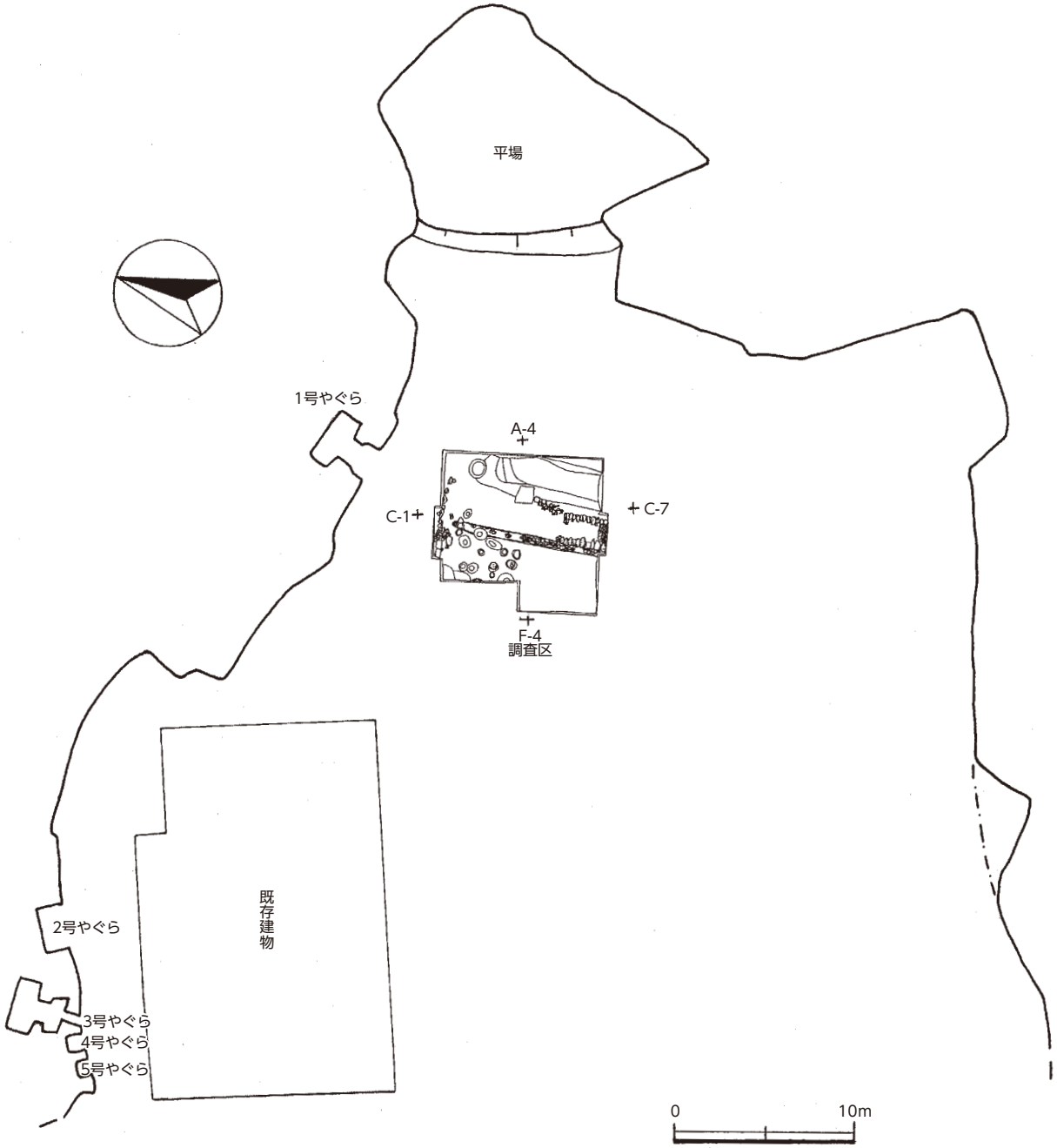



図３１　調査地遺構変遷図

ろう同じ石材の切石が、Ⅱ期遺構群に相当する第５面からも検出されている。このことは礎石建物と同時期に石切場が存在していたと考えるよりもⅠ期遺構群が、場の使われ方変化に伴い次のⅡ期遺構群へと移行する際に切石を採掘したと考えられよう。

Ⅱ期遺構群ではⅠ期遺構群に存在していた建物は廃絶したか、もしくは調査区外の場所へ移動した可能性が高く、場の使われ方が一変したことが窺える。しかし、Ⅲ期遺構群の時期に移行すると土塁状遺構や堀のような深い溝に代表されるように当調査地が宗教的な広い範囲の一部に使用されることになる。

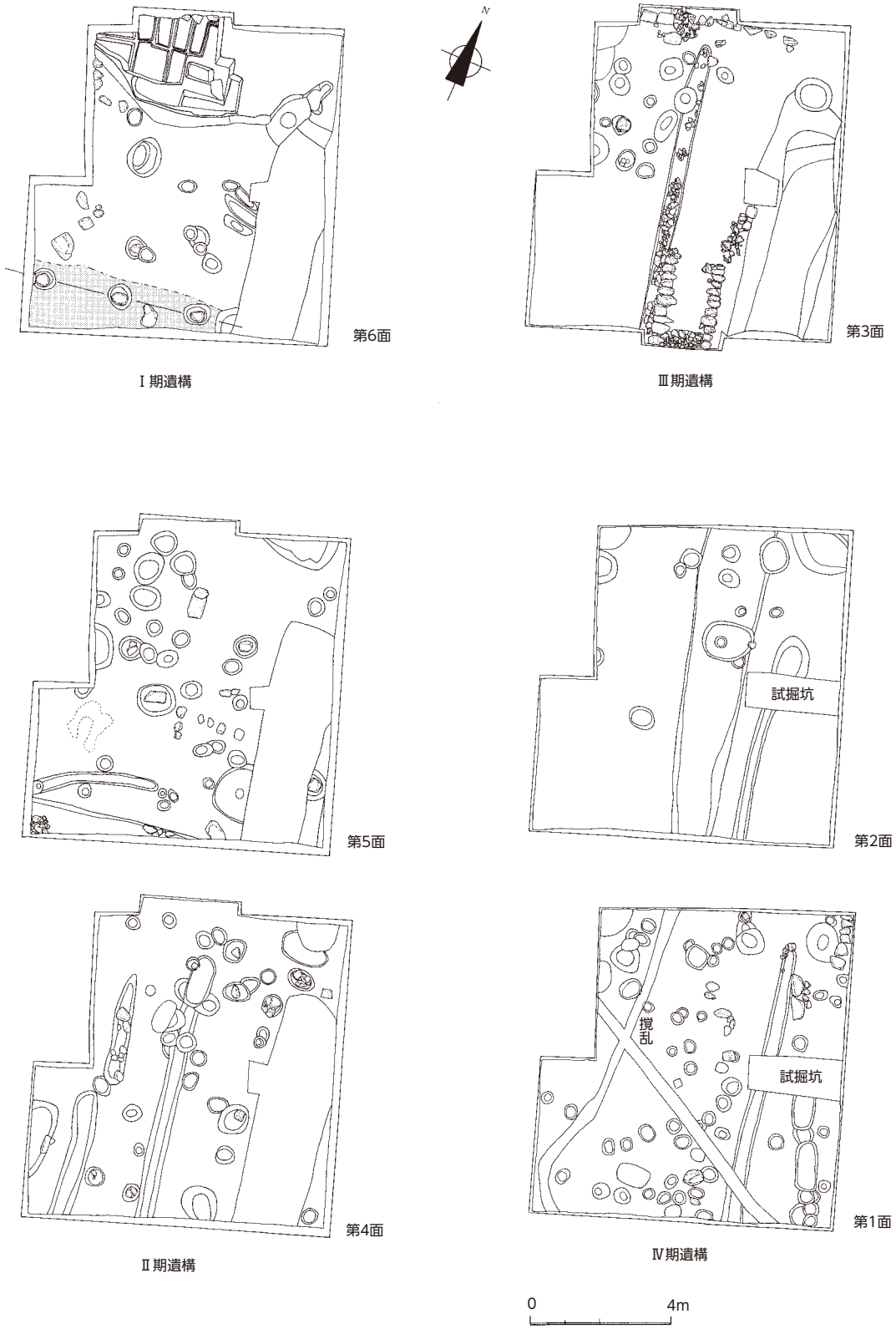



図３２　遺構変遷図

## 表10　遺物分類別出土数量・比率表

| 出土地<br>種　類 | | 1面 | 2面 | 3面 | 4面 | 5面 | 6面 | 個数 | 比率 (%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| かわらけ | ロクロ | 159 | 248 | 982 | 482 | 504 | 78 | 2453 | 87.48 |
| | 手捏ね | 2 | 0 | 0 | 0 | 15 | 0 | 17 | 0.61 |
| | 白 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 5 | 0.18 |
| 舶載陶磁器 | 青磁 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0.11 |
| | 青白磁 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.04 |
| 国産陶磁器 | 瀬戸 | 5 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 11 | 0.39 |
| | 常滑 | 25 | 22 | 58 | 59 | 24 | 1 | 189 | 6.74 |
| 土製品 | 瓦 | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 | 0 | 9 | 0.32 |
| | 火鉢 | 1 | 1 | 4 | 2 | 1 | 0 | 9 | 0.32 |
| | その他 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0.18 |
| 石製品 | 硯 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.04 |
| | その他 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0.07 |
| 金属製品 | 釘 | 0 | 0 | 10 | 8 | 5 | 4 | 27 | 0.96 |
| | 銭 | 0 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 7 | 0.25 |
| | 鉄滓 | 0 | 10 | 1 | 3 | 0 | 0 | 14 | 0.5 |
| | その他 | 0 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 8 | 0.29 |
| 自然遺物 | 骨 | 0 | 2 | 6 | 4 | 3 | 0 | 15 | 0.53 |
| | 炭 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0.07 |
| | 玉石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24 | 2 | 26 | 0.93 |
| 合計 | | 193 | 293 | 1079 | 567 | 586 | 86 | 2804 | |
| 比率 (%) | | 7 | 10 | 39 | 20 | 21 | 3 | | |

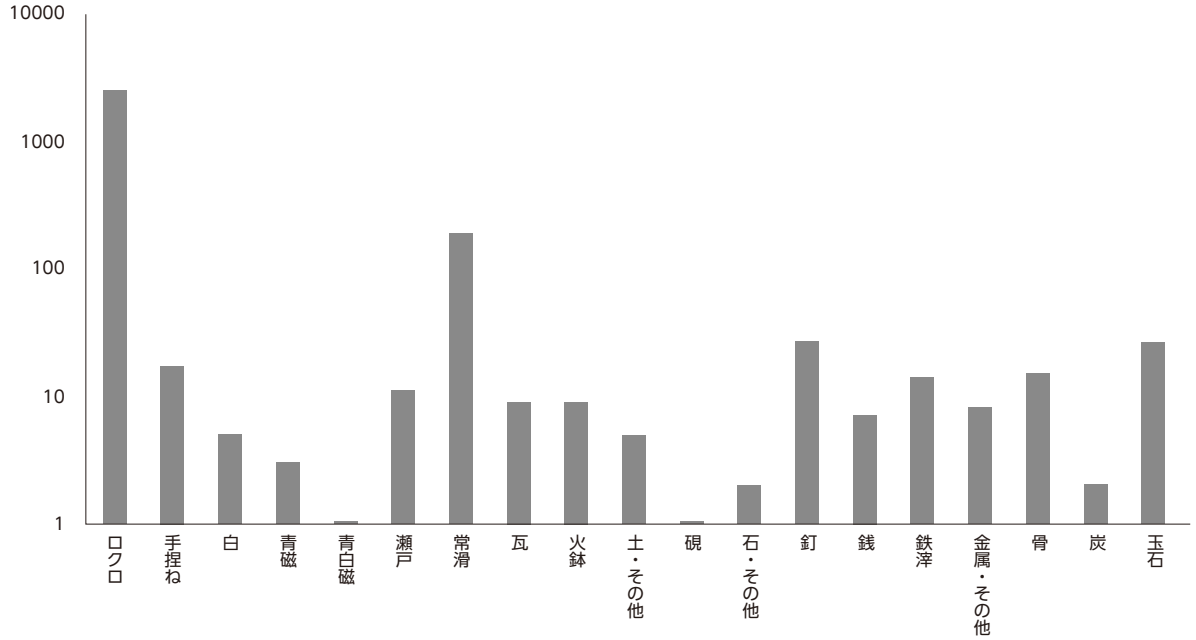


表11　各面の遺物分類表

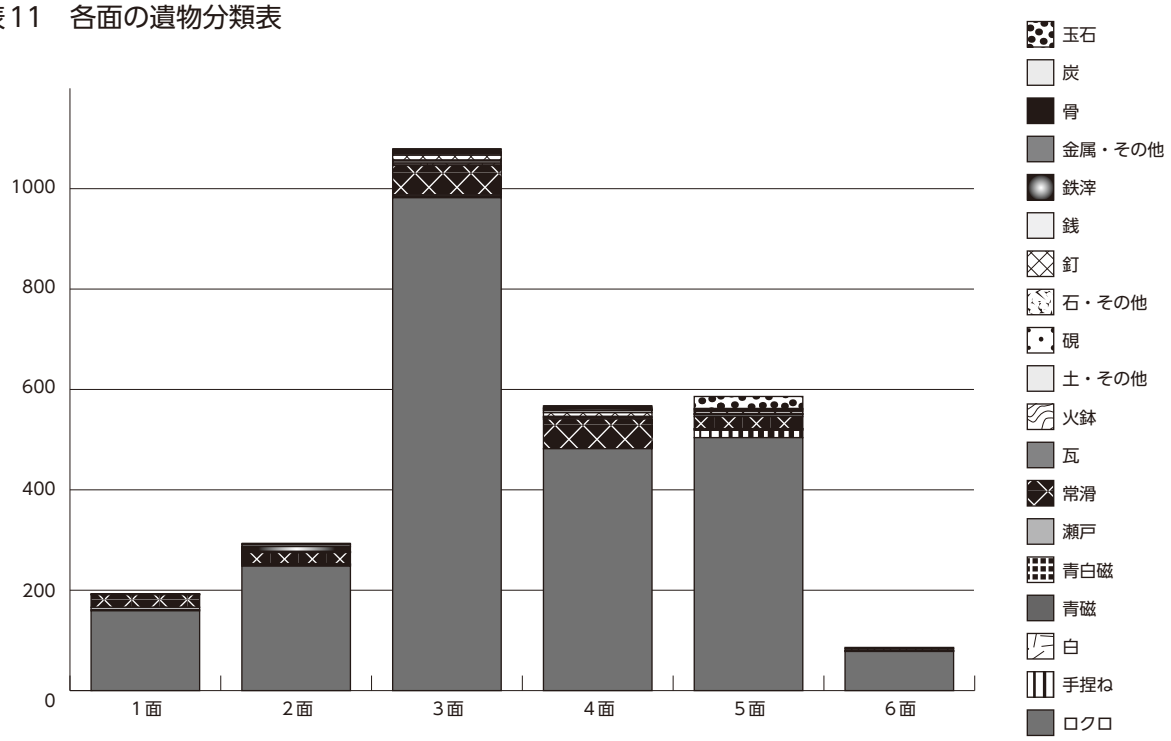



表12　第3面　溝1遺物分類別

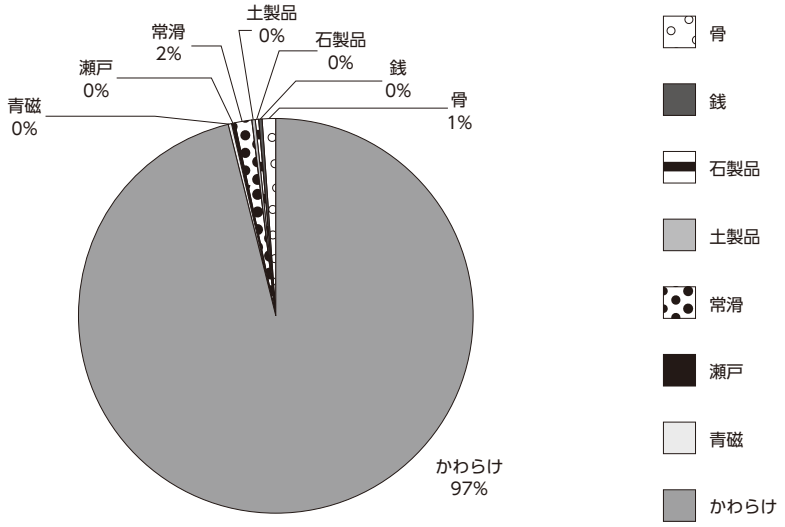
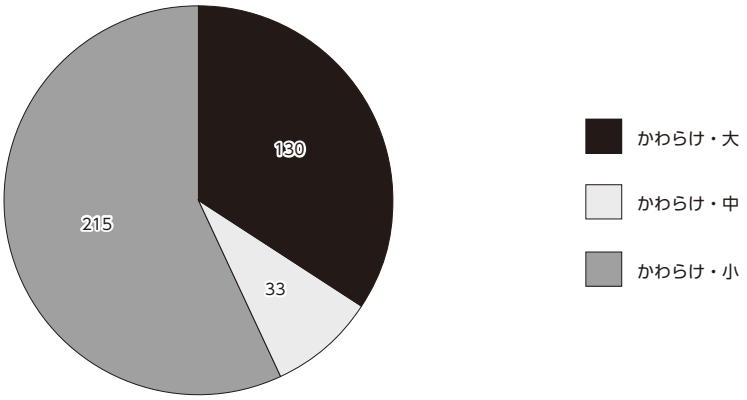



表13　第3面　溝1かわらけ器種別分類



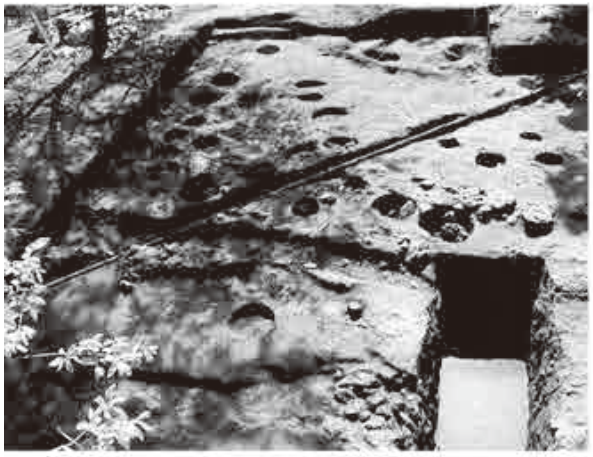
しかしながら第２・１面で次のⅣ期遺構群になると、大型の区画を示す遺構は廃絶されて確認されなくなる。出土遺物の中に鉄滓や鞴の羽口・坩堝に代表される鋳造関係の遺物が見られることから、この場の様相がかなり変化したしたことが想像できる。この場の使われ方が寺院伽藍から外れ位置になったものか、もしくはⅣ期遺構群の年代が想定される14世紀中頃までに寺院が衰退・廃絶したことも考えられよう。

ところで今回の発掘調査により寺院跡を思わせる宗教的な空間をⅠ期～Ⅲ期遺構群で捉えることができたが、これらの遺構が宝蓮寺であると確証できるものはない。図31の調査地遺構配置図で示したように調査地東奥の一段高く造成された平場は、その位置関係から３期遺構群の土塁状遺構と堀状の溝や北側山裾の切岸した崖面に確認された残りの良い３基のやぐらなど、その遺構配置から関連性が考えられる。いずれにしても今後の周辺の調査によりさらなる事実解明が進むことを期待したい。

図版1

△1.　重機による表土掘削風景

△2.　第1面全景（南から）



△3.　第1面全景南側（東から）

△4.　第1面全景北側（東から）

△5.　第1面西側（南から）

▷6.　溝1（南から）

△7.　土坑5土層堆積（東から）

▷8.　溝1遺物出土状況

◁1.　第２面全景（南から）

▷2.　第２面全景（東から）

▽3.　第２面西半部

▽4.　第２面南西部

図版３

◁1. 第３面全景（南から）

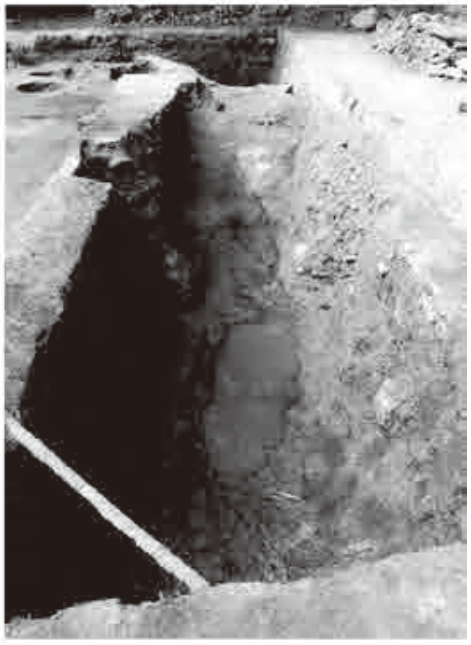
▷2. 第３面全景（北から）

◁3. 第３面全景（東から）

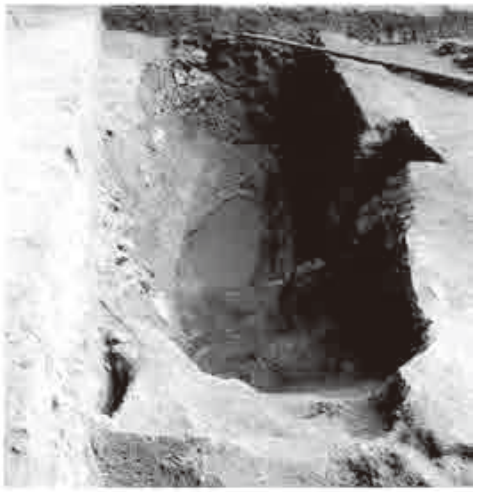
第3面

◁1. 土塁・溝1（南から）

▽2. 土塁・溝1（西から）



△3. 溝1（南から）



△4. 溝1（北から）

▽5. 溝1土層断面（調査区東壁）

▽7. 溝1骨出土状況

△6. 溝1土層断面（調査区南壁）

図版５

◁1. 第４面全景（南から）

▷2. 第４面全景（東から）

◁3. 第４面遺構（北から）

◁1. 第5面全景（南から）

▷2. 第5面遺構（北から）

◁3. 第5面全景（東から）

図版7

◁1. 第5面全景（西から）

▷2. かわらけ溜り（西から）

◁3. 第6面全景（南から）

△1.　第６面礎石列（西から）

△2.　同左（北西から）

△3.　石切場跡

△4.　トレンチ２

△5.　調査区南壁東端土層

△6.　調査区東壁土層（西から）

図版９

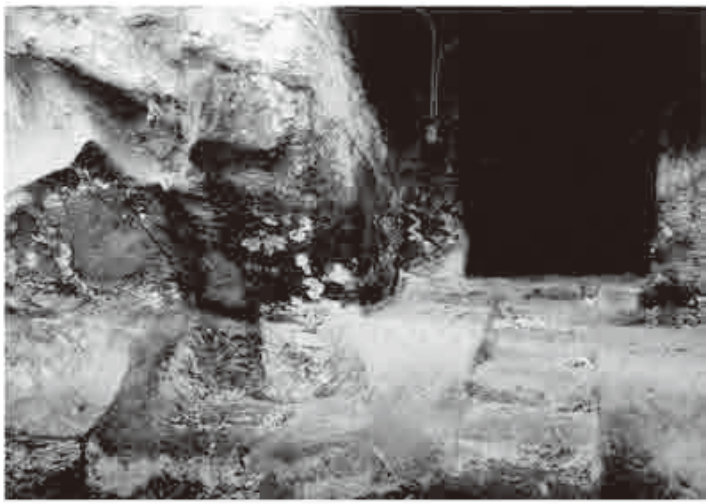
◁1.　2号～5号やぐら（東から）

※図32の調査地遺構・地形を参照されたい

△2.　3号やぐら

△4.　2号やぐら

▽3.　2号・4号やぐら



▽5.　平場（調査区東端奥の平場地形）

▼第１面

△土坑５

▽溝１

▽P13

▽１面遺構外

▼第２面

▽土坑２

▽土坑７

▽溝１

図版11

▽P2

10-14

10-15

△P3 10-16

△P4 10-17

△P7 10-18

▽２面遺構外

10-19

10-20

10-21

10-22

10-23

10-24

10-25

10-26

10-27

10-28

▼第３面

▽土坑１

15-1

15-2

15-3

△土坑３ 15-4

▽土坑４

15-5

15-7

15-6

15-8

△P2 15-11

▽土坑６

15-9

15-10

△P5 15-12

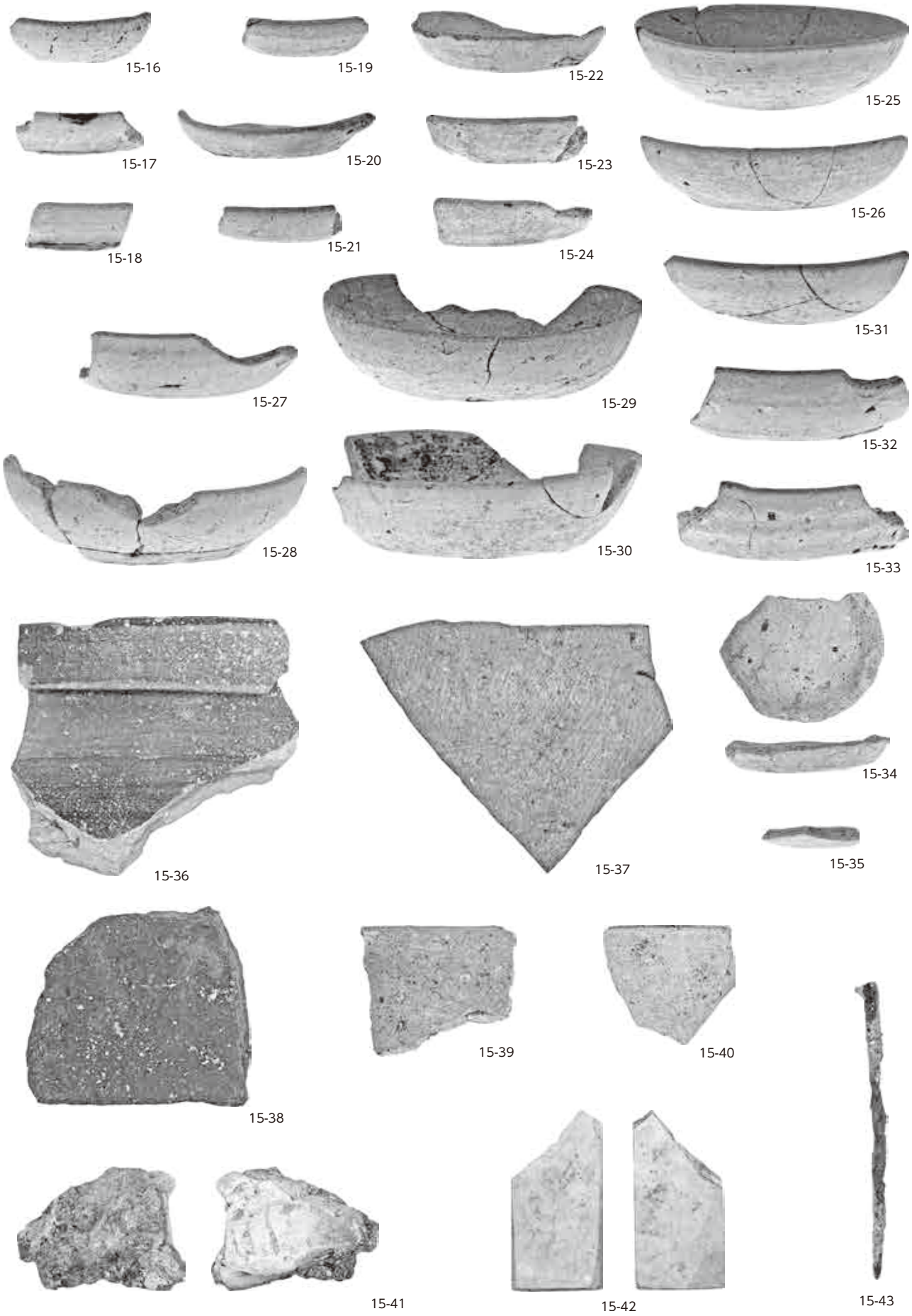
▽土塁遺構

15-13

15-14

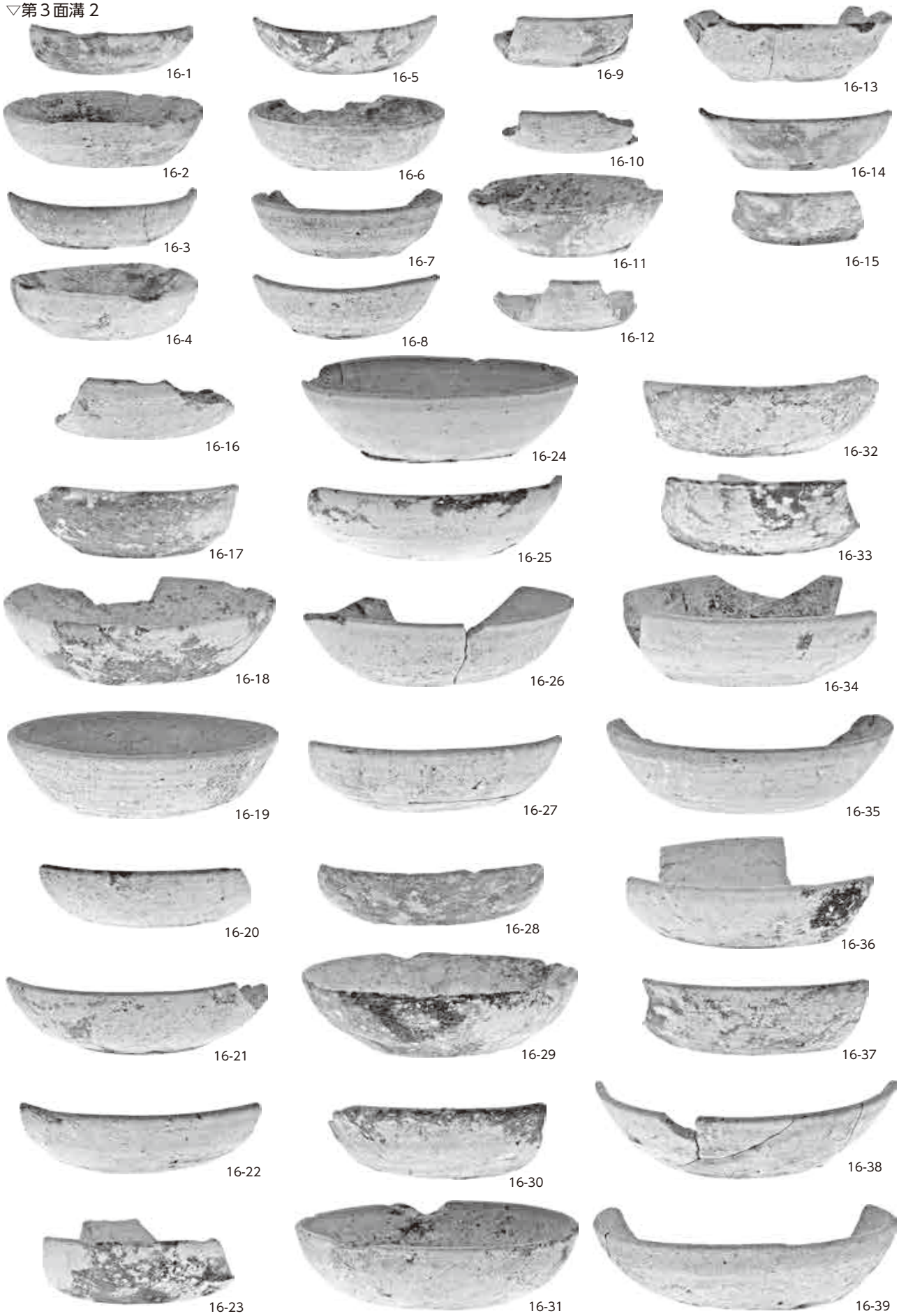
15-15

▽第３面遺構外


15-16
15-19
15-22
15-25
15-17
15-20
15-23
15-26
15-18
15-21
15-24
15-31
15-27
15-29
15-32
15-28
15-30
15-33
15-34
15-36
15-37
15-35
15-39
15-40
15-38
15-41
15-42
15-43

図版13

▽第３面溝２


16-1
16-5
16-9
16-13
16-2
16-6
16-10
16-14
16-3
16-7
16-11
16-15
16-4
16-8
16-12
16-16
16-24
16-32
16-17
16-25
16-33
16-18
16-26
16-34
16-19
16-27
16-35
16-20
16-28
16-36
16-21
16-29
16-37
16-22
16-30
16-38
16-23
16-31
16-39

▽第３面溝２

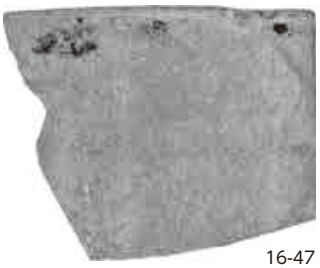
16-40

16-41

16-42

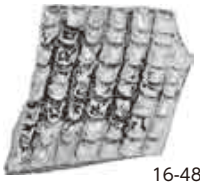
16-43

16-44

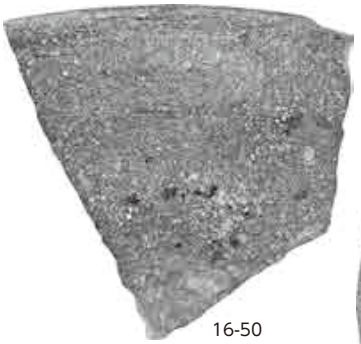

16-47

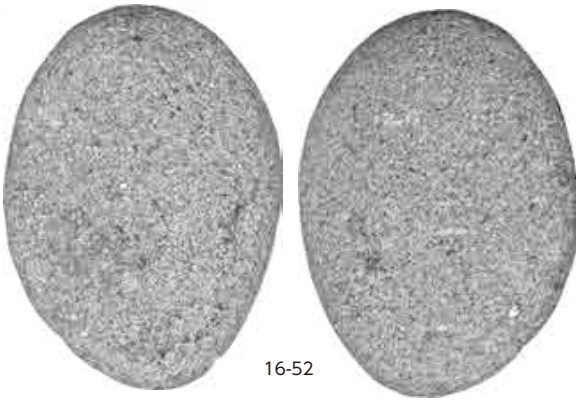
16-45

16-46


16-48

16-49


16-50


16-52

16-51

16-53

▼第４面

△土坑３　20-1

20-8

20-9

20-10

▽土坑５

20-2

20-5

20-11

20-3

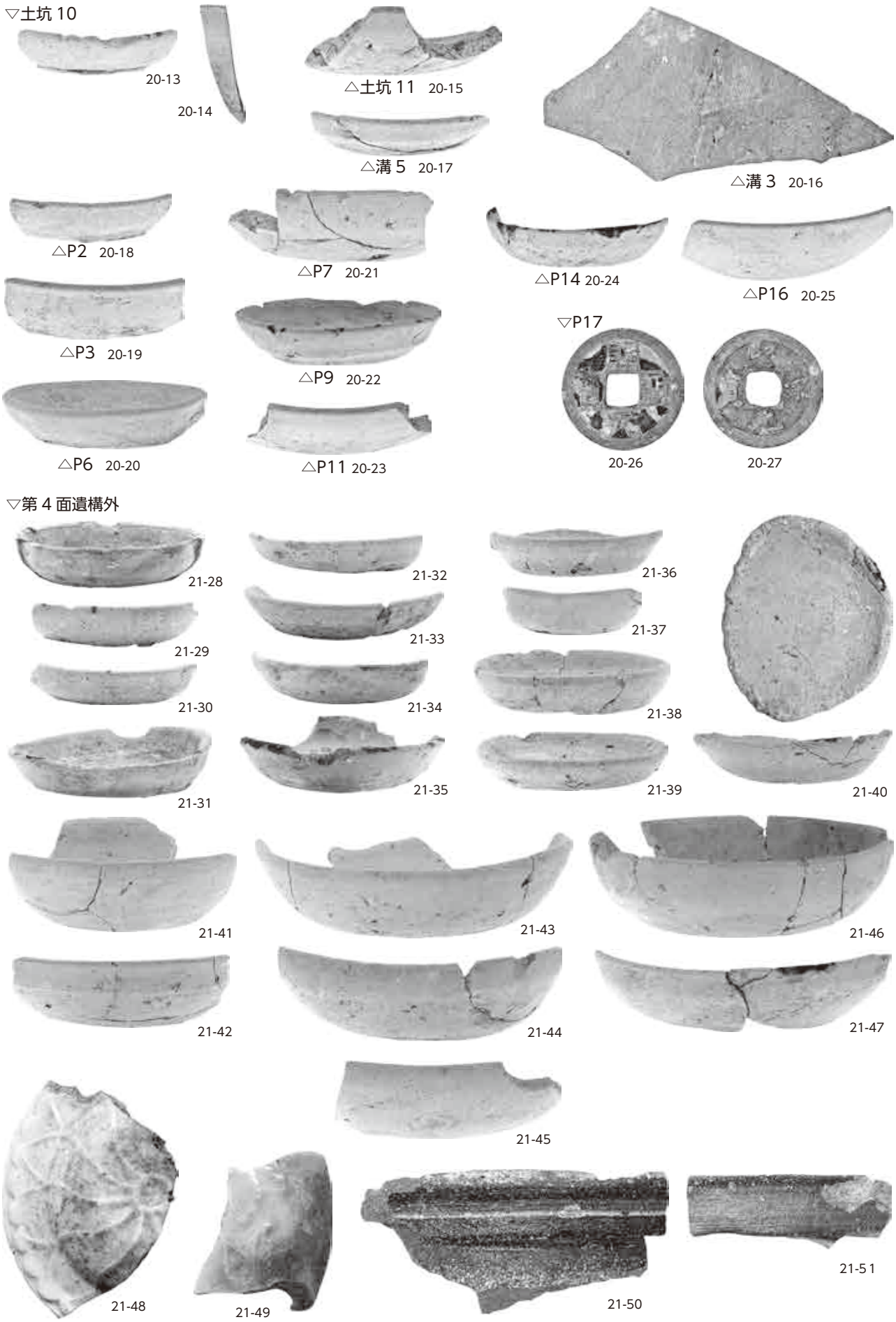
20-6

20-12

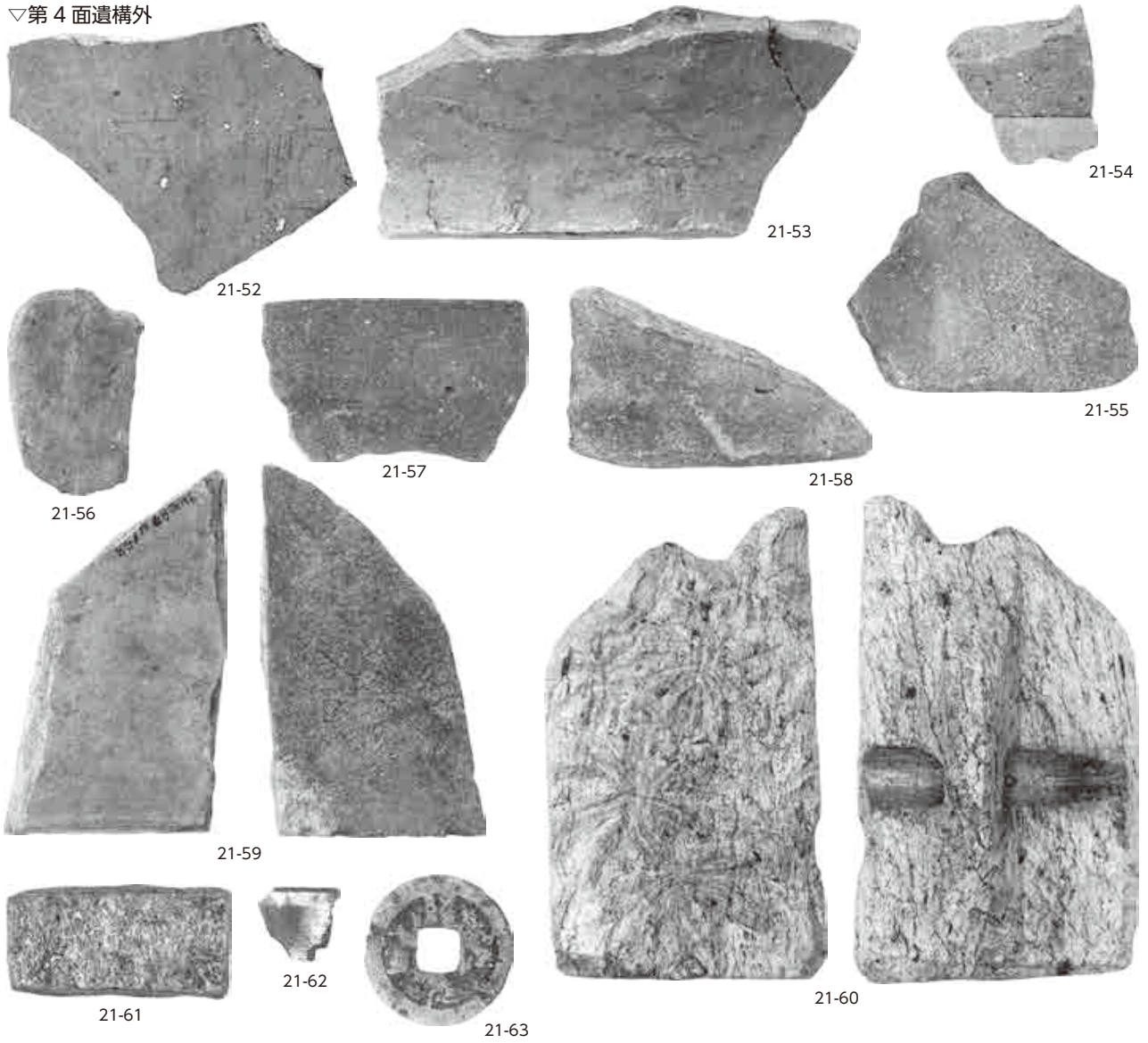
20-4

20-7

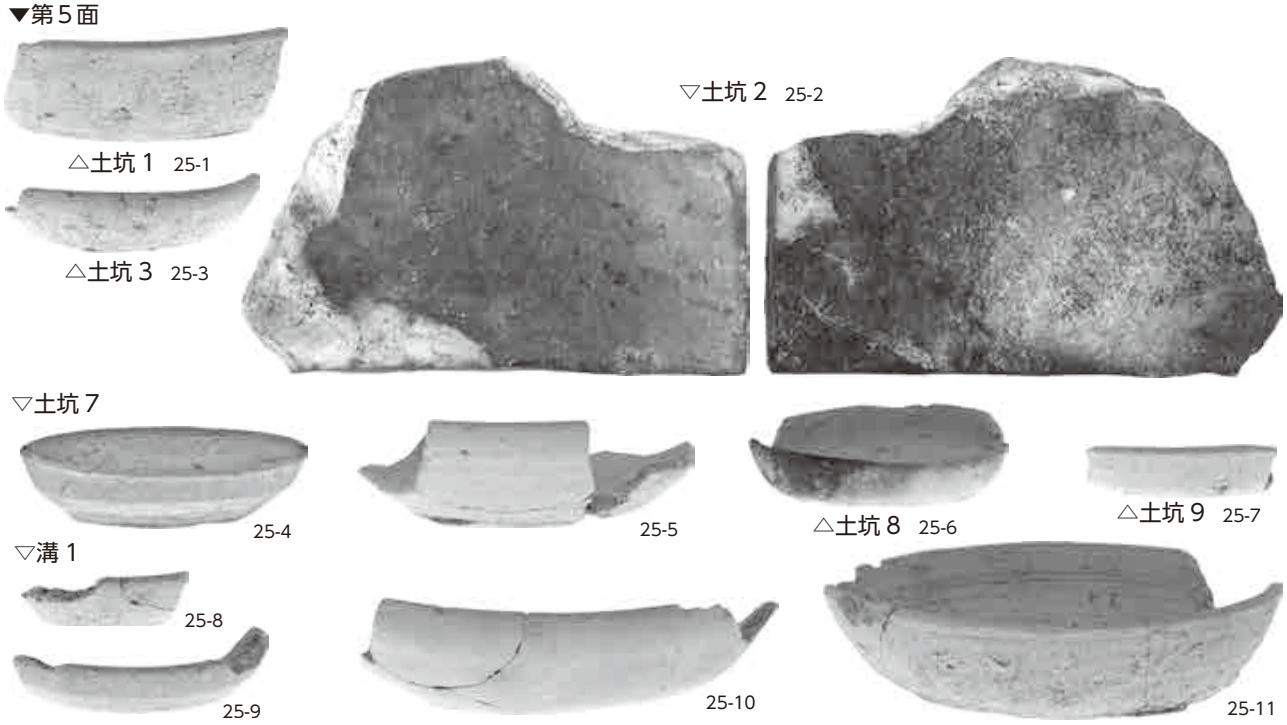
図版15


▽土坑 10
20-13
20-14
△土坑 11 20-15
△溝 5 20-17
△溝 3 20-16
△P2 20-18
△P7 20-21
△P14 20-24
△P16 20-25
△P3 20-19
△P9 20-22
▽P17
20-26
20-27
△P6 20-20
△P11 20-23
▽第 4 面遺構外
21-28
21-32
21-36
21-29
21-33
21-37
21-30
21-34
21-38
21-31
21-35
21-39
21-40
21-41
21-43
21-46
21-42
21-44
21-47
21-45
21-48
21-49
21-50
21-51

▽第４面遺構外

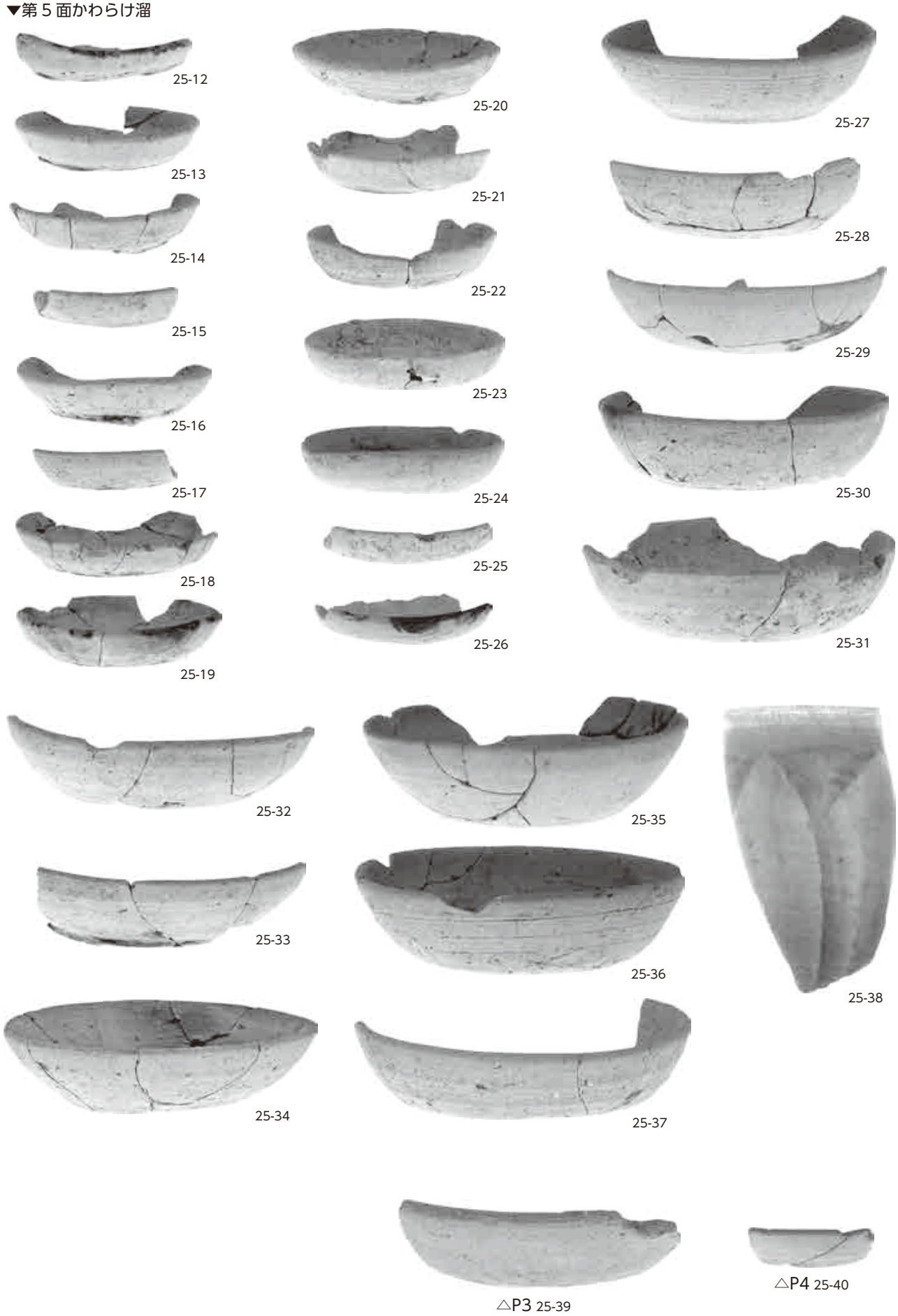

21-52
21-53
21-54
21-55
21-56
21-57
21-58
21-59
21-60
21-61
21-62
21-63

▼第５面


△土坑１ 25-1
△土坑３ 25-3
▽土坑２ 25-2
▽土坑７
25-4
25-5
△土坑８ 25-6
△土坑９ 25-7
▽溝１
25-8
25-9
25-10
25-11

図版17

▼第５面かわらけ溜



▼第５面遺構外

25-41

25-44

25-47

25-50

25-42

25-45

25-48

25-51

25-43

25-46

25-49

25-52

25-54

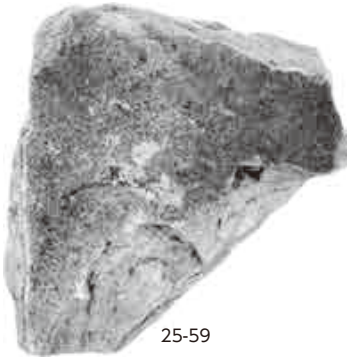
25-56

25-53

25-55

25-57

25-58


25-59

25-60

25-61

▼第６面

△土坑７　29-1

▼第６面遺構外

29-2

29-7

29-3

29-4

29-8

29-5

29-9

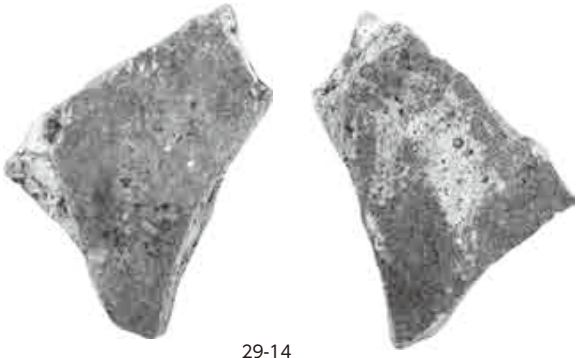
29-6

29-10

29-11

▼第６面遺構外

29-12



29-14

29-13

□
如
来

文字部分拡大

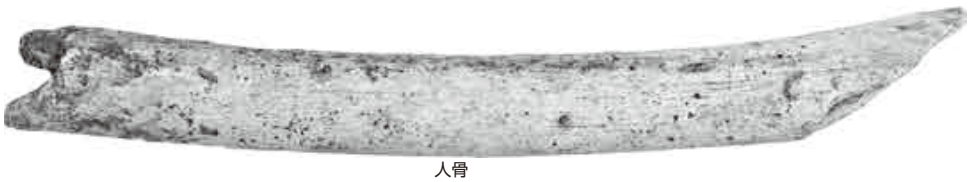
▼第３面土坑６

スラグ

▼第６面上　人骨（歯）

▼第３面溝１

獣骨



人骨